泊発電所 3 号炉 技術的能力 比較表 r. 4.0

赤字: 設備, 運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字: 記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)

## 1.4 原

原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却する。	泊発電所3号炉 技術的能力 比軸 ための手順等	交表 r. 4. 0 緑字: 記載表	現,設備名称の相違(実質的な相違な
大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
1.4.2.3 運転停止中の場合	1.4.2.3 運転停止中の場合		
運転停止中とは、1次冷却材温度177℃以下及び1次冷	運転停止中とは,1次冷却材温度 177℃未満,1次冷却		記載表現の相違
却材圧力 2.7MPa [gage] 以下で余熱除去設備により原子炉	材圧力 2.7MPa[gage]以下で余熱除去設備により原子炉を		Marie Control of the
を冷却している期間(すべての燃料が格納容器の外にある	冷却している期間(すべての燃料が格納容器の外にある場		
場合を除く。)とする。	合を除く。)とする。		1
運転停止中に余熱除去ポンプの故障等により余熱除去	運転停止中に余熱除去ポンプの故障等により余熱除去		1
設備が使用できない場合において、1 次冷却系が満水状態	設備が使用できない場合において,1 次冷却系統が満水状		1
であれば、蒸気発生器2次側による炉心冷却に期待する。	態であれば、蒸気発生器2次側による炉心冷却に期待す		1
	る。		1
1 次冷却系に開口部(加圧器逃がし弁、加圧器安全弁取	1 次冷却系統に開口部(加圧器逃がし弁,加圧器安全弁		1
外し中。)がある状態であれば、蒸散による炉心冷却に期	取り外し中) がある状態であれば, 蒸散による炉心冷却に		1
待する。	期待する。		1
運転停止中におけるミッドループ運転中とは、燃料を取	運転停止中におけるミッドループ運転中とは, 燃料を取		1
り出す前に1次冷却系を水抜きし、1次冷却材配管中心付	り出す前に1次冷却系を水抜きし,1次冷却材配管中心付		1
近(ノズルセンター)まで低下させた状態をいう。	近(ノズルセンター)まで低下させた状態をいう。		1
なお、原子炉キャビティが高水位の状態においては、燃	なお,原子炉キャビティが高水位の状態においては,燃		1
料取替用水ピットから原子炉へ注水する水量は限定され	料取替用水ピットから原子炉へ注水する水量は限定され		1
るが、原子炉キャビティに保有水があることから、早期に	るが, 原子炉キャビティに保有水があることから, 早期に		1
原子炉へ注水する必要はない。蒸散に伴う1次冷却系の保	原子炉へ注水する必要はない。蒸散に伴う1次冷却系の保		
有水低下後は、格納容器再循環サンプに水位があることを	有水減少後は、格納容器再循環サンプに水位があることを		記載表現の相違
確認し、低圧再循環運転又は高圧再循環運転を実施する。	確認し、高圧再循環運転又は代替再循環運転を実施する。		1
また、格納容器内への蒸散に伴い、格納容器内の環境が	また,格納容器内への蒸散に伴い,格納容器内の環境が		1
悪化することから、格納容器内の作業員を退避させる。	悪化することから、格納容器内の作業員を退避させる。		1
これらの対応手順を以下に示す。	これらの対応手順を以下に示す。		
(1) フロントライン系機能喪失時の手順等	(1) フロントライン系機能喪失時の手順等		
a. 炉心注水	a. 炉心注水		1
(a) A、B充てんポンプによる炉心注水	(a) 充てんポンプによる炉心注水		設備の相違 (差異理由①)
運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故	運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故		
障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合、充てんポンプ	<b>障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合、充てんポンプ</b>		1
により燃料取替用水ピット水を原子炉に注水する手順を	により燃料取替用水ピット水を原子炉へ注水する手順を		1
整備する。	整備する。		1
充てんポンプの水源として燃料取替用水ピットが使用			設備の相違 (差異理由①)
できない場合は、復水ピットを使用する。			
また、ほう酸ポンプ、ほう酸タンク、1次系補給水ポン	また、ほう酸ポンプ、ほう酸タンク、1次系補給水ポン		1
プ及び1次系純水タンクが健全であれば、代替水源として	プ及び1次系純水タンクが健全であれば、代替水源として		1
使用できる。	使用できる。		1
			1
i . 手順着手の判断基準	i . 手順着手の判断基準		
運転停止中に余熱除去ポンプの故障等により、余熱除去	運転停止中に余熱除去ポンプの故障等により、余熱除去		1
設備の崩壊熱除去機能が喪失し、原子炉への注水を余熱除	設備の崩壊熱除去機能が喪失し,原子炉への注水を低圧注		]
去流量等にて確認できない場合に、原子炉へ注水するため	入流量等にて確認できない場合において,原子炉へ注水す		And the second of the second
に必要な燃料取替用水ピット等の水位が確保されている	るために必要な燃料取替用水ピット水位が確保されてい		設備の相違 (差異理由①)
場合。	る場合。		

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
ii. 操作手順	ii. 操作手順		
運転停止中の充てんポンプによる炉心注水手順の概要	運転停止中の充てんポンプによる炉心注水手順の概要		
は以下のとおり。概略系統を第1.4.5 図に示す。	は以下のとおり。概略系統を第1.4.5図、第1.4.24図に示		記載方針の相違
	す。		・泊3号炉は、多様性拡張設備であるほう
	7 0		酸タンク及び1次系純水タンクを水源
			として使用する場合の概略系統を第
			1.4.24 図に整理している。
			1. 4. 24 MICHAEL C CV. 5.
<ul><li>① 当直課長は、手順着手の判断基準に基づき運転員等に</li></ul>	   ① 発電課長(当直)は、手順着手の判断基準に基づき、		
充てんポンプによる原子炉への注水を指示する。	軍転員に充てんポンプによる原子炉への注水準備と系		記載表現の相違
元(んホン)による原子がへの往水を指示する。			記載を売り作理
	統構成を指示する。		alter delts who will are deer toda.
② 運転員等は、中央制御室で充てんポンプ水源を体積制	② 運転員は、中央制御室で充てんポンプによる原子炉へ		記載表現の相違
御タンクから燃料取替用水ピットへ切り替え、原子炉へ	の注水の系統構成を行う。		
の注水のための系統構成を実施する。			
	③ 発電課長(当直)は、充てんポンプによる原子炉への		記載表現の相違
	注水が可能となれば、注水開始を指示する。		
③ 運転員等は、充てんポンプが運転していない場合は、	④ 運転員は、中央制御室で充てんポンプを起動し、充て		記載表現の相違
中央制御室で充てんポンプを起動後、充てん流量制御弁	ん流量制御弁を開操作し充てんポンプによる注水を行		
を開操作し、充てんによる注水を行う。	う。		
④ 運転員等は、中央制御室で1次冷却材温度、充てん水	⑤ 運転員は、中央制御室にて1次冷却材温度や充てん流		記載表現の相違
流量等により原子炉の冷却及び充てんポンプの運転状	量等により原子炉の冷却及び充てんポンプの運転状態		
態に異常がないことを継続して確認する。また、冷却状	に異常がないことを継続して確認する。また,冷却状態		
態が維持できない場合は、溢水させフィードアンドブリ	が維持できない場合は, 溢水させフィードアンドブリー		
ードとする。	ド運転とする。		
iii. 操作の成立性	iii. 操作の成立性		
充てんポンプによる原子炉への注水は、中央制御室から	上記の対応は,中央制御室にて運転員1名で実施する。		記載方針の相違 (差異理由④)
の遠隔操作が可能である。	操作については、中央制御室で通常の運転操作により対		
	応する。		
(b) 高圧注入ポンプによる炉心注水	(b) 高圧注入ポンプによる炉心注水		
運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故	運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故		
障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合に、高圧注入ポ	障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合,高圧注入ポン		
ンプにより燃料取替用水ピット水を原子炉に注水する手	プにより燃料取替用水ピット水を原子炉に注水する手順		
順を整備する。	を整備する。		
i . 手順着手の判断基準	i . 手順着手の判断基準		
運転停止中に充てんポンプの故障等により、原子炉への	充てんポンプの故障等により, 原子炉への注水を充てん		記載表現の相違
注水を充てん水流量等にて確認できない場合において、原	流量等にて確認できない場合に,原子炉へ注水するために		
子炉へ注水するために必要な燃料取替用水ピット水位が	必要な燃料取替用水ピット水位が確保されている場合。		
確保されている場合。			
<u> </u>			

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)

緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

ための手順等 泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
ü. 操作手順		
運転停止中の高圧注入ポンプによる炉心注水手順の概		
要は以下のとおり。概略系統を第1.4.45図に示す。		
<ol> <li>発電課長(当直)は、手順着手の判断基準に基づき、</li> </ol>		and the control of th
運転員に高圧注入ポンプによる原子炉への注水を指示		記載表現の相違
する。		
② 運転員は、中央制御室にて高圧注入ポンプによる炉心		
注水の系統構成を行う。		
③ 運転員は、中央制御室にて高圧注入ポンプを起動し、		
原子炉への注水を開始し、高圧注入流量等により原子炉		記載表現の相違
への注水が確保されたことを確認する。		300 TO 100 TO 10
④ 運転員は、中央制御室にて1次冷却材温度や高圧注入		記載表現の相違
流量等により原子炉の冷却及び高圧注入ポンプの運転		
状態に異常がないことを継続して確認する。また、冷却		
状態が維持できない場合は, 溢水させフィードアンドブ		
リード運転とする。		
40 /km - A - Lul		
		2740 de 01 o de 24 (44 H 28 de 02)
		記載方針の相違 (差異理由④)
心する。		
		設備の相違 (差異理由⑨)
		BONN - INCL. (III)
	ii.操作手順 運転停止中の高圧注入ポンプによる炉心注水手順の概要は以下のとおり。概略系統を第1.4.45 図に示す。 ① 発電課長(当直)は、手順着手の判断基準に基づき、運転員に高圧注入ポンプによる原子炉への注水を指示する。 ② 運転員は、中央制御室にて高圧注入ポンプによる炉心注水の系統構成を行う。 ③ 運転員は、中央制御室にて高圧注入ポンプを起動し、原子炉への注水を開始し、高圧注入ポンプを起動し、原子炉への注水が確保されたことを確認する。 ④ 運転員は、中央制御室にて1次冷却材温度や高圧注入流量等により原子炉への注水が確保されたことを確認する。 4 運転員は、中央制御室にて1次冷却材温度や高圧注入流量等により原子炉の冷却及び高圧注入ポンプの運転状態に異常がないことを継続して確認する。また、冷却状態が維持できない場合は、溢水させフィードアンドプ	ii.操作手順 運転停止中の高圧注入ポンプによる炉心注水手順の概 要は以下のとおり。概略系統を第1.4.45 図に示す。 ① 発電課長(当直)は、手順着手の判断基準に基づき、運転員に高圧注入ポンプによる原子炉への注水を指示する。 ② 運転員は、中央制御室にて高圧注入ポンプによる炉心注水の系統構成を行う。 ③ 運転員は、中央制御室にて高圧注入ポンプを起動し、原子炉への注水を開始し、高圧注入流量等により原子炉への注水が確保されたことを確認する。 ④ 運転員は、中央制御室にて「液量等により原子炉、水流量等により原子炉の冷却及び高圧注入ポンプの運転状態に異常がないことを継続して確認する。また、冷却状態が維持できない場合は、流水させフィードアンドブリード運転とする。  iii.操作の成立性 上記の対応は、中央制御室にて運転員1名で実施する。操作については、中央制御室で通常の運転操作により対

なし)

#### 1.4 质

	泊発電所 3 号炉 技術的能力 比	較表 r.4.0	青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相縁字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違な
原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却する	ための手順等		除了, 配製収免, 欧洲石が▽/旧連 (天真ロ)な行連な
大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
次冷却系の水位上昇により注水状態に異常がないこと			
を継続して確認する。また、冷却状態を維持するために			
継続的に原子炉への注水ができる手段を確保する。			
ii. 操作の成立性			
上記の対応は中央制御室にて 1 ユニット当たり運転員			
等1名、現場にて1ユニット当たり運転員等1名により作			
業を実施し、所要時間は約15分と想定する。			
円滑に作業ができるように、移動経路を確保し、可搬型			
照明、通信設備等を整備する。作業環境の周囲温度は通常			
運転状態と同程度である。			
b. 代替炉心注水	b . 代替炉心注水		
(a) 燃料取替用水ピットからの重力注水による代替炉心	(a) 燃料取替用水ピットからの重力注水による代替炉心		
注水	注水		
運転停止中のミッドループ運転中において、余熱除去設	運転停止中のミッドループ運転中において, 余熱除去設		
備である余熱除去ポンプの故障等により崩壊熱除去機能	備である余熱除去ポンプの故障等により崩壊熱除去機能		
が喪失した場合、燃料取替用水ピットからの重力注水によ	が喪失した場合,燃料取替用水ピットからの重力注水によ		
り燃料取替用水ピット水を原子炉へ注水する手順を整備	り燃料取替用水ピット水を原子炉へ注水する手順を整備		

する。

なお、燃料取替用水ピットの重力注水は燃料取替用水ピ ットの水頭圧を利用するため、燃料取替用水ピットの水位 が低下した場合は、重力注水を停止する。

(添付資料 1.4.19)

#### i . 手順着手の判断基準

高圧注入ポンプの故障等により、原子炉への注水を高圧 注入流量等にて確認ができない場合に、原子炉へ注水する ために必要な燃料取替用水ピットの水位が確保されてい る場合。

#### ii. 操作手順

運転停止中の燃料取替用水ピットからの重力注水によ る代替炉心注水手順の概要は以下のとおり。概略系統を第 1.4.40 図に示す。

- ① 当直課長は、手順着手の判断基準に基づき運転員等に 燃料取替用水ピットからの重力注水による原子炉への 注水準備を指示する。
- ② 運転員等は、中央制御室で燃料取替用水ピットからの 重力注水に必要な系統構成と他の系統と連絡する弁の 閉を確認する。
- ③ 当直課長は、運転員等に原子炉への注水が可能となれ ば、原子炉への注水開始を指示する。
- ④ 運転員等は、中央制御室で余熱除去ポンプRWSピッ ト及び再循環サンプ側入口弁を開操作し、余熱除去冷却 器バイパス流量制御弁の開度を調整することで、燃料取

する。

なお,燃料取替用水ピットの重力注水は燃料取替用水ピ ットの水頭圧を利用するため,燃料取替用水ピットの水位 が低下した場合は、重力注水を停止する。

(添付資料 1.4.20)

#### i . 手順着手の判断基準

高圧注入ポンプの故障等により、原子炉への注水を高圧 注入流量等にて確認できない場合に、原子炉へ注水するた めに必要な燃料取替用水ピットの水位が確保されている 場合。

#### ii. 操作手順

運転停止中の燃料取替用水ピットからの重力注水によ る原子炉への代替炉心注水手順の概要は以下のとおり。概 略系統を第1.4.46 図に示す。

- ① 発電課長(当直)は、手順着手の判断基準に基づき、 運転員に燃料取替用水ピットからの重力注水による原 子炉への注水準備を指示する。
- ② 運転員は、中央制御室で燃料取替用水ピットからの重 力注水に必要な系統構成と他の系統と連絡する弁の閉 止状態を確認する。
- ③ 発電課長(当直)は、原子炉への注水が可能となれば、 原子炉への注水開始を指示する。
- ④ 運転員は、中央制御室で余熱除去ポンプRWSP側入 口弁、余熱除去ラインC/V外側隔離弁及び余熱除去冷 却器出口流量調節弁を開とし,燃料取替用水ピットから

記載表現の相違

記載表現の相違

記載表現の相違

女川発電所 2 号炉

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

差異理由

#### 1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等

替用水ピットからの重力注水による原子炉への注水を 開始する。注水開始後、中央制御室で余熱除去流量、燃 料取替用水ピット水位、1 次冷却系統水位及び加圧器水 位により、原子炉への注水が確保されたことを確認す る。

大飯発電所3/4号炉

⑤ 運転員等は、中央制御室で1次冷却系の保有水量、1 次冷却材温度、余熱除去流量等により原子炉の冷却状態 に異常がないことを継続して確認する。また、冷却状態 を維持できない場合は、溢水させフィードアンドブリー ドとする。

#### iii. 操作の成立性

上記の対応は中央制御室にて 1 ユニット当たり運転員 等1名により作業を実施する。

(b) A格納容器スプレイポンプ (RHRS-CSS連絡ラ イン使用)による代替炉心注水

運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故 障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合、A格納容器ス プレイポンプ(RHRS-CSS連絡ライン使用)により 燃料取替用水ピット水を原子炉へ注水する手順を整備す る。

#### i. 手順着手の判断基準

蓄圧タンクによる原子炉への注水を蓄圧タンク圧力等 にて確認できない場合に、原子炉へ注水するために必要な 燃料取替用水ピット水位が確保されている場合。

- ii. 操作手順
- 1.4.2.1(1)b. (a)と同様。
- (c) 恒設代替低圧注水ポンプによる代替炉心注水

運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故 障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合、恒設代替低圧 注水ポンプにより燃料取替用水ピット水を原子炉へ注水 する手順を整備する。

恒設代替低圧注水ポンプの水源として燃料取替用水ピ ットが使用できない場合は、復水ピットを使用する。

の重力注水による原子炉注水を開始する。注水開始後, 中央制御室で低圧注入流量、燃料取替用水ピット水位、 1次冷却系統ループ水位及び加圧器水位により原子炉 への注水が確保されたことを確認する。

泊発電所3号炉

- ⑤ 運転員は、中央制御室にて1次系保有水量、1次冷却 材温度,低圧注入流量等により原子炉の冷却状態に異常 がないことを継続して確認する。また、冷却状態を維持 するために継続的に原子炉への注水ができる手段を確 保する。
- iii. 操作の成立性

上記の対応は、中央制御室にて運転員1名で実施する。 操作については、中央制御室で通常の運転操作により対 応する。

(b) B - 格納容器スプレイポンプ (RHRS-CSS連絡 ライン使用)による代替炉心注水

運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故 障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合、B-格納容器 スプレイポンプ (RHRS-CSS連絡ライン使用)によ り燃料取替用水ピット水を原子炉へ注水する手順を整備 する。

i . 手順着手の判断基準

高圧注入ポンプの故障等により,原子炉への注水を高圧 注入流量等にて確認できない場合に、原子炉へ注水するた めに必要な燃料取替用水ピット水位が確保されている場 合。

- ii. 操作手順
- 1.4.2.1(1) b. (a) ii.と同様。
- (c) 代替格納容器スプレイポンプによる代替炉心注水

運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故 障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合、代替格納容器 スプレイポンプにより燃料取替用水ピット水を原子炉に 注水する手順を整備する。

代替格納容器スプレイポンプの水源として燃料取替用 水ピットが使用できない場合は、補助給水ピットを使用す る。

#### 記載表現の相違

#### 運用の相違 (差異理由⑤)

・泊3号炉は燃料取替用水ピットによる 重力注水と並行してB-格納容器スプ レイポンプ (RHRS-CSS連絡ラ イン使用)による代替炉心注水を行う。

### 記載方針の相違 (差異理由④)

## 設備の相違 (差異理由(9))

運用の相違 (差異理由④)

赤字: 設備,運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字: 記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字: 記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

「子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等			
大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
i . 手順着手の判断基準	i . 手順着手の判断基準		
A格納容器スプレイポンプ (RHRS-CSS連絡ライ	B-格納容器スプレイポンプ (RHRS-CSS連絡ラ		
ン使用)の故障等により、原子炉への注水を余熱除去流量	イン使用)の故障等により,原子炉への注水をB-格納容		設備の相違 (差異理由 4)
等で確認できない場合に、原子炉へ注水するために必要な	器スプレイ流量等にて確認できない場合に,原子炉へ注水		
燃料取替用水ピット等の水位が確保されている場合。	するために必要な燃料取替用水ピットの水位が確保され		
	ている場合。		
ii. 操作手順	ii. 操作手順		
1.4.2.1(1)b. (b)と同様。	1.4.2.1(1) b.(b) ii.と同様。		
(d) 電動消火ポンプ又はディーゼル消火ポンプによる代	(d) 電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポン		
替炉心注水	プによる代替炉心注水		
運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故	運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故		
障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合、消火ポンプに	障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合,消火ポンプに		
よりNo . 2淡水タンク水を原子炉へ注水する手順を整	よりろ過水タンク水を原子炉へ注水する手順を整備する。		
備する。			
使用には、重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生	使用には, 重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生		
していないことを確認して使用する。	していないことを確認して使用する。		
i . 手順着手の判断基準	i . 手順着手の判断基準		
恒設代替低圧注水ポンプの故障等により、原子炉への注	代替格納容器スプレイポンプの故障等により, 原子炉へ		115 (0010) \$250(000) \$150(000) \$150 \$150(00)
水を余熱除去流量等にて確認できない場合に、原子炉へ注	の注水を代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量等に		設備の相違 (差異理由⑮)
水するために必要なNo.2淡水タンク水位が確保されて	て確認できない場合に,原子炉へ注水するために必要なろ		
おり、かつ重大事故等対処に悪影響を与える火災の発生が	過水タンクの水位が確保されており、かつ重大事故等対処		
なく、消火用として消火ポンプの必要がない場合。	に悪影響を与える火災の発生がなく,消火用として消火ポ		
	ンプの必要がない場合。		
ii. 操作手順	ii. 操作手順		
1.4.2.1(1)b. (c) と同様。	1.4.2.1(1) b.(c) ii.と同様。		
(e) 可搬式代替低圧注水ポンプによる代替炉心注水	(e) 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替炉		設備の相違 (差異理由③)
	心注水		
運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故	運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故		
障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合、可搬式代替低	障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合,可般型大型送		
圧注水ポンプにより海水を原子炉へ注水する手順を整備	水ポンプ車により海水を原子炉へ注水する手順を整備す		
する。	<b>వ</b> .		
i . 手順着手の判断基準	i . 手順着手の判断基準		
恒設代替低圧注水ポンプの故障等により原子炉への注	代替格納容器スプレイポンプの故障等により, 原子炉へ		
水を余熱除去流量等にて確認できない場合。	の注水を代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量等に		設備の相違 (差異理由 (5)
	て確認できない場合。		
ii. 操作手順	ii.操作手順		
1.4.2.1(1)b. (d) と同様。	1.4.2.1(1) b. (d) ii.と同様。		

赤字: 設備, 運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

泊発電所 3 号炉 技術的能力 比較表 r. 4.0 1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
	(f) 代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ		設備の相違 (差異理由③)
	車による代替炉心注水		
	運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故		
	障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合,可般型大型送		
	水ポンプ車により代替給水ピットから原子炉へ注水する		
	手順を整備する。		
	i . 手順着手の判断基準		
	代替格納容器スプレイポンプの故障等により、原子炉へ		
	の注水を代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量等に		
	て確認できない場合において、海水取水箇所へのアクセス		
	に時間を要する場合に、代替給水ピットの水位が確保さ		
	れ、使用できることを確認した場合。		
	ii . 操作手順		
	1.4.2.1(1) b. (e) ii.と同様。		
	1. 4. 2. 1 (1) D. (e) II. 2 (HJ)\$K <sub>0</sub>		
	(g) 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による		設備の相違 (差異理由③)
	代替炉心注水		設備が行連 (左共2年10)
	運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故		
	障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合,可般型大型送		
	水ポンプ車により原水槽から原子炉へ注水する手順を整		
	備する。		
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
	i.手順着手の判断基準		
	代替格納容器スプレイポンプの故障等により、原子炉へ		
	の注水を代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量等に		
	て確認できない場合において,海水の取水ができない場合		
	に,原水槽の水位が確保され,使用できることを確認した		
	場合。		
	ü. 操作手順		
	1.4.2.1(1) b.(f) ii.と同様。		
再循環運転	c . 再循環運転		
)高圧注入ポンプによる高圧再循環運転	(a) 高圧注入ポンプによる高圧再循環運転		
運転停止中に、余熱除去設備である余熱除去ポンプの故	運転停止中に, 余熱除去設備である余熱除去ポンプの故		
等により崩壊熱除去機能が喪失した場合、炉心注水又は	障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合, 炉心注水又は		
替炉心注水により燃料取替用水ピット水等を原子炉へ	代替炉心注水により燃料取替用水ピット水等を原子炉へ		
水後、高圧注入ポンプによる高圧再循環運転により原子	注水後, 高圧注入ポンプにより格納容器再循環サンプ水を		記載表現の相違
へ注水する手順を整備する。	原子炉へ注水し、あわせてC、Dー格納容器再循環ユニッ		・いずれの記載も高圧注入ポンプに。
格納容器圧力及び温度が上昇した場合は、格納容器スプ	トによる格納容器内自然対流冷却により格納容器内の冷		再循環運転時において、格納容器に
付那母語圧力及い価度が工弁した場合は、特別母語ペンイポンプを用いた格納容器スプレイ又は格納容器再循	却を行う手順を整備する。また、格納容器内自然対流冷却		冷却を格納容器スプレイポンプに。
			The state of the s
	を使用できない場合は,格納容器スプレイポンプによる格		再循環運転又は格納容器内自然冷却
ユニットによる格納容器自然対流冷却による格納容器	独衆関ラプトノ東領書(書記えた)、神徳帝四古のVi tera た		or the Mendo of the last the day the day of
ユーツトによる格剤谷器目	納容器スプレイ再循環運転を行い格納容器内の冷却を行 う手順を整備する。		て実施することに相違なし。

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)

# 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
i . 手順着手の判断基準	i . 手順着手の判断基準		
運転停止中に余熱除去ポンプの故障等により、原子炉へ	運転停止中に余熱除去ポンプの故障等により, 原子炉へ		
の注水を余熱除去流量等にて確認できない場合に、高圧再	の注水を低圧注入流量等にて確認できない場合に, 高圧再		
循環運転をするために必要な格納容器再循環サンプの水	循環運転をするために必要な格納容器再循環サンプの水		
位が確保されている場合。	位が確保されている場合。		
ii. 操作手順	ii . 操作手順		
高圧注入ポンプによる高圧再循環運転手順の概要は以	高圧注入ポンプによる高圧再循環による原子炉への注		記載表現の相違
下のとおり。概略系統を第 1. 4. 14 図に示す。	水手順の概要は以下のとおり。概略系統を第 1.4.19 図に		
	示す。		
	C, D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自		記載方針の相違
	然対流冷却の手順は,「1.7 原子炉格納容器の過圧破損		・泊3号炉は,格納容器自然対流冷却の手
	を防止するための手順等」のうち、1.7.2.1(2)a.		順リンク先を記載している。
	「C,D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自		・大飯 3/4 号炉も格納容器自然対流冷却
	然対流冷却」にて整備する。		の手順を技術的能力 1.7 で整備してい
			ることに相違なし。
<ul><li>① 当直課長は、手順着手の判断基準に基づき運転員等に</li></ul>	① 発電課長(当直)は,手順着手の判断基準に基づき運		
高圧注入ポンプによる高圧再循環運転による原子炉へ	転員に高圧注入ポンプによる高圧再循環運転による原		
の注水準備と系統構成を指示する。	子炉への注水準備と系統構成を指示する。		
② 運転員等は、中央制御室で高圧注入ポンプによる高圧	② 運転員は,中央制御室で高圧注入ポンプによる高圧再		
再循環運転の系統構成を実施する。	循環運転の系統構成を実施する。		
③ 当直課長は、運転員等に高圧注入ポンプによる高圧再	③ 発電課長(当直)は,運転員に高圧注入ポンプによる		
循環運転による原子炉の冷却が可能となれば、開始を指	高圧再循環運転による原子炉の冷却が可能となれば, 開		
示する。	始を指示する。		
④ 運転員等は、中央制御室で高圧注入ポンプを起動し、	④ 運転員は、中央制御室で高圧注入ポンプを起動し、原		
原子炉へ注水されていることを高圧注入流量で確認す	子炉へ注水されていることを高圧注入流量等で確認す		
る。	る。		MINERON MINERON SERVICE
⑤ 運転員等は、中央制御室で1次冷却材温度等の指示に	⑤ 運転員は,中央制御室で1次冷却材温度等により,原		記載表現の相違
より、原子炉が冷却状態にあることを継続して確認す	子炉が冷却状態にあることを継続して確認する。		
る。			
iii. 操作の成立性	iii. 操作の成立性		Manager (Manager (Manager) )
高圧注入ポンプによる高圧再循環運転は、中央制御室で	上記の対応は,中央制御室にて運転員1名で実施す		記載方針の相違 (差異理由④)
可能である。	る。		
	操作については、中央制御室で通常の運転操作により		
	対応する。		
d. 代替再循環運転	d. 代替再循環運転		
(a) A格納容器スプレイポンプ (RHRS-CSS連絡ラ	(a) B-格納容器スプレイポンプ(RHRS-CSS連絡		
イン使用)による代替再循環運転	ライン使用)による代替再循環運転		
運転停止中に、余熱除去設備である余熱除去ポンプの故	運転停止中に、余熱除去設備である余熱除去ポンプの故		
障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合、炉心注水又は	障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合, 炉心注水又は		
代替炉心注水により燃料取替用水ピット水等を原子炉へ	代替炉心注水により燃料取替用水ピット水等を原子炉へ		
注水後、A格納容器スプレイポンプ(RHRS-CSS連	注水後、B-格納容器スプレイポンプ(RHRS-CSS)		
絡ライン使用)による代替再循環運転により原子炉へ注水	連絡ライン使用)による代替再循環運転により原子炉へ注		
する手順を整備する。	水する手順を整備する。		

赤字: 設備, 運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

運用の相違 (差異理由②)

## 1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉 泊発電所3号炉 女川発電所 2 号炉 差異理由

#### i . 手順着手の判断基準

運転停止中に余熱除去ポンプの故障等により、原子炉へ の注水を余熱除去流量等にて確認できない場合に、代替再 循環運転をするために必要な格納容器再循環サンプの水 位が確保されている場合。

#### ii. 操作手順

1.4.2.1(1)d.(a)と同様。

- e. 蒸気発生器2次側による炉心冷却(注水)
- (a) 電動補助給水ポンプ又はタービン動補助給水ポンプ による蒸気発生器への注水

運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故 障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合、電動補助給水 ポンプ又はタービン動補助給水ポンプにより復水ピット 水を蒸気発生器へ注水する手順を整備する。

#### i . 手順着手の判断基準

運転停止中に余熱除去ポンプの故障等により、余熱除去 設備の崩壊熱除去機能が喪失し、原子炉への注水を余熱除 去流量等にて確認できない場合に、1次冷却系に開口部が なく、蒸気発生器へ注水するために必要な復水ピット水位 が確保されている場合。

#### ii. 操作手順

電動補助給水ポンプ及びタービン動補助給水ポンプに よる蒸気発生器への注水は、中央制御室での遠隔操作が可 能であり、通常の運転操作により対応する。

#### (b) 電動主給水ポンプによる蒸気発生器への注水

運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故 障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合、常用設備であ る電動主給水ポンプにより蒸気発生器へ注水する手順を 整備する。

#### i. 手順着手の判断基準

電動補助給水ポンプ及びタービン動補助給水ポンプの 故障等により、蒸気発生器への注水が補助給水流量等で確 認できない場合に、外部電源により常用母線が受電され、 2次冷却系の設備が運転中であり、蒸気発生器へ注水する ために必要な脱気器タンク水位が確保されている場合。

#### i . 手順着手の判断基準

運転停止中に高圧注入ポンプの故障等により,原子炉へ の注水を高圧注入流量等にて確認できない場合に、代替再 循環運転をするために必要な格納容器再循環サンプの水 位が確保されている場合。

#### ii. 操作手順

1.4.2.1(1) d. (a) ii.と同様。

- e. 蒸気発生器2次側による炉心冷却(注水)
- (a) 電動補助給水ポンプ又はタービン動補助給水ポンプ による蒸気発生器への注水

運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故 障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合, 電動補助給水 ポンプ又はタービン動補助給水ポンプにより補助給水ピ ット水を蒸気発生器へ注水する手順を整備する。

#### i . 手順着手の判断基準

運転停止中に余熱除去ポンプの故障等により、余熱除去 設備の崩壊熱除去機能が喪失し、原子炉への注水を低圧注 入流量等にて確認できない場合に、1次冷却系に開口部が なく, 蒸気発生器への注水に必要な補助給水ピット水位が 確保されている場合。

#### ii. 操作手順

電動補助給水ポンプ及びタービン動補助給水ポンプに よる蒸気発生器への注水操作は、中央制御室からの遠隔操 作が可能であり、通常の運転操作により対応する。概略系 統を第1.4.40 図に示す。

#### (b) 電動主給水ポンプによる蒸気発生器への注水

運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故 障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合、常用設備であ る電動主給水ポンプにより蒸気発生器へ注水する手順を 整備する。

#### i . 手順着手の判断基準

電動補助給水ポンプ及びタービン動補助給水ポンプの 故障等により,蒸気発生器への注水を補助給水流量等で確 認できない場合に、外部電源により常用母線が受電され、 2次冷却系の設備が運転中であり、蒸気発生器へ注水する ために必要な脱気器タンク水位が確保されている場合。

#### 記載表現の相違

#### 記載方針の相違

 大飯 3/4 号炉も第1.4.35 図に当該手段 の概略系統を整理している。

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
ii. 操作手順	ii. 操作手順		
電動主給水ポンプによる蒸気発生器への注水は、中央制	電動主給水ポンプによる蒸気発生器への注水操作は,中		記載表現の相違
御室での遠隔操作が可能であり、通常の運転操作により対	央制御室からの遠隔操作が可能であり、通常の運転操作に		Production (Colored to the Colored t
応する。	より対応する。概略系統を第1.4.41図に示す。		記載方針の相違 (差異理由⑤)
	(c) S G直接給水用高圧ポンプによる蒸気発生器への注 水		設備の相違 (差異理由④)
	運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故		
	障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合、SG直接給水		
	用高圧ポンプにより蒸気発生器へ注水する手順を整備す		
	る。		
	i . 手順着手の判断基準		
	電動主給水ポンプの故障等により, 蒸気発生器への注水		
	を主給水ライン流量等で確認できない場合に,蒸気発生器		
	へ注水するために必要な補助給水ピット水位が確保され		
	ている場合。 		
	ii. 操作手順		
	操作手順は、「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時		
	に発電用原子炉を冷却するための手順等」のうち,		
	1.2.2.1(2) b. 「SG直接給水用高圧ポンプによる蒸気発		
	生器への注水」にて整備する。		
(c) 蒸気発生器補給用仮設中圧ポンプ(電動)による蒸気	   (d) 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による蒸気発		設備の相違 (差異理由④)
発生器への注水	生器への注水		
運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故	運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故		
障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合、 <mark>蒸気発生器補</mark>	障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合, 可般型大型送		
給用仮設中圧ポンプ(電動)により復水ピット水を蒸気発	水ポンプ車により海水を蒸気発生器へ注水する手順を整		
生器へ注水する手順を整備する。	備する。		
			5.45 A 50 C 5
なお、淡水又は海水を蒸気発生器へ注水する場合、蒸気	蒸気発生器へ注水する場合, 蒸気発生器器内水の塩分濃		設備の相違 (差異理由④)
発生器器内水の塩分濃度及び不純物濃度が上昇するため、	度及び不純物濃度が上昇するため、蒸気発生器ブローダウ		
蒸気発生器ブローダウンラインにより排水を行う。	ンラインにより排水を行う。		
i . 手順着手の判断基準	i . 手順着手の判断基準		
電動主給水ポンプの故障等により蒸気発生器への注水	電動補助給水ポンプ及びタービン動補助給水ポンプの		設備の相違 (差異理由④)
を蒸気発生器水張り流量等で確認できない場合に、蒸気発	故障等により、蒸気発生器への注水を補助給水流量等で確		・泊3号炉の可搬型大型送水ポンプ車は
生器へ注水するために必要な復水ピット水位が確保され	認できない場合。		準備に時間を要することから、補助給
ている場合。			水ポンプの故障等により蒸気発生器へ
			の注水ができない場合に準備を開始す
			る。

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
ii. 操作手順	ii. 操作手順		
操作手順は「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に	操作手順は,「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時		
発電用原子炉を冷却するための手順等」のうち、	に発電用原子炉を冷却するための手順等」のうち,		
1.2.2.1(2)b. 「蒸気発生器補給用仮設中圧ポンプ (電動)	1.2.2.1(2) c. 「海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車に		設備の相違 (差異理由④)
による蒸気発生器への注水」にて整備する。	よる蒸気発生器への注水」にて整備する。		ANALYS AND
	(e) 代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ		設備の相違 (差異理由④)
	車による蒸気発生器への注水		
	運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故		
	障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合,可般型大型送		
	水ポンプ車により代替給水ピットから蒸気発生器へ注水		
	する手順を整備する。		
	蒸気発生器へ注水する場合,蒸気発生器器内水の塩分濃		
	度及び不純物濃度が上昇するため, 蒸気発生器ブローダウ		
	ンラインにより排水を行う。		
	i . 手順着手の判断基準		
	電動補助給水ポンプ及びタービン動補助給水ポンプの		
	故障等により, 蒸気発生器への注水を補助給水流量等で確		
	認できない場合において,海水取水箇所へのアクセスに時		
	間を要する場合に,代替給水ピットの水位が確保され,使		
	用できることを確認した場合。		
	ii. 操作手順		
	操作手順は,「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時		
	に発電用原子炉を冷却するための手順等」のうち,		
	1.2.2.1(2) d. 「代替給水ピットを水源とした可搬型大型		
	送水ポンプ車による蒸気発生器への注水」にて整備する。		
	(f) 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による		設備の相違 (差異理由④)
	蒸気発生器への注水		SECOND A CONTRACTOR AND
	運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故		
	障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合, 可般型大型送		
	水ポンプ車により原水槽から蒸気発生器へ注水する手順		
	を整備する。		
	蒸気発生器へ注水する場合, 蒸気発生器器内水の塩分濃		
	度及び不純物濃度が上昇するため, 蒸気発生器ブローダウ		
	ンラインにより排水を行う。		
	i . 手順着手の判断基準		
	電動補助給水ポンプ及びタービン動補助給水ポンプの		
	故障等により、蒸気発生器への注水を補助給水流量等で確		
	認できない場合において,海水の取水ができない場合に,		
	原水槽の水位が確保され,使用できることを確認した場		
	合。		

赤字: 設備, 運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
	ii. 操作手順 操作手順は「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に 発電用原子炉を冷却するための手順等」のうち, 1.2.2.1(2) e. 「原水槽を水源とした可搬型大型送水ポン プ車による蒸気発生器への注水」にて整備する。		
f. 蒸気発生器2次側による炉心冷却(蒸気放出) (a) 主蒸気逃がし弁による蒸気放出 運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故 障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合、中央制御室に て主蒸気逃がし弁を開操作して蒸気発生器2次側による 炉心冷却を行う手順を整備する。	f. 蒸気発生器2次側による炉心冷却 (蒸気放出) (a) 主蒸気逃がし弁による蒸気放出 運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故 障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合,中央制御室に て主蒸気逃がし弁を開操作して蒸気発生器2次側により 炉心冷却を行う手順を整備する。		
i. 手順着手の判断基準 運転停止中に余熱除去ポンプの故障等により、余熱除去 設備の崩壊熱除去機能が喪失し、原子炉への注水を余熱除 去流量等にて確認できない場合に、蒸気発生器への注水が 確保されたことを補助給水流量等により確認できた場合。	i. 手順着手の判断基準 運転停止中に余熱除去ポンプの故障等により、余熱除去 設備の崩壊熱除去機能が喪失し、原子炉への注水を低圧注 入流量等にて確認できない場合に、蒸気発生器への注水が 確保されたことを補助給水流量等により確認できた場合。		
ii. 操作手順 主蒸気逃がし弁の開操作は、中央制御室からの遠隔操作 が可能であり、通常の運転操作により対応する。	ii. 操作手順 主蒸気逃がし弁の開操作は,中央制御室からの遠隔操作 が可能であり,通常の運転操作により対応する。概略系統 を第1.4.40 図に示す。		記載方針の相違 ・大飯 3/4 号炉も第 1.4.35 図に当該手段 の概略系統を整理している。
(b) タービンバイパス弁による蒸気放出 運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合、常用設備であるタービンバイパス弁を中央制御室にて開操作し、蒸気発生器から蒸気放出を行う手順を整備する。	(b) タービンバイパス弁による蒸気放出 運転停止中に余熱除去設備である余熱除去ポンプの故 障等により崩壊熱除去機能が喪失した場合,常用設備であ るタービンバイパス弁を中央制御室にて開操作し,蒸気発 生器から蒸気放出を行う手順を整備する。		の機能が配と発生している。
i. 手順着手の判断基準 主蒸気逃がし弁による蒸気放出が主蒸気圧力等にて確 認できない場合に、外部電源により常用母線が受電され、 2次冷却系の設備が運転中であり復水器真空度が維持さ れている場合。	i. 手順着手の判断基準 主蒸気逃がし弁による蒸気放出が主蒸気ライン圧力等 にて確認できない場合に、外部電源により常用母線が受電 され、2次冷却系の設備が運転中であり復水器の真空が維 持されている場合。		
ii. 操作手順 タービンバイパス弁の開操作は、中央制御室からの遠隔 操作が可能であり、通常の運転操作により対応する。	ii. 操作手順 タービンバイパス弁の開操作は、中央制御室からの遠隔 操作が可能であり、通常の運転操作により対応する。概略 系統を第1.4.42 図に示す。		記載方針の相違 (差異理由⑤)
g. 蒸気発生器2次側のフィードアンドブリード 主蒸気逃がし弁による原子炉の冷却効果がなくなり、低 温停止へ移行する場合、蒸気発生器2次側のフィードアン ドブリードを行う手順を整備する。	g. 蒸気発生器2次側のフィードアンドプリード 主蒸気逃がし弁による原子炉の冷却効果がなくなり,低 温停止へ移行する場合,蒸気発生器2次側のフィードアン ドブリードを行う手順を整備する。		

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)

設備の相違 (差異理由②)

女川発電所 2 号炉

緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

差異理由

## 1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等

蒸気発生器2次側フィードアンドブリードは、ポンプ車 により海水を蒸気発生器へ注水し、主蒸気ドレンラインを 経由し、蒸気発生器ブローダウンタンクに排出させ、適時 放射性物質濃度等を確認し排出する。

大飯発電所3/4号炉

なお、海水を蒸気発生器へ注水する場合、蒸気発生器器 内水の塩分濃度及び不純物濃度が上昇するため、蒸気発生 器ブローダウンラインにより排水を行う。

#### (a) 手順着手の判断基準

運転停止中に余熱除去ポンプの故障等により、余熱除去 設備の崩壊熱除去機能が喪失し、原子炉への注水を余熱除 去流量等にて確認できない場合に、低温停止に移行する場 合。

#### (b) 操作手順

操作手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するため の手順等」のうち 1.5.2.1(3)a.「ポンプ車を使用した蒸気 発生器2次側のフィードアンドブリード」にて整備する。

#### h. その他の手順項目にて考慮する手順

燃料取替用水ピットの枯渇又は破損時の復水ピットか らの補給手順は「1.13 重大事故等の収束に必要となる水 の供給手順等」のうち、1.13.2.2(3)「燃料取替用水ピット から復水ピットへの水源切替 | 及び 1.13.2.2(9)「復水ピ ットから燃料取替用水ピットへの補給」にて整備する。

燃料取替用水ピットの枯渇又は破損時の1次系純水タ↔ ンク及びほう酸タンクの補給手順は「1.13 重大事故等の 収束に必要となる水の供給手順等」のうち、1.13.2.2(1) 「燃料取替用水ピットから1次系純水タンク及びほう酸 タンクへの水源切替」にて整備する。

空冷式非常用発電装置の代替電源に関する手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」のうち、1.14.2.1(1)「空冷式 非常用発電装置による代替電源(交流)からの給電」にて 整備する。また、空冷式非常用発電装置への燃料補給の手 順は「1.14 電源の確保に関する手順等」のうち、 1.14.2.4(1)「空冷式非常用発電装置等への燃料(重油)補 給」にて整備する。

蒸気発生器2次側のフィードアンドブリードは,可搬型 大型送水ポンプ車により海水を蒸気発生器へ注水し、主蒸 気ドレンラインを経由し、温水ピットに排出させ、適時水 質を確認し排出する。

泊発電所3号炉

海水を蒸気発生器へ注水する場合,蒸気発生器器内水の 塩分濃度及び不純物濃度が上昇するため、蒸気発生器ブロ ーダウンラインにより排水を行う。

#### (a) 手順着手の判断基準

運転停止中に余熱除去ポンプの故障等により、余熱除去 設備の崩壊熱除去機能が喪失し,原子炉への注水を低圧注 入流量等にて確認できない場合に、低温停止に移行する場

#### (b) 操作手順

操作手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するた めの手順等」のうち1.5.2.1(3)「蒸気発生器2次側のフ ィードアンドブリード」にて整備する。

#### h. その他の手順項目にて考慮する手順

燃料取替用水ピットの枯渇又は破損時の対応手順は、 「1.13 重大事故等の収束に必要となる水の供給手順等」 のうち, 1.13.2.2 「炉心注水のための代替手段及び燃料取 替用水ピットへの供給に係る手順等」にて整備する。

補助給水ピットの枯渇又は破損時の対応手順は、「1.13 重大事故等の収束に必要となる水の供給手順等」のうち、 1.13.2.1 「蒸気発生器2次側による炉心冷却(注水)のた めの代替手段及び補助給水ピットへの供給に係る手順等」 にて整備する。

#### 記載表現の相違

## 記載方針の相違

・大飯 3/4 号炉は個別手順のリンク先を 記載しているが、泊3号炉は燃料取替 用水ピットへの供給手順等の手順全般 をリンクさせる記載としている。

#### 記載方針の相違

・泊3号炉は補助給水ピットへの供給に 手順等のリンク先を記載している。

#### 設備の相違 (差異理由②)

女川発電所 2 号炉

赤字: 設備, 運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)

緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

設備の相違 (差異理由③)

記載方針の相違 (差異理由(6))

差異理由

## 1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等

電源車(可搬式代替低圧注水ポンプ用)及び送水車への 燃料補給に関する手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等 のための手順等」のうち、1.6.2.4(1)「電源車(可搬式代 替低圧注水ポンプ用)、大容量ポンプへの燃料補給」及び 1.6.2.4(2) 「送水車への燃料補給」にて整備する。

大飯発電所3/4号炉

操作の判断及び確認に係る計装設備に関する手順は 「1.15 事故時の計装に関する手順等」のうち、1.15.2「重 大事故等時の手順等」にて整備する。

#### i. 優先順位

運転停止中に余熱除去ポンプの故障等により崩壊熱除 去機能が喪失した場合の冷却手段の優先順位を以下に示 す。

運転停止中に崩壊熱除去機能が喪失した場合は、格納容 器からの作業員の退避指示を行い、格納容器の隔離を行

格納容器隔離弁閉操作後に、1次冷却系に開口部がない 場合は、蒸気発生器2次側による炉心冷却を優先する。

蒸気発生器2次側による炉心冷却として、蒸気発生器へ の注水は、電動補助給水ポンプ又はタービン動補助給水ポ ンプを用い、これらの補助給水ポンプが使用できない場合 は、脱気器タンクを水源とした電動主給水ポンプ又は復水 ピットを水源とした蒸気発生器補給用仮設中圧ポンプ(電 動)による蒸気発生器への注水を行う。蒸気発生器補給用 仮設中圧ポンプ (電動) は使用準備に時間を要することか ら電動主給水ポンプを優先して使用する。

蒸気放出については、主蒸気逃がし弁を用い、主蒸気逃 がし弁が使用できない場合は、タービンバイパス弁を使用 する。

可搬型大型送水ポンプ車への燃料補給に関する手順は、 「1.13 重大事故等の収束に必要となる水の供給手順等」 のうち、1.13.2.8「可搬型大型送水ポンプ車への燃料補給 の手順等」にて整備する。

泊発電所3号炉

操作の判断及び確認に係る計装設備に関する手順は、 「1.15 事故時の計装に関する手順等」のうち、1.15.2「重 大事故等時の手順等」にて整備する。

#### i . 優先順位

運転停止中に余熱除去ポンプの故障等により崩壊熱除 去機能が喪失した場合の冷却手段の優先順位を以下に示

運転停止中に崩壊熱除去機能が喪失した場合は、格納容 器からの作業員の退避指示を行い、格納容器の隔離を行

格納容器隔離弁閉止後に、1次冷却系統に開口部がない 場合は、蒸気発生器2次側による炉心冷却を優先する。

蒸気発生器2次側による炉心冷却として、蒸気放出は主 蒸気逃がし弁を用い、主蒸気逃がし弁が使用できない場合 は、タービンバイパス弁を使用する。蒸気発生器への注水 については、電動補助給水ポンプ又はタービン動補助給水 ポンプを用い、これらの補助給水ポンプが使用できない場 合は、操作の容易性から脱気器タンクを水源とした電動主 給水ポンプによる蒸気発生器への注水を行う。電動主給水 ポンプが使用できない場合は補助給水ピットを水源とし たSG直接給水用高圧ポンプによる蒸気発生器への注水 を行う。

可搬型大型送水ポンプ車は使用準備に時間を要するこ とから、電動補助給水ポンプ及びタービン動補助給水ポン プが使用できない場合に準備を開始し、準備が整った際に 他の注水手段がなければ蒸気発生器に注水を行う。

可搬型大型送水ポンプ車による蒸気発生器への注水の ための水源は、水源の切替による注水の中断が発生しない 海水を優先して使用し、海水取水筒所へのアクセスに時間 を要する場合には、準備時間が最も短い代替給水ピットを 使用する。海水の取水ができない場合は、保有水量が大き い原水槽を使用する。原水槽への補給は、2次系純水タン ク又はろ過水タンクから移送することにより行う。ただ し、ろ過水タンクは、重大事故等対処に悪影響を与える火 災の発生がない場合に使用する。

主蒸気逃がし弁による原子炉の冷却効果がなくなり低 温停止に移行する場合は、蒸気発生器2次側のフィード アンドブリードを行う。

### 記載表現の相違

#### 設備の相違 (差異理由④)

・ 泊3号炉は、補助給水ポンプの代替手段 のうち、常設設備は電動主給水ポンプ とSG直接給水用高圧ポンプがあり, 中央制御室からの操作で注水可能な電 動主給水ポンプを優先する。

### 設備の相違 (差異理由(4))

泊3号炉の可搬型大型送水ポンプ車は、 淡水又は海水の注水が可能なため、水 源の優先順位を整理している。

主蒸気逃がし弁による原子炉の冷却効果がなくなり低 温停止に移行する場合は、蒸気発生器2次側のフィードア ンドブリードを行う。

赤字: 設備, 運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
蒸気発生器2次側による炉心冷却ができない場合は、原子炉への注水による冷却を行う。まず、中央制御室で操作可能であり早期に運転が可能な充てんポンプ、その次に準備時間の短い高圧注入ポンプによる原子炉への注水を行う。充てんポンプ及び高圧注入ポンプが使用できない場合は、燃料取替用水ピットからの重力注水による代替炉心注水を行う。燃料取替用水ピットからの重力注水ができない場合は、蓄圧タンクによる炉心注水を行う。上記により原子炉への注水ができない場合は、A格納容器スプレイポンプ(RHRS-CSS連絡ライン使用)による代替炉心注水を行う。	素気発生器 2 次側による炉心冷却ができない場合は、原子炉への注水による冷却を行う。まず、充てんポンプによる炉心注水を行う。充てんポンプが使用できない場合は、高圧注入ポンプによる炉心注水を行う。高圧注入ポンプが使用できない場合は、中央制御室のみで実施可能である燃料取替用水ピットからの重力注水による代替炉心注水を行うとともに、B - 格納容器スプレイポンプ(RHRS-CSS連絡ライン使用)による代替炉心注水を行う。それができない場合は、代替格納容器スプレイポンプによる代替炉心注水を行う。		記載表現の相違 ・泊3号炉も充てんポンプによる炉心注 水は中央制御室から操作可能。 設備の相違 (差異理由⑨) 運用の相違 (差異理由④)
なお、A格納容器スプレイポンプ(RHRS-CSS連絡ライン使用)と恒設代替低圧注水ポンプの優先順位は、準備時間が短いA格納容器スプレイポンプ(RHRS-CSS連絡ライン使用)を優先する。これらの手段が使用できない場合は、消火ポンプにより代替炉心注水を行う。ただし、構内で火災が発生した場合においては、消火活動に優先して使用する。	なお、B-格納容器スプレイポンプ(RHRS-CSS連絡ライン使用)と代替格納容器スプレイポンプの優先順位は、準備時間が短いB-格納容器スプレイポンプ(RHRS-CSS連絡ライン使用)を優先する。これらの手段が使用できない場合は、消火設備による原子炉への注水を行う。ただし、重大事故等対処に悪影響を与える火災の発生がない場合に使用する。		記載表現の相違 ・消火設備は消火活動に優先して使用する手順に相違なし。
消火ポンプによる代替炉心注水ができない場合は、海水を水源とした可搬式代替低圧注水ポンプによる代替炉心注水を行う。 可搬式代替低圧注水ポンプは重大事故等対処設備であるが、使用準備に時間を要することから、恒設代替低圧注水ポンプによる原子炉への注水手段を失った場合に準備を開始し、準備が整った際に他の注水手段がなければ代替炉心注水を行う。	消火設備による代替炉心注水ができない場合は,淡水又 は海水を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替 炉心注水を行う。 可搬型大型送水ポンプ車は重大事故等対処設備である が,使用準備に時間を要することから,代替格納容器スプ レイポンプによる原子炉への注水手段を失った場合に準 備を開始し,準備が整った際に他の注水手段がなければ代 替炉心注水を行う。		設備の相逢 (差異理由③) 設備の相逢 (差異理由③)
	可搬型大型送水ポンプ車による炉心注水のための水源は、水源の切替による注水の中断が発生しない海水を優先して使用し、海水取水箇所へのアクセスに時間を要する場合には、準備時間が最も短い代替給水ピットを使用する。海水の取水ができない場合は、保有水量が大きい原水槽を使用する。原水槽への補給は、2次系純水タンク又はろ過水タンクから移送することにより行う。ただし、ろ過水タンクは、重大事故等対処に悪影響を与える火災の発生がない場合に使用する。		設備の相違(差異理由③) ・泊3号炉の可搬型大型送水ポンプ車は、 淡水又は海水の注水が可能なため、水 源の優先順位を整理している。

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

京ナル市本的圧力ハリンタリ似在時に発電用原ナルを市場する。 大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
炉心注水又は代替炉心注水により燃料取替用水ピット	炉心注水又は代替炉心注水により燃料取替用水ピット		
水等を原子炉へ注水後、格納容器再循環サンプに水源を切	水等を原子炉へ注水後、格納容器再循環サンプに水源を		
り替えて、高圧注入ポンプによる高圧再循環運転により原	切替えて,高圧注入ポンプを用いた高圧再循環運転によ		記載表現の相違
子炉を冷却する。	り原子炉への注水操作を行う。高圧注入ポンプが使用で		運用の相違 (差異理由②)
高圧注入ポンプによる高圧再循環運転だけでも十分な	きない場合は、B-格納容器スプレイポンプ(RHRS		Management of the state of the
冷却効果はあるが、余熱除去ポンプによる冷却効果を補う	- CSS連絡ライン使用)及びB-格納容器スプレイ冷		
ため、あわせてA格納容器スプレイポンプ(RHRS-C	却器を用いた代替再循環運転により原子炉への注水操作		
SS連絡ライン使用) による代替再循環運転により原子炉	を行う。		
を冷却する。			
以上の対応手順のフローチャートを第 1.4.41 図に示	以上の対応手順のフローチャートを第 1.4.47 図に示		
す。	す。		
			]
			]

# 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
(2) サポート系機能喪失時の手順等	(2) サポート系機能喪失時の手順等		211 T
	運転停止中のミッドループ運転期間中において, 全交流		設備の相違 (差異理由 (3))
	動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能喪失が発生した場		・代替格納容器スプレイポンプによる代
	合の代替炉心注水手段については、代替格納容器スプレイ		替炉心注水の次に燃料取替用水ピット
	ポンプによる代替炉心注水の他, 蓄圧タンクによる炉心注		の重力注水を実施し、これに並行して、
	水 (その後に続く代替格納容器スプレイポンプによる代替		B-充てんポンプ(自己冷却)による注
	炉心注水) が考えられるが,作業者の安全に配慮する必要		水準備も開始する。
	があることから、 蕃圧タンクによる代替炉心注水は実施し		100000000000000000000000000000000000000
	ない。		
	(添付資料 1.4.21)		
a. 代替炉心注水	a . 代替炉心注水		
	(a) 代替格納容器スプレイポンプによる代替炉心注水		運用の相違 (差異理由⑤)
	運転停止中において,全交流動力電源喪失又は原子炉補		
	機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機		
	能が喪失した場合, 代替格納容器スプレイポンプにより燃		
	料取替用水ピット水を原子炉へ注水する手順を整備する。		
	代替格納容器スプレイポンプの水源として燃料取替用		
	水ピットが使用できない場合は,補助給水ピットを使用す		
	る。		
	i . 手順着手の判断基準		
	運転停止中に全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却		
	機能が喪失し、余熱除去設備の崩壊熱除去機能が喪失し、		
	原子炉への注水を低圧注入流量等にて確認できない場合		
	に,燃料取替用水ピット水位が確保されている場合。 		
	i. 操作手順		
	1.4.2.1(1) b. (b) ii. と同様。		
(a) 燃料取替用水ピットからの重力注水による代替炉心	   (b) 燃料取替用水ピットからの重力注水による代替炉心		
注水	注水		
運転停止中のミッドループ運転中において、全交流動力	運転停止中のミッドループ運転中において,全交流動力		
電源喪失又は原子炉補機冷却機能喪失により余熱除去設	電源喪失又は原子炉補機冷却機能喪失により余熱除去設		
備による崩壊熱除去機能が喪失した場合、燃料取替用水ピ	備による崩壊熱除去機能が喪失した場合,燃料取替用水ピ		
ットからの重力注水により燃料取替用水ピット水を原子	ットからの重力注水により燃料取替用水ピット水を原子		
炉へ注水する手順を整備する。	炉へ注水する手順を整備する。		
なお、燃料取替用水ピットの重力注水は燃料取替用水ピ	なお, 燃料取替用水ピットの重力注水は燃料取替用水ピ		
ットの水頭圧を利用するため、燃料取替用水ピットの水位	ットの水頭圧を利用するため,燃料取替用水ピットの水位		
が低下した場合には、重力注水を停止する。	が低下した場合は,重力注水を停止する。		
(添付資料 1. 4. 19)	(添付資料 1.4.20)		
/ Mar 1 264.1 (1) 20 YA)	/ No. 13 Pet. L. 12 19 0/		
I			
I			

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
i . 手順着手の判断基準	i . 手順着手の判断基準		
運転停止中のミッドループ運転中において、全交流動力	運転停止中のミッドループ運転中において, 代替格納容		運用の相違 (差異理由⑤)
電源喪失又は原子炉補機冷却機能喪失時、余熱除去設備の	器スプレイポンプの故障等により, 原子炉への注水を代替		\$55,000 \$1.00 LOSS \$550 \$550 \$1
崩壊熱除去機能が喪失し、原子炉への注水を余熱除去流量	格納容器スプレイポンプ出口積算流量等にて確認できな		
等にて確認できない場合に、燃料取替用水ピットの水位が	い場合に, 原子炉へ注水するために必要な燃料取替用水ピ		
確保されている場合。	ット水位が確保されている場合。		
ii.操作手順	ii.操作手順		
************************************	1.4.2.3(1) b. (a) ii. と同様。		運用の相違 (差異理由(5))
手順の概要は以下のとおり。概略系統を第1.4.40 図に、	1. 4. 2. 3 (1) D. (a) II. と四秋。		・大飯 3/4 号炉は、空冷式非常用発電装置
タイムチャートを第1.4.42 図に示す。			からの給電前に実施する手順であり、
74 274 PERILE MENT			電動弁の現場手動操作により注水を実
<ul><li>① 当直課長は、手順着手の判断基準に基づき運転員等に</li></ul>			施する。
燃料取替用水ピットからの重力注水による原子炉への			・泊3号炉は,代替非常用発電機からの給
注水の準備を指示する。			電後に実施する手順であり、電動弁を
② 運転員等は、中央制御室で燃料取替用水ピットからの			中央制御室にて操作することから、フ
重力注水に必要な系統構成と他の系統と連絡する弁の			ロントライン系機能喪失時の手順と同
閉を確認する。			様。
③ 当直課長は、運転員等に原子炉への注水が可能となれ			
ば、原子炉への注水開始を指示する。			
④ 運転員等は、現場で余熱除去ポンプRWSピット及び			
再循環サンプ側入口弁を手動で開操作し、燃料取替用水			
ピットからの重力注水による原子炉への注水を開始す			
る。注水開始後、中央制御室で燃料取替用水ピット水位、			
1 次冷却系統水位※10及び加圧器水位により、原子炉へ			
の注水が確保されたことを確認する。			
⑤ 運転員等は、中央制御室で1次冷却材温度により、原			
子炉が継続して冷却状態であることを確認する。			
※10:全交流動力電源が喪失した場合は、常用系の蓄			
電池により約30分の監視が可能。また、空冷式非常			
用発電装置により電源喪失から30分後には電源が			
回復するため、30分以降も継続監視が可能である。			
iii. 操作の成立性			
上記の対応は中央制御室にて 1 ユニット当たり運転員			
等1名、現場にて1ユニット当たり運転員等1名により作			
業を実施し、所要時間は約25分と想定する。			
円滑に作業できるように、移動経路を確保し、可搬型照			
明、通信設備等を整備する。作業環境の周囲温度は通常運			
転状態と同程度である。			
(添付資料 1. 4. 20)			
(b) 蓄圧タンクによる代替炉心注水			設備の相違 (差異理由⑨)
運転停止中のミッドループ運転中において、全交流動力			
電源喪失又は原子炉補機冷却機能喪失により余熱除去設			
電源授犬スは原子が価機行列機能授犬により景熱原去設備である余熱除去ポンプの機能喪失により崩壊熱除去機			
m じめる未然除去ホンノの機能受大により朋豪熱除去機			

赤子: 設備, 建加入は計画の 青字: 記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字: 記載表現, 設備名称の相違(実質的な相違なし)

## 1.4 原-

要な燃料取替用水ピット水位が確保されている場合。

京子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却する。			記載表現、設備名称の相違(実質的な相違な
大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
能が喪失した場合、蓄圧タンクにより原子炉へ注水する手			
順を整備する。			
蓄圧タンクによる代替炉心注水についてはタンク内圧			
力を利用するため蕃圧タンク水位が低下して圧力が下が			
った場合には、原子炉への注水を停止する。			
うた物目には、原子が、の任小を停止する。			
· The there are you her the title			
i. 手順着手の判断基準			
燃料取替用水ピットの重力注水により、原子炉への注水			
を余熱除去流量等にて確認できない場合に、原子炉へ注水			
するために必要な蓄圧タンク水位が確保されている場合。			
ii. 操作手順			
1.4.2.3(1)a. (c)と同様。			
(添付資料 1. 4. 21)			
(1111)	【比較のため再掲(1.4.2.3(2)a.(a)より)】		運用の相違 (差異理由⑤)
(c) 恒設代替低圧注水ポンプによる代替炉心注水	(a) 代替格納容器スプレイポンプによる代替炉心注水		The state of the s
運転停止中において、全交流動力電源喪失又は原子炉補	運転停止中において、全交流動力電源喪失又は原子炉補		
機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機	機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機		
能が喪失した場合、恒設代替低圧注水ポンプにより燃料取	能が喪失した場合、代替格納容器スプレイポンプにより燃		
替用水ピット水を原子炉へ注水する手順を整備する。	料取替用水ピット水を原子炉へ注水する手順を整備する。		
恒設代替低圧注水ポンプの水源として燃料取替用水ピ	代替格納容器スプレイポンプの水源として燃料取替用		
ットが使用できない場合は、復水ピットを使用する。	水ピットが使用できない場合は,補助給水ピットを使用す		
	<b>ప</b> 。		
i . 手順着手の判断基準	i . 手順着手の判断基準		
運転停止中に全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却	運転停止中に全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却		
機能喪失時、余熱除去設備の崩壊熱除去機能が喪失し、原	機能が喪失し、余熱除去設備の崩壊熱除去機能が喪失し、		
子炉への注水を余熱除去流量等にて確認できない場合に、	原子炉への注水を低圧注入流量等にて確認できない場合		200
原子炉へ注水するために必要な燃料取替用水ピット等の	に,燃料取替用水ピット水位が確保されている場合。		記載表現の相違
水位が確保されている場合。			
ii. 操作手順	ii. 操作手順		
1.4.2.1(1)b. (b)と同様。	1.4.2.1(1) b. (b) ii. と同様。		
(d) A余熱除去ポンプ(空調用冷水)による代替炉心注水			設備の相違 (差異理由®)
運転停止中に原子炉補機冷却機能喪失により余熱除去			HAME THE TEXTER OF
設備による崩壊熱除去機能が喪失した場合、A余熱除去ポ			
ンプ(空調用冷水)により燃料取替用水ピット水を原子炉			
へ注水する手順を整備する。			
i . 手順着手の判断基準			
運転停止中に原子炉補機冷却機能喪失時、恒設代替低圧			
注水ポンプの故障等により、原子炉への注水を余熱除去流			
量等にて確認できない場合に、原子炉へ注水するために必			
and a label of the PI Label of the 1976 PI Label of			1

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
ii. 操作手順			
1.4.2.1(2)a. (b) と同様。			
(e) B充てんポンプ(自己冷却)による代替炉心注水	(c) B - 充てんポンプ(自己冷却)による代替炉心注水		
運転停止中において、全交流動力電源喪失又は原子炉補	運転停止中において,全交流動力電源喪失又は原子炉補		
機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機	機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機		
能が喪失した場合、B充てんポンプ(自己冷却)により燃	能が喪失した場合、B-充てんポンプ(自己冷却)により		
料取替用水ピット水を原子炉へ注水する手順を整備する。	燃料取替用水ピット水を原子炉へ注水する手順を整備す		
B充てんポンプの水源として燃料取替用水ピットが使	వ.		設備の相違 (差異理由①)
用できない場合は、復水ピットを使用する。			RAME (ALTERIA)
i . 手順着手の判断基準	i . 手順着手の判断基準		and the state of t
運転停止中に全交流動力電源が喪失時、恒設代替低圧注	運転停止中に代替格納容器スプレイポンプの故障等に		記載表現の相違
水ポンプの故障等により、原子炉への注水を余熱除去流量	より、原子炉への注水を代替格納容器スプレイポンプ出口		設備の相違(差異理由⑮)
等にて確認できない場合に、原子炉へ注水するために必要な燃料取替用水ピット等の水位が確保されている場合。	積算流量等にて確認できない場合に,原子炉へ注水するために必要な燃料取替用水ピット水位が確保されている場		設備の相違 (差異理由①)
な旅科取省用かしット等の水位が確保で40 CV の物口。	のに必要な監督取省用がこう下が位が確保されてvia場 合。		設備の作屋 (差異姓田①)
運転停止中に原子炉補機冷却機能喪失時は、A余熱除去	HO		設備の相違 (差異理由⑧)
ポンプ(空調用冷水)の機能喪失により、原子炉への注水			
を余熱除去流量等にて確認できない場合に、原子炉へ注水			
するために必要な燃料取替用水ピット等の水位が確保さ			
れている場合。			
ii. 操作手順	ii.操作手順		
1. 4. 2. 1(2)a. (c) と同様。	1.4.2.1(2) a. (b) ii. と同様。		
(f) A格納容器スプレイポンプ(自己冷却)(RHRS-	(d) B - 格納容器スプレイポンプ (自己冷却) (RHRS		
CSS連絡ライン使用)による代替炉心注水	- CSS連絡ライン使用)による代替炉心注水		
運転停止中において、全交流動力電源喪失又は原子炉補 機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機	運転停止中において,全交流動力電源喪失又は原子炉補 機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機		
能が喪失した場合、A格納容器スプレイポンプ(自己冷却)	能が喪失した場合、B-格納容器スプレイポンプ(自己冷		
(RHRS-CSS連絡ライン使用)により燃料取替用水	却)(RHRS-CSS連絡ライン使用)により燃料取替		
ピット水を原子炉へ注水する手順を整備する。	用水ピット水を原子炉へ注水する手順を整備する。		
i. 手順着手の判断基準	i.手順着手の判断基準		and the street or her to
運転停止中に全交流動力電源喪失時、B充てんポンプ (自己冷却)の故障等により原子炉への注水を充てん水流	運転停止中にB - 充てんポンプ (自己冷却) の故障等に より原子炉への注水を充てん流量等にて確認できない場		記載表現の相違
■ 毎日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	より原子炉への往水を光くん流重等にて確認できない場合に、原子炉へ注水するために必要な燃料取替用水ピット		
要な燃料取替用水ピット水位が確保されている場合。	水位が確保されている場合。		
ii. 操作手順	ü. 操作手順		
1.4.2.1(2)a. (d)と同様。	1.4.2.1(2) a. (c) ii. と同様。		

赤字: 設備, 運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字: 記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

## 1.4 原一

原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却する。	ための手順等		緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違な
大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
(g) ディーゼル消火ポンプ又は電動消火ポンプによる代	(e) ディーゼル駆動消火ポンプ又は電動機駆動消火ポン		
替炉心注水	プによる代替炉心注水		
運転停止中において、全交流動力電源喪失により余熱除	運転停止中において,全交流動力電源喪失により余熱除		
去設備による崩壊熱除去機能が喪失した場合、常用設備で	去設備による崩壊熱除去機能が喪失した場合,常用設備で		
あるディーゼル消火ポンプによりNo.2淡水タンク水を	あるディーゼル駆動消火ポンプによりろ過水タンク水を		
原子炉へ注水する手順を整備する。	原子炉へ注水する手順を整備する。		
また、運転停止中において原子炉補機冷却機能喪失が発	また, 運転停止中において原子炉補機冷却機能喪失が発		
生した場合、常用設備である電動消火ポンプ又はディーゼ	生した場合, 常用設備である電動機駆動消火ポンプ又はデ		
ル消火ポンプによりNo.2淡水タンク水を原子炉へ注水	ィーゼル駆動消火ポンプによりろ過水タンク水を原子炉		
する手順を整備する。	へ注水する手順を整備する。		
使用には、重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生	使用には, 重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生		
していないことを確認して使用する。	していないことを確認する。		記載表現の相違
i . 手順着手の判断基準	i . 手順着手の判断基準		
A格納容器スプレイポンプ(自己冷却)(RHRS-C	B-格納容器スプレイポンプ(自己冷却)(RHRS-		
SS連絡ライン)の故障等により、原子炉への注水を余熱	CSS連絡ライン使用)の故障等により原子炉への注水を		設備の相違 (差異理由例)
除去流量等にて確認できない場合に、原子炉へ注水するた	B-格納容器スプレイ流量等にて確認できない場合に, 原		3 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 -
めに必要なNo.2淡水タンク水位が確保されており、か	子炉へ注水するために必要なろ過水タンク水位が確保さ		
つ重大事故等対処に悪影響を与える火災の発生がなく、消	れており、かつ重大事故等対処に悪影響を与える火災の発		
火用として消火ポンプの必要がない場合。	生がなく、消火用として消火ポンプの必要がない場合。		
700 C C C C C C C C C C C C C C C C C C	11. 0 () 11.7 (1.0 ) (1.1.7 (1		
ii. 操作手順	ii. 操作手順		
1.4.2.1(1)b. (c)と同様。	1.4.2.1(1) b. (c) ii. と同様。		
(h) 可搬式代替低圧注水ポンプによる代替炉心注水	(f) 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替炉		設備の相違 (差異理由③)
	心注水		
運転停止中において、全交流動力電源喪失又は原子炉補	運転停止中において,全交流動力電源喪失又は原子炉補		
機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機	機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機		
能が喪失した場合、可搬式代替低圧注水ポンプにより海水	能が喪失した場合、可搬型大型送水ポンプ車により海水を		設備の相違 (差異理由③)
を原子炉へ注水する手順を整備する。	原子炉へ注水する手順を整備する。		
EMIN THE LEWIS DO	WIN THE THE PROPERTY OF		
i . 手順着手の判断基準	i . 手順着手の判断基準		
A格納容器スプレイポンプ(自己冷却)(RHRS-C	B-格納容器スプレイポンプ(自己冷却)(RHRS-		
SS連絡ライン使用)の故障等により、原子炉への注水を	CSS連絡ライン使用)の故障等により、原子炉への注水		
余熱除去流量等にて確認できない場合。	をB-格納容器スプレイ流量等にて確認できない場合。		設備の相違(差異理由⑭)
WWW. Three Are Chemp CC. 21 30 10	ED THAT THE TO COME TO		HAVIN OF THE CELEBRATION
ii. 操作手順	ii. 操作手順		
1. 4. 2. 1(1)b. (d) と同様。	1.4.2.1(1) b. (d) ii. と同様。		
1. 4. 2. 1(1) b. (a) C  FI   180	1. 4. 2. 1 (1) D. (d) 11. C 141/3%		
	(g) 代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ		設備の相違 (差異理由(3))
	車による代替炉心注水		HAMINT HAE LEAGH
	運転停止中において、全交流動力電源喪失又は原子炉補		
	機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機		
	機市		
	能が受失した場合、可搬望大望送水ホンノ単により代替結 水ピットから原子炉へ注水する手順を整備する。		
	<b>ルレンドかり原すがへ往水する于順を登開する。</b>		

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
	i . 手順着手の判断基準		
	B-格納容器スプレイポンプ(自己冷却)(RHRS-		
	CSS連絡ライン使用)の故障等により,原子炉への注水		
	をB-格納容器スプレイ流量等にて確認できない場合に		
	おいて,海水取水箇所へのアクセスに時間を要する場合		
	に、代替給水ピットの水位が確保され、使用できることを		
	確認した場合。		
	ü. 操作手順		
	1.4.2.1(1) b. (e) ii. と同様。		
	(1) 医と博える海にした 可伽和と利果とないですにとる		乳供の和参 / 英田瀬中の/
	(h) 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による 代替炉心注水		設備の相違 (差異理由③)
	運転停止中において、全交流動力電源喪失又は原子炉補		
	機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機		
	能が喪失した場合、可搬型大型送水ポンプ車により原水槽		
	能が長天した場合、可服至人至医ホホンノ単により原外信 から原子炉へ注水する手順を整備する。		
	2.50水子が、住外する子順を設備する。		
	i . 手順着手の判断基準		
	B-格納容器スプレイポンプ(自己冷却)(RHRS-		
	CSS連絡ライン使用)の故障等により、原子炉への注水		
	をB-格納容器スプレイ流量等にて確認できない場合に		
	おいて、海水の取水ができない場合に、原水槽の水位が確		
	保され、使用できることを確認した場合。		
	ii. 操作手順		
	1.4.2.1(1) b. (f) ii. と同様。		
b. 代替再循環運転	b. 代替再循環運転		
(a) 運転停止中において全交流動力電源喪失が発生した	(a) 運転停止中において全交流動力電源喪失が発生した		
場合	場合		
i. B高圧注入ポンプ (海水冷却) による高圧代替再循環	i.A-高圧注入ポンプ(海水冷却)による高圧代替再循		
運転	環運転		
運転停止中において、全交流動力電源喪失により余熱除	運転停止中において,全交流動力電源喪失により余熱除		
去設備による崩壊熱除去機能が喪失した場合、B高圧注入	去設備による崩壊熱除去機能が喪失した場合,A一高圧注		
ポンプ (海水冷却) を用いた高圧代替再循環運転による原	入ポンプ(海水冷却)を用いた高圧代替再循環運転による		
子炉への注水を行い、あわせて大容量ポンプを用いた格納	原子炉への注水を行い、あわせて可搬型大型送水ポンプ車		
容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却によ	を用いたC, D-格納容器再循環ユニットによる格納容器		
り格納容器を冷却する手順を整備する。	内自然対流冷却により格納容器内を冷却する手順を整備		
	する。		
(i) 手順着手の判断基準	(i) 手順着手の判断基準		
運転停止中に全交流動力電源喪失が発生した場合に、大	運転停止中に全交流動力電源喪失が発生した場合に、可		
容量ポンプにより代替補機冷却による冷却水が確保され、	搬型大型送水ポンプ車により代替補機冷却による冷却水		
高圧代替再循環運転をするために必要な格納容器再循環	が確保され、高圧代替再循環運転をするために必要な格納		
サンプの水位が確保されている場合。	容器再循環サンプ水位が確保されている場合。		

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所 3 / 4 号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
(ii) 操作手順 1.4.2.1(2)b. (a) i . と同様。	(ii) 操作手順 1.4.2.1 (2) b. (a) i. (ii) と同様。 可搬型大型送水ポンプ車による冷却水通水操作は、「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」のうち、 1.5.2.1(5)a、「可搬型大型送水ポンプ車によるAー高圧注入ポンプ (海水冷却) への補機冷却水 (海水) 通水」にて整備する。		記載方針の相違 ・泊3号炉は、他の審査項目で整備する代替補機冷却水(海水)の通水手順のリンク先を記載している。
(b) 運転停止中において原子炉補機冷却機能喪失が発生した場合 i. A余熱除去ポンプ(空調用冷水)による低圧代替再循環運転 運転停止中において、再循環運転時に原子炉補機冷却機能が喪失した場合、A余熱除去ポンプ(空調用冷水)を用いた低圧代替再循環運転による原子炉への注水を行い、あわせて大容量ポンプを用いた格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却により格納容器内を冷却する手順を整備する。	(b) 運転停止中において原子炉補機冷却機能喪失事象が 発生した場合		記載表現の相違 設備の相違 (差異理由®)
(i) 手順着手の判断基準 運転停止中に原子炉補機冷却機能喪失を原子炉補機冷 却水供給母管流量等にて確認した場合に、空調用冷水系が 運転中で、低圧代替再循環運転をするために必要な格納容 器再循環サンプの水位が確保されている場合。 (ii) 操作手順 1.4.2.1(2)b.(b)i.と同様。			
ii. B高圧注入ポンプ (海水冷却) による高圧代替再循環 運転 運転停止中において、再循環運転時に原子炉補機冷却機 能が喪失した場合、B高圧注入ポンプ (海水冷却)を用い た高圧代替再循環運転による原子炉への注水を行い、あわ せて大容量ポンプを用いた格納容器再循環ユニットによ る格納容器内自然対流冷却により格納容器内を冷却する 手順を整備する。	i. A-高圧注入ポンプ (海水冷却) による高王代替再循環運転 環運転 運転停止中において,原子炉補機冷却機能が喪失し余熱 除去設備による崩壊熱除去機能が喪失した場合, A-高圧 注入ポンプ (海水冷却) を用いた高圧代替再循環運転によ る原子炉への注水を行い,あわせて,可搬型大型送水ポン プ車を用いた C, D-格納容器再循環ユニットによる格納 容器内自然対流冷却により格納容器内を冷却する手順を 整備する。		記載表現の相違
(i) 手順着手の判断基準 運転停止中に原子炉補機冷却機能喪失時の対応である A余熱除去ポンプ(空調用冷水)低圧代替再循環運転による炉心への注水を余熱除去流量等にて確認できない場合 に、大容量ポンプにより代替補機冷却による冷却水が確保 され、高圧代替再循環運転をするために必要な格納容器再	(i) 手順着手の判断基準 運転停止中に原子炉補機冷却機能喪失を原子炉補機冷 却水供給母管流量等にて確認した場合に,可搬型大型送水 ポンプ車により代替補機冷却による冷却水が確保され,高 圧代替再循環運転をするために必要な格納容器再循環サ ンプ水位が確保されている場合。		設備の相違 (差異理由③)

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
循環サンプの水位が確保されている場合。			
	4.03.45.45.45.45.4		
(ii)操作手順	(ii)操作手順		
1.4.2.1(2)b. (a) i .と同様。	1.4.2.1 (2) b. (a) i. (ii) と同様。		and the dealer or ten his
	可搬型大型送水ポンプ車による冷却水通水操作は、「1.5		記載方針の相違
	最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」のうち、		・泊3号炉は,他の審査項目で整備する代替補機冷却水(海水)の通水手順のリン
	1.5.2.1(5)a.「可搬型大型送水ポンプ車によるA - 高圧注 入ポンプ (海水冷却) への補機冷却水 (海水) 通水」にて		ク先を記載している。
	整備する。		S SUE BLOCK C CV-S.
	LE VIII / O/O		
c. 蒸気発生器 2 次側による炉心冷却 (注水)	c . 蒸気発生器 2 次側による炉心冷却 (注水)		
(a) タービン動補助給水ポンプ又は電動補助給水ポンプ	(a) タービン動補助給水ポンプ又は電動補助給水ポンプ		
による蒸気発生器への注水	による蒸気発生器への注水		
運転停止中において、全交流動力電源喪失又は原子炉補	運転停止中において,全交流動力電源喪失又は原子炉補		
機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機	機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機		
能が喪失した場合、タービン動補助給水ポンプ又は電動補	能が喪失した場合、タービン動補助給水ポンプ又は電動補		
助給水ポンプにより復水ピット水を蒸気発生器へ注水す	助給水ポンプにより補助給水ピット水を蒸気発生器へ注		
る手順を整備する。	水する手順を整備する。		
i . 手順着手の判断基準	i . 手順着手の判断基準		
運転停止中に全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却	運転停止中に全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却		
機能喪失時、余熱除去設備による崩壊熱除去機能が喪失	機能喪失時,余熱除去設備による崩壊熱除去機能が喪失		
し、原子炉への注水を余熱除去流量等にて確認できない場	し,原子炉への注水を低圧注入流量等にて確認できない場		
合に、1次冷却系に開口部がなく、蒸気発生器へ注水する	合に、1 次冷却系統に開口部がなく、蒸気発生器へ注水す		
ために必要な復水ピット水位が確保されている場合。	るために必要な補助給水ピット水位が確保されている場		
	合。		
ii.操作手順	ii . 操作手順		
1.4.2.2(1)a.(a)と同様。	1.4.2.2(1) a. (a) ii. と同様。		
1. 4. 2. 2(1) d. (d) C   11/1/100	1. 4. 2. 2 (1) a. (a) 11. C (1978)		
	(b) SG直接給水用高圧ポンプによる蒸気発生器への注		設備の相違 (差異理由④)
	水		
	運転停止中において,全交流動力電源喪失又は原子炉補		
	機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機		
	能が喪失した場合、SG直接給水用高圧ポンプにより補助		
	給水ピット水を蒸気発生器へ注水する手順を整備する。		
	淡水又は海水を蒸気発生器へ注水する場合,蒸気発生器		
	器内水の塩分濃度及び不純物濃度が上昇するため、蒸気発		
	生器ブローダウンラインにより排水を行う。		
	i . 手順着手の判断基準		
	運転停止中にタービン動補助給水ポンプ及び電動補助		
	給水ポンプの故障等により蒸気発生器への注水を補助給		
	水流量等により確認できない場合に,蒸気発生器へ注水す		
	るために必要な補助給水ピット水位が確保されている場		
	合。		

赤字: 設備,運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字: 記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字: 記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.4	原子炉冷却材圧力!	『ウンダリ低圧時に発電用原子炉	を冷却するための手順等
-----	-----------	-----------------	-------------

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
(b) 蒸気発生器補給用仮設中圧ポンプ(電動)による蒸気発生器への注水 運転停止中において、全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機能が喪失した場合、蒸気発生器補給用仮設中圧ポンプ(電動)により蒸気発生器へ注水する手順を整備する。なお、淡水又は海水を蒸気発生器へ注水する場合、蒸気発生器器内水の塩分濃度及び不純物濃度が上昇するため、蒸気発生器プローダウンラインにより排水を行う。	ii.操作手順 操作手順は、「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時 に発電用原子炉を冷却するための手順等」のうち、 1.2.2.1(2) b.「SG直接給水用高圧ポンプによる蒸気発 生器への注水」にて整備する。 (c) 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による蒸気発 生器への注水 運転停止中において、全交流動力電源喪失又は原子炉補 機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機 能が喪失した場合、可搬型大型送水ポンプ車により海水を 蒸気発生器へ注水する手順を整備する。 蒸気発生器へ注水する場合、蒸気発生器器内水の塩分濃 度及び不純物濃度が上昇するため、蒸気発生器プローダウ ンラインにより排水を行う。		設備の相違 (差異理由④)
i. 手順着手の判断基準 運転停止中にタービン動補助給水ポンプ及び電動補助 給水ポンプの故障等により蒸気発生器への注水が補助給 水流量等により確認できない場合に、蒸気発生器へ注水す るために必要な復水ピット水位が確保されている場合。	i. 手順着手の判断基準 運転停止中にタービン動補助給水ポンプ及び電動補助 給水ポンプの故障等により蒸気発生器への注水を補助給 水流量等により確認できない場合。		設備の相違 (差異理由④)
ii. 操作手順 操作手順は「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に 発電用原子炉を冷却するための手順等」のうち、 1.2.2.1(2)b. 「 <mark>蒸気発生器補給用仮設中圧ポンプ(電動)</mark> による蒸気発生器への注水」にて整備する。	ii.操作手順 操作手順は,「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時 に発電用原子炉を冷却するための手順等」のうち, 1.2.2.1(2) c.「海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車に よる蒸気発生器への注水」にて整備する。		設備の相違 (差異理由④)
	(d) 代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ 車による蒸気発生器への注水 運転停止中において,全交流動力電源喪失又は原子炉補 機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機 能が喪失した場合,可搬型大型送水ポンプ車により代替給 水ピットから蒸気発生器へ注水する手順を整備する。 蒸気発生器へ注水する場合,蒸気発生器器内水の塩分濃 度及び不純物濃度が上昇するため,蒸気発生器プローダウ ンラインにより排水を行う。		設備の相違 (差異理由④)
	i. 手順着手の判断基準 運転停止中にタービン動補助給水ポンプ及び電動補助 給水ポンプの故障等により蒸気発生器への注水を補助給 水流量等により確認できない場合において、海水取水箇所 へのアクセスに時間を要する場合に、代替給水ピットの水 位が確保され、使用できることを確認した場合。		

赤字: 設備, 運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
	ii.操作手順 操作手順は,「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時 に発電用原子炉を冷却するための手順等」のうち, 1.2.2.1(2) d.「代替給水ピットを水源とした可搬型大型 送水ポンプ車による蒸気発生器への注水」にて整備する。 (e) 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による 蒸気発生器への注水 運転停止中において,全交流動力電源喪失又は原子炉補 機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機 能が喪失した場合,可搬型大型送水ポンプ車により原水槽 から蒸気発生器へ注水する手順を整備する。 蒸気発生器へ注水する手順を整備する。 蒸気発生器へ注水する場合,蒸気発生器器内水の塩分濃 度及び不純物濃度が上昇するため,蒸気発生器ブローダウ ンラインにより排水を行う。 i.手順着手の判断基準 運転停止中にタービン動補助給水ポンプ及び電動補助		設備の相違(差異理由④)
	給水ポンプの故障等により蒸気発生器への注水を補助給水流量等により確認できない場合において,海水の取水ができない場合に,原水槽の水位が確保され,使用できることを確認した場合。  ii. 操作手順		
d. 蒸気発生器 2 次側による炉心冷却(蒸気放出)	操作手順は「1.2原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」のうち、1.2.2.1(2) e.「原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による蒸気発生器への注水」にて整備する。 d. 蒸気発生器2次側による炉心冷却 (蒸気放出)		
(a) 主蒸気逃がし弁(現場手動操作)による蒸気放出 運転停止中において、全交流動力電源喪失又は原子炉補 機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機 能が喪失した場合、現場にて手動により主蒸気逃がし弁を 開操作して蒸気発生器2次側による炉心冷却を行う手順 を整備する。	(a) 主蒸気逃がし弁(現場手動操作)による蒸気放出 運転停止中において,全交流動力電源喪失又は原子炉補 機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機 能が喪失した場合,現場にて手動により主蒸気逃がし弁を 開操作して蒸気発生器2次側による炉心冷却を行う手順 を整備する。		
i. 手順着手の判断基準 運転停止中に全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能喪失時、余熱除去設備による崩壊熱除去機能が喪失し、原子炉への注水を余熱除去流量等にて確認できない場合に、蒸気発生器への注水が補助給水流量等により確保されたことを確認できた場合。	i. 手順着手の判断基準 運転停止中に全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能喪失時,余熱除去設備の崩壊熱除去機能が喪失し,原子炉への注水を低圧注入流量等にて確認できない場合に,蒸気発生器への注水が補助給水流量等により確保されたことを確認できた場合。		

赤字: 設備, 運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字: 記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

給手順等の手順全般をリンクさせる記

載としている。

## 1.4 原子

原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却する。	10元电/0139/2 12/11101 11元/0 12 12 ための手順等	XX 1.4.0	緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違な
大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
ii. 操作手順 操作手順は「1.3 原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための手順等」のうち1.3.2.2(2)a. 「主蒸気逃がし弁 (現場手動操作)による主蒸気逃がし弁の機能回復」にて 整備する。	ii. 操作手順 操作手順は,「1.3 原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧 するための手順等」のうち, 1.3.2.2 (2) a. 「主蒸気逃が し弁 (現場手動操作) による主蒸気逃がし弁の機能回復」 にて整備する。		
e. 蒸気発生器2次側のフィードアンドプリード 運転停止中において、主蒸気逃がし弁による原子炉の冷 却効果がなくなり、低温停止へ移行する場合、蒸気発生器 2次側のフィードアンドブリードを行う手順を整備する。	e. 蒸気発生器2次側のフィードアンドブリード 運転停止中において,主蒸気逃がし弁による原子炉の 冷却効果がなくなり,低温停止へ移行する場合,蒸気発 生器2次側のフィードアンドブリードを行う手順を整備 する。		
蒸気発生器2次側のフィードアンドブリードは、ポンプ 車により海水を蒸気発生器へ注水し、主蒸気ドレンライン を経由し、蒸気発生器プローダウンタンクに排出させ、適 時放射性物質濃度等を確認し排出する。 なお、海水を蒸気発生器へ注水する場合、蒸気発生器器 内水の塩分濃度及び不純物濃度が上昇するため、蒸気発生 器プローダウンラインにより排水を行う。	蒸気発生器 2 次側のフィードアンドプリードは,可搬型 大型送水ポンプ車により海水を蒸気発生器へ注水し,主蒸 気ドレンラインを経由し,温水ピットに排出させ,適時水 質を確認し排出する。 海水を蒸気発生器へ注水する場合,蒸気発生器器内水の 塩分濃度及び不純物濃度が上昇するため,蒸気発生器プロ ーダウンラインにより排水を行う。		設備の相違 (差異理由②)
(a) 手順着手の判断基準 運転停止中に全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却 機能喪失時、余熱除去設備による崩壊熱除去機能が喪失 し、原子炉への注水を余熱除去流量等にて確認できない場 合に、低温停止に移行する場合。	(a) 手順着手の判断基準 運転停止中に全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却 機能喪失時,余熱除去設備の崩壊熱除去機能が喪失し,原 子炉への注水を低圧注入流量等にて確認できない場合に, 低温停止に移行する場合。		
(b) 操作手順 操作手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するため の手順等」のうち 1.5.2.1(3)a.「ポンプ車を使用した蒸気 発生器 2 次側のフィードアンドブリード」にて整備する。	(b) 操作手順 操作手順は,「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」のうち, 1.5.2.1(3)「蒸気発生器 2次側のフィードアンドブリード」にて整備する。		記載表現の相違
f. その他の手順項目にて考慮する手順空冷式非常用発電装置の代替電源に関する手順は「1.14電源の確保に関する手順等」のうち、1.14.2.1(1)「空冷式非常用発電装置による代替電源(交流)からの給電」にて整備する。また、空冷式非常用発電装置への燃料補給の手順は「1.14電源の確保に関する手順等」のうち、	f. その他の手順項目にて考慮する手順 代替非常用発電機の代替電源に関する手順は,「1.14 電源の確保に関する手順等」のうち,1.14.2.1(1)「代替非常用発電機による代替電源(交流)からの給電」にて整備する。また,代替非常用発電機への燃料補給の手順は,「1.14電源の確保に関する手順等」のうち,1.14.2.4「代替非常		
1.14.2.4(1)「空冷式非常用発電装置等への燃料(重油)補給」にて整備する。	用発電機等への燃料補給の手順等」にて整備する。		記載方針の相違(差異理由⑦)
燃料取替用水ピットの枯渇又は破損時の復水ピットからの補給手順は「1.13 重大事故等の収束に必要となる水の供給手順等」のうち、1.13.2.2(3)「燃料取替用水ピットから復水ピットへの水源切替」及び1.13.2.2(9)「復水ピットから燃料取替用水ピットへの補給」にて整備する。	補助給水ピット,燃料取替用水ピットの枯渇又は破損時の対応手順は,「1.13 重大事故等の収束に必要となる水の供給手順等」のうち,1.13.2.1「蒸気発生器2次側による炉心冷却(注水)のための代替手段及び補助給水ピットへの供給に係る手順等」,1.13.2.2「炉心注水のための代替		記載方針の相違 ・泊3号炉は、補助給水ピットへの供給に係る手順のリンク先も記載している。 ・大飯3/4号炉は個別手順のリンク先を記載しているが、泊3号炉は補助給水
	手段及び燃料取替用水ピットへの供給に係る手順等」にて		ピット及び燃料取替用水ピットへの供

整備する。

赤字: 設備, 運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)

緑字:記載表現、設備名称の相違(実質的な相違なし)

設備の相違 (差異理由(3))

記載方針の相違 (差異理由⑥)

差異理由

1. 4	原子炉冷却材圧力!	ドウンダリ低圧時に発電用原子	炉を冷却するための手順等

(電動)による蒸気発生器への注水を行う。

大飯発電所3/4号炉 泊発電所3号炉 女川発電所 2 号炉 電源車(可搬式代替低圧注水ポンプ用)、大容量ポンプ 可搬型大型送水ポンプ車への燃料補給に関する手順は. 及び送水車への燃料補給に関する手順は「1.6 原子炉格納 「1.13 重大事故等の収束に必要となる水の供給手順等」 容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.4(1)「電 のうち、1.13.2.8「可搬型大型送水ポンプ車への燃料補給 源車(可搬式代替低圧注水ポンプ用)、大容量ポンプへの の手順等」にて整備する。 燃料補給 | 及び 1.6.2.4(2)「送水車への燃料補給」にて整 備する。 大容量ポンプを用いた格納容器再循環ユニットによる 可搬型大型送水ポンプ車を用いた格納容器再循環ユニ 格納容器内自然対流冷却に関する手順については「1.7 原 ットによる格納容器内自然対流冷却手順については、「1.7 子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等」のう 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等」のう ち、1.7.2.2(1)a. 「大容量ポンプを用いたA、D格納容器 ち, 1.7.2.2 (1) a. 「可搬型大型送水ポンプ車を用いた 再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却にて整備 C. D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対 する。 流冷却」にて整備する。 操作の判断及び確認に係る計装設備に関する手順は 操作の判断及び確認に係る計装設備に関する手順は, 「1.15 事故時の計装に関する手順等」のうち、1.15.2「重 「1.15 事故時の計装に関する手順等」のうち, 1.15.2「重 大事故等時の手順等」にて整備する。 大事故等時の手順等」にて整備する。 g. 優先順位 g. 優先順位 運転停止中にサポート系の機能喪失により崩壊熱除去 運転停止中にサポート系の機能喪失により崩壊熱除去 機能が喪失した場合の冷却手段の優先順位を以下に示す。 機能が喪失した場合の冷却手段の優先順位を以下に示す。 運転停止中に全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却 運転停止中に全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却 機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機能が喪 機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機能が喪 失した場合は、空冷式非常用発電装置からの受電準備を行 失した場合は、代替非常用発電機からの受電準備を行うと うとともに、格納容器からの作業員の退避指示を行い、格 ともに、格納容器からの作業員の退避指示を行い、格納容 納容器の隔離を行う。格納容器隔離弁閉操作後に、1次冷 器の隔離を行う。格納容器隔離弁閉止後に、1次冷却系に 却系に開口部がない場合は、蒸気発生器2次側による炉心 開口部がない場合は、蒸気発生器2次側による炉心冷却操 冷却を優先する。 作を優先する。 蒸気発生器2次側による炉心冷却手段として、蒸気発生 蒸気発生器2次側による炉心冷却手段として,蒸気発生 器への注水については、タービン動補助給水ポンプを使用 器への注水については、タービン動補助給水ポンプを使用 する。空冷式非常用発電装置からの受電後は必要により電 する。代替非常用発電機からの受電後は必要により電動補 動補助給水ポンプを使用する。これらの補助給水ポンプが 助給水ポンプを使用する。これらの補助給水ポンプが使用 使用できない場合は、蒸気発生器補給用仮設中圧ポンプ できない場合は、SG直接給水用高圧ポンプを使用する。

記載表現の相違

設備の相違 (差異理由④)

設備の相違 (差異理由④)

泊3号炉の可搬型大型送水ポンプ車は、 淡水又は海水の注水が可能なため、水 源の優先順位を整理している。

可搬型大型送水ポンプ車は使用準備に時間を要するこ とから、タービン動補助給水ポンプ及び電動補助給水ポン プが使用できない場合に準備を開始し、準備が整った際に 他の注水手段がなければ蒸気発生器に注水を行う。

可搬型大型送水ポンプ車による蒸気発生器への注水の ための水源は、水源の切替による注水の中断が発生しない 海水を優先して使用し,海水取水箇所へのアクセスに時間 を要する場合には、準備時間が最も短い代替給水ピットを 使用する。海水の取水ができない場合は、保有水量が大き い原水槽を使用する。原水槽への補給は、2次系純水タン ク又はろ過水タンクから移送することにより行う。ただ し、ろ過水タンクは、重大事故等対処に悪影響を与える火 災の発生がない場合に使用する。

1.4-102

赤字: 設備, 運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字: 記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)

## 1.4 原

注水ができない場合に使用する。電動消火ポンプは原子炉

子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却する。	汨発電所3号炉 技術的能刀 比較表 r. ため <i>の手順等</i>	緑子	: 記載表現, 設備名称の相違 (実質的な相違な
大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
蒸気発生器への注水が確保されれば、現場にて手動によ	蒸気発生器への注水が確保されれば,現場にて手動に		
り主蒸気逃がし弁を開操作し、蒸気発生器2次側による炉	より主蒸気逃がし弁を開操作し,蒸気発生器2次側によ		
心冷却を行う。	る炉心冷却を行う。		
主蒸気逃がし弁による原子炉の冷却効果がなくなり低	主蒸気逃がし弁による原子炉の冷却効果がなくなり低		
温停止に移行する場合は、蒸気発生器2次側のフィードア	温停止に移行する場合は、蒸気発生器2次側のフィードア		
ンドブリードを行う。	ンドブリードを行う。		
蒸気発生器2次側による炉心冷却ができない場合は、原	蒸気発生器2次側による炉心冷却ができない場合は,原		The second second second second
子炉への注水による原子炉の冷却を行う。まず、燃料取替	子炉への注水により原子炉の冷却を行う。まず、重大事故		運用の相違 (差異理由⑤)
用水ピットの重力注水による代替炉心注水を行う。燃料取	等対処設備である代替格納容器スプレイポンプによる代		
替用水ピット(重力注水)は多様性拡張設備であるが、電	替炉心注水を優先する。代替格納容器スプレイポンプによ		
源回復しない場合でも注水が可能であるため優先して使	る代替炉心注水ができない場合は,燃料取替用水ピットの		
用する。	重力注水による代替炉心注水を行うとともに、高揚程であ		
空冷式非常用発電装置から受電後は、蕃圧タンクによる	るB-充てんポンプ(自己冷却)を使用する。B-充てん		設備の相違 (差異理由⑨)
代替炉心注水に加え、継続的に炉心に注水するために恒設	ポンプ(自己冷却)による代替炉心注水ができない場合は,		
代替低圧注水ポンプによる代替炉心注水を行う。 恒設代替	B-格納容器スプレイポンプ(自己冷却)(RHRS-C		
低圧注水ポンプによる代替炉心注水ができない場合は、高	SS連絡ライン使用)による代替炉心注水を行う。		
揚程であるB充てんポンプ(自己冷却)を使用する。B充			
てんポンプ (自己冷却) による代替炉心注水ができない場			
合は、A格納容器スプレイポンプ(自己冷却)(RHRS			
-CSS連絡ライン使用)による代替炉心注水を行う。			
A格納容器スプレイポンプ(自己冷却)(RHRS-CS	B-格納容器スプレイポンプ(自己冷却)(RHRS-		
S連絡ライン使用)による代替炉心注水ができない場合	CSS連絡ライン使用) による代替炉心注水ができない場		
は、消火ポンプによる代替炉心注水を行う。ただし、構内	合は、消火設備による代替炉心注水を行う。ただし、重大		記載表現の相違
で火災が発生した場合においては、消火活動に優先して使	事故等対処に悪影響を与える火災の発生がない場合に使		・消火設備は消火活動に優先して使用す
用する。消火ポンプによる代替炉心注水ができない場合	用する。消火設備による代替炉心注水ができない場合は、		る手順に相違なし。
は、海水を水源とした可搬式代替低圧注水ポンプによる代	淡水又は海水を水源とした可搬型大型送水ポンプ車によ		設備の相違 (差異理由③)
替炉心注水を行う。 可搬式代替低圧注水ポンプは重大事故	る代替炉心注水を行う。可搬型大型送水ポンプ車は重大事		
等対処設備であるが、使用準備に時間を要することから、	故等対処設備であるが,使用準備に時間を要することか		
A格納容器スプレイポンプ(自己冷却)(RHRS-CS	ら,B-格納容器スプレイポンプ(自己冷却)(RHRS		
S連絡ライン使用) による原子炉への注水手段を失った場	-CSS連絡ライン使用)による原子炉への注水手段を失		
合に準備を開始し、多様性拡張設備を含む他の注水手段が	った場合に準備を開始し、準備が整った際に他の注水手段		
なければ原子炉への注水を行う。	がなければ代替炉心注水を行う。		
	可搬型大型送水ポンプ車による炉心注水のための水源		設備の相違 (差異理由③)
	は、水源の切替による注水の中断が発生しない海水を優先		・泊3号炉の可搬型大型送水ポンプ車は,
	して使用し、海水取水箇所へのアクセスに時間を要する場		淡水又は海水の注水が可能なため、水
	合には、準備時間が最も短い代替給水ピットを使用する。		源の優先順位を整理している。
	海水の取水ができない場合は、保有水量が大きい原水槽を		
	使用する。原水槽への補給は、2次系純水タンク又はろ過		
	水タンクから移送することにより行う。ただし、ろ過水タ		
	ンクは、重大事故等対処に悪影響を与える火災の発生がな		
	い場合に使用する。		
また、原子炉補機冷却機能喪失時は上記手段に加えて空	また,原子炉補機冷却機能喪失時は上記手段に加えて		設備の相違 (差異理由®)
調用冷水を使用したA余熱除去ポンプ及び電動消火ポン	電動機駆動消火ポンプによる代替炉心注水の手段があ		記載表現の相違
プによる原子炉への注水手段がある。A余熱除去ポンプ	る。電動機駆動消火ポンプは原子炉補機冷却機能喪失時		国山野なるスクルップTEL 2000
(空調用冷水)は恒設代替低圧注水ポンプによる代替炉心	る。電動機能動員グホンノは原丁炉柵機作却機能投入時でも使用可能なためB 一格納容器スプレイポンプ(自己		
(空調用行小)は但取代省低圧往小小ノノによる代省炉心	でも使用可能なためら一倍納谷器ヘノレイホンノ(自己		

冷却)(RHRS-CSS連絡ライン使用)による代替炉

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
補機冷却機能喪失時でも使用可能なためA格納容器スプ	心注水ができない場合に使用する。		
レイポンプ(自己冷却)(RHRS-CSS連絡ライン使			
用)による代替炉心注水ができない場合に使用する。			
代替炉心注水により燃料取替用水ピット水等を原子炉	代替炉心注水により燃料取替用水ピット水等を原子炉		
へ注水後、大容量ポンプによる補機冷却水が確保できれば	へ注水後, 可搬型大型送水ポンプ車による補機冷却水が確		
格納容器再循環サンプに水源を切り替えて、B高圧注入ポ	保できれば格納容器再循環サンプに水源を切替えて、A-		
ンプ(海水冷却)を用いた高圧代替再循環運転により原子	高圧注入ポンプ(海水冷却)を用いた高圧代替再循環運転		
炉への注水を行い、あわせて大容量ポンプからの海水を格	により原子炉へ注水を行い、あわせて可搬型大型送水ポン		
納容器再循環ユニットの冷却系へ通水することにより格	プ車からの海水を格納容器再循環ユニットの冷却系へ送		記載表現の相違
納容器内を冷却する。	水することにより格納容器内を冷却する。		
運転停止中において原子炉補機冷却機能喪失が発生し			設備の相違 (差異理由®)
た場合は、代替炉心注水により燃料取替用水ピット水等を			
原子炉へ注水後、格納容器再循環サンプに水源を切り替え			
て、準備時間の短いA余熱除去ポンプ(空調用冷水)を用			
いた低圧代替再循環運転による原子炉への注水を行い、あ			
わせて大容量ポンプからの海水を格納容器再循環ユニッ			
トの冷却系へ通水することにより格納容器内を冷却する。			
A余熱除去ポンプ(空調用冷水)による低圧代替再循環			
運転ができない場合は、B高圧注入ポンプ(海水冷却)を			
用いた高圧代替再循環運転により原子炉へ注水を行う。			
以上の対応手順のフローチャートを第 1.4.43 図に示	以上の対応手順のフローチャートを第 1.4.48 図に示		
す。	す。		
			L

赤字: 設備, 運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字: 記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

違なし。

## 1.4 原子

呼結果を連絡し、出入監視員は全作業員が退避している

ことを再確認する。

夏子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却する	ための手順等		緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違な
大飯発電所 3 / 4 号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
(3) 原子炉格納容器内の作業員を退避させる手順等	(3) 原子炉格納容器内の作業員を退避させる手順等		
運転停止中において、全交流動力電源喪失又は原子炉補	運転停止中において,全交流動力電源喪失等により余熱		記載表現の相違
機冷却機能喪失により余熱除去設備による崩壊熱除去機	除去設備による崩壊熱除去機能が喪失した場合又は1次		
能が喪失した場合又は1次冷却材が流出した場合に、燃料	冷却材が流出した場合に,燃料取替用水ピットの保有水を		
取替用水ピットの保有水を充てんポンプ等にて原子炉へ	充てんポンプ等にて原子炉へ注水して開放中の加圧器安		
注水して開放中の加圧器安全弁から格納容器内へ蒸散さ	全弁から格納容器内へ蒸散させることにより原子炉を冷		
せることにより原子炉を冷却する。この場合は、格納容器	却する。この場合は、格納容器内の雰囲気悪化から格納容		
内の雰囲気悪化から格納容器内の作業員を守るために作	器内の作業員を守るために作業員を退避させる。		
業員を退避させる。			
また、運転停止中に1次冷却系の希釈事象が発生し、中	また,運転停止中に1次冷却材の希釈事象が発生し,中		
性子源領域中性子東が上昇した場合は、格納容器内の作業	性子源領域中性子東が上昇した場合は、格納容器内の作業		
員を守るために作業員を退避させる。	員を守るために作業員を退避させる。		
なお、運転停止中のミッドループ運転期間外の作業員の	なお, 運転停止中のミッドループ運転期間外の作業員の		
退避については、原子炉容器に燃料を装荷した状態で、か	退避については,原子炉容器に燃料を装荷した状態で,か		
つ1次冷却系に開口部がある期間は運転停止中のミッド	つ1次冷却系に開口部がある期間は運転停止中のミッド		
ループ運転中と同じ管理を行う。	ループ運転中と同じ管理を行う。		
(添付資料 1. 4. 22)	(添付資料 1.4.22)		
a. 手順着手の判断基準	a. 手順着手の判断基準		
運転停止中に全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却	運転停止中に全交流動力電源喪失等により余熱除去設		記載表現の相違
機能喪失時、余熱除去設備の崩壊熱除去機能が喪失し、原	備の崩壊熱除去機能が喪失し、原子炉への注水を低圧注入		
子炉への注水を余熱除去流量等にて確認できない場合又	流量等にて確認できない場合又は格納容器サンプの水位		
は格納容器サンプの水位等にて1次冷却材の流出を確認	等にて1次冷却材の流出を確認した場合。		
した場合。	(事動) (大力) マイット・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・		
運転停止中に1次冷却系の希釈事象が発生し、中性子源	運転停止中に1次冷却系の希釈事象が発生し,中性子源		
領域中性子束の上昇により停止時SR中性子束高退避警	領域中性子束の上昇によりSR炉停止時中性子束高警報		
報作動警報が発信した場合又は停止時SR中性子東高退 避警報作動警報が発信するおそれがある場合。	が発信した場合,又はSR炉停止時中性子東高警報が発信 するおそれがある場合。		
<b>避害報件則書報が発信するわてれがめる場合。</b>	するわてれかめる場合。		
b. 操作手順	b.操作手順		
格納容器内の作業員を退避させる手順の概要は以下の	格納容器内の作業員を退避させる手順の概要は以下の		
とおり。	とおり。		
① 当直課長は、手順着手の判断基準に基づき運転員等に	① 発電課長(当直)は、手順着手の判断基準に基づき、		
格納容器内の作業員に対し退避を促すよう指示する。	運転員に格納容器内の作業員に対し退避を促すよう指		
行列を使行うシート未見に対し込むを促うよう行かうる。	示する。		
② 運転員等は、中央制御室でエバケーションアラーム又	② 運転員は、中央制御室にて格納容器内退避警報若しく		
はページング装置により格納容器内の作業員へ退避を	は所内通話設備により格納容器内の作業員へ退避を指		
指示する。	示する。		
③ 出入監視員は、現場で格納容器内入退域を管理する装	③ 格納容器出入管理員は、格納容器入口付近のC/V入		設備の相違
置により、全作業員が退避していることを確認する。	域退出管理簿を確認し、全作業者の退域を確認する。		・泊3号炉は社内規定にて定める格納容
④ 各作業の作業責任者(又は代理人)は、現場で作業員	West and the same of the same same same same same same same sam		器入域退出管理簿により入退域を管
の点呼を行い、全作業員が退避していることを確認す			理。
వ <sub>ం</sub>			・大飯 3/4 号炉と入退域の管理が異なる
⑤ 作業責任者(又は代理人)は、現場で出入監視員に点			が、作業員の退避を確認することに相
			THE PROPERTY OF THE PROPERTY O

赤字: 設備, 運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字: 記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)

## 1.4 原

『子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却する》		×32 1.11 V	緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違な
大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
⑥ 出入監視員は、現場で格納容器エアロックを閉止する。	<ul><li>④ 格納容器出入管理員は、現場にて格納容器エアロックを閉止する。</li><li>⑤ 運転員は、現場にて格納容器エアロックが閉止されたことを確認する。</li></ul>		
c. 操作の成立性 上記の対応は中央制御室にて 1 ユニット当たり運転員 等 1 名、現場にて 1 ユニット当たり出入監視員 1 名により 作業を実施し、所要時間は約 30 分と想定する。 円滑に作業ができるように、移動経路を確保し、可搬型 照明、通信設備等を整備する。作業環境の周囲温度は通常 運転状態と同程度である。 (添付資料 1.4.22)	c. 操作の成立性 上記の対応は、中央制御室にて運転員1名,現場は運転 員1名及び格納容器出入管理員1名により作業を実施し、 所要時間は約40分と想定する。 円滑に作業ができるように、移動経路を確保し、可搬型 照明、通信設備等を整備する。作業環境の周囲温度は通常 運転状態と同程度である。 (添付資料1.4.22)		
1.4.2.4 復旧に係る手順等 全交流動力電源が喪失した場合は、代替電源を設計基準 対処設備に給電し、起動及び十分な期間の運転を継続させ る。また、燃料取替用水ピットの枯渇、破損のおそれがあ る場合は、代替水源により水を供給する。 空冷式非常用発電装置の代替電源に関する手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」のうち、1.14.2.1(1)「空冷式 非常用発電装置による代替電源(交流)からの給電」にて 整備する。また、空冷式非常用発電装置への燃料補給の手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」のうち、 1.14.2.4(1)「空冷式非常用発電装置等への燃料(重油)補 給」にて整備する。また、燃料取替用水ピットの枯渇又は 破損時の補給手順等は「1.13 重大事故等の収束に必要と なる水の供給手順等」のうち、1.13.2.2(3)「燃料取替用水ピットから復水ピットへの水源切替」及び1.13.2.2(9)「復 水ピットから燃料取替用水ピットへの補給」にて整備する。 余熱除去ポンプの機能喪失により余熱除去設備が使用	1.4.2.4 復旧に係る手順等 全交流動力電源が喪失した場合は、代替電源を設計基準 事故対処設備に給電し、起動及び十分な期間の運転を継続 させる。また、燃料取替用水ピットの枯渇又は破損のおそ れがある場合は、代替水源により水を供給する。 代替非常用発電機の代替電源に関する手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」のうち、1.14.2.1(1)「代替非常用発電機による代替電源(交流)からの給電」にて整備する。また、代替非常用発電機への燃料補給の手順は「1.14電源の確保に関する手順等」のうち、1.14.2.4「代替非常用発電機等への燃料補給の手順等」にて整備する。 燃料取替用水ピットの枯渇又は破損時の対応手順は「1.13 重大事故等の収束に必要となる水の供給手順等」のうち、1.13.2.2「炉心注水のための代替手段及び燃料取替用水ピットへの供給に係る手順等」にて整備する。		記載方針の相違(差異理由⑦) 記載方針の相違 ・大飯 3/4 号炉は個別手順のリンク先を 記載しているが、泊 3 号炉は燃料取替 用水ピットへの供給手順等の手順全般 をリンクさせる記載としている。
宗然除去ホンノの機能喪失により宗然除去設備が使用できない場合は、余熱除去設備の復旧を継続して実施する。低温停止に移行する場合に、余熱除去設備が復旧していない場合は、1.4.2.2(1)c.「蒸気発生器2次側のフィードアンドブリード」により低温停止に移行する。全交流動力電源喪失と1次冷却材喪失事象が同時に発生した場合は、1.4.2.1(2)「サポート系機能喪失時の手順等」で示した手順で対応する。また、運転停止中に全交流動力電源喪失が発生した場合は、1.4.2.3(2)「サポート系機能喪失時の手順等」で示した手順で対応する。	宗然除去ホンノの機能喪失により宗然除去設備が使用できない場合は、余熱除去設備の復旧を継続して実施する。低温停止に移行する場合に、余熱除去設備が復旧していない場合は、1.4.2.2(1) c. に示す「蒸気発生器2次側のフィードアンドブリード」により低温停止に移行する。全交流動力電源喪失と1次冷却材喪失事象が同時に発生した場合は、1.4.2.1(2) 「サポート系機能喪失時の手順等」で対応する。また、運転停止中に全交流動力電源喪失が発生した場合は、1.4.2.3(2) 「サポート系機能喪失時の手順等」で対応する。		記載表現の相違 記載表現の相違

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

	30 01301	大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
分類	第1 (運動中の 1 名 (運動中の 1 名 (設計生業事次内収的	A、B充てんポンプ <sup>®</sup> の 対事	第 1.4.1 表 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (運転中の1次冷却材喪失事象が発生している場合		
		数末ピット   振等   原子がを作出する 34版   次の作用が存金機 を行じてる   ほう酸オンプロ   1 う酸インプロ   1 う 数 1 分 1 分 1 分 1 分 1 分 1 分 1 分 1 分 1 分 1	におけるフロントライン系機能喪失時)		
		1次系統大タンク 催作 接触の手間	が仮		
1次市埠村喪失事祭が発生してフロントライン系機能喪失	企業を含ませんプ 株式を含まれない。 株式のようで でしまった。 一般に対しています。 一般に対しています。 を表する。 できませんだった。 できまする。 できまする。 できまする。 できまする。 できまする。 できまする。 できまする。 できままする。 できままする。 できままする。 できままする。 できままます。 できままままままままま。 できままままままままままままま。 できまままままままままま	(福州28年 ~ 6 3 後等の ・ 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	がある。		
が、時を報会	水割除去ポンプ	製造ドラン信で 南田住入ボンプロ 対事 森田住入ボンプタ用い 折くの寄しい機能	が 注 が		
8	京都幹去市日曜 京都幹去ボンブ 又は 京都長人は 海田洋入ボンブ 終納容別所提考ンプが 入口格納容別開発す 入口格納容別開発す	<ul> <li>最初が10年7月1日 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2</li></ul>	**		
	格納容器严格権 サンプスクリーン	世 会			
W. C. W. W.	CARALINE STATE OF THE STATE OF	度量 2 の意味発音やング及び展正性人がンプ父は教育時報用水ビット等機能更高いの代替から使水に用い を実施しています。 では、 にはないる場合が認め、このでは、 には、「生態性ない。 でも開始する。 でも開始する。 でも開始する。 では、「生態性ない。 でも開始する。 では、「生態性ない。 では、「生態性ない。 では、「生態性ない。 では、「生態性ない。 では、「生態性ない。 では、「生態性ない。 では、「ない。」 では、「ない。 では、、「ない。 では、、「ない。 では、、「ない、、「ない、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	性性 (4) 本書 機能を立て、最近在人式シア、最近在人式シア、最近在人式シア、 本書 機能を立て、最近在人式シア、最近在人式シア、最近在人式シア、 ● 11・活動は「1.11 意义等をかいました。 12・1 というでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、12・1 というでは、12・1 という		

赤字:設備,運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

			大飯発電所3/4		1101 1 1 1 2 1						泊発電所3	号炉			女川発電所 2 号州	F	差異理由
		149= 14	R能療失を抵定する設計基準事故対	historia u s	1備十五壬辰			第	1.4.2表	機能	出喪失を想定する設計基	準事故文	対処設備と割	を備する手順			
(運転中の1次冷却材製失事象が発生している場合におけるサポート系機能換失時)(1/2)					(運転中の1次冷却材喪失事象が発生している場合					東が発生	している場	合					
分類	機能療失を想定する 設計基準事件対処設備		対応設備 対応設備	分類等	整備する手質書 他取代特別月注水 ポンプを用いた	手順の分類		におけるサポート系機能喪失時)									
		-	· 大大於用發電裝置**	a,b	他取代権部月往本 ポンプを用いた 代替からは木こより 原子炉を発針する手順 B寛てムポンプ (自己発知) を用いた	炉心の着しい損傷 及び格納容器破損 を防止する 遅転手順書		分類	機能無夫を徒だする 設計医療事能対処役	HE	花 対応数備	放傷 分類	整備する不順會	手順の分類			
		1	たてんポンプ(自己帝却) プロ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	a,b	(自己治知) 今用いた 代替炉心注水により 用子炉を治針がる手順	運転手順書		T	<b>取引医学手段</b> 力於於	M 4.64	代語為研察器スプレイポンプ	a. b		330 300			
		1,000	kent s	t a							代後非常月至電機 ※ I 燃料取替用水ビント	童 s, b 夫 本 s, b					
		2000	対抗貯職タンク <sup>10</sup> 哲 ロケンク <sup>20</sup>	a,b	光てんポンプ 自己希知配管接続の手順 後未ピット出口配管	SA所達*1					複数数水ビット ロー窓でんポンプ (古己希知)	· ·					
		_	Ø21-9-™	.,,-	後末ピット出口配管 技能の手順 空形式非常用発電装置 無料雑給の手順 人格納容器スプレイ	S ARHET					ディーゼル発電機部料泊約泊槽 *7	() () ()					
		45 (B	(名前容器スプレイポンプ (己州知) (日州和) (日州和) (日 (日曜日 (日本日 (日本日 (日本日 (日本日 (日本日 (日本日 (日本日		ボンブ (自己合知) を用いた 代替炉で往水こより 原子炉を飛却する手順	炉心の著しい機構 及び格納容器破損 を防止する				代春	日乗型ケンフローリー × 7 ディービル発電機能料油排送ポンプ + 7 + 8	4. b					
1 IR		177	御着用水ビット		原子師を帝知する手順 格納容器スプレイポンプ	を防止する 運転手順書 SA所達 <sup>9</sup> :				を	5 一株所添替スプレイポンプ(自己的 が)(我日日S一CSS連絡ライン世 用)	ş \					
冷 郑 材 サ		水 ディ	・一世ル領人ポンプ 値	2	自己治知配管接続の手順 調火ポンプを用いた 代替炉に使水により 原子炉を治却する手順					*	燃料放替用水ビット ディーゼル駆動消火ポンプ	# \ H					
材表失事		100	1. 2 技术タンク な大器低圧注水ボンプ**	1	原子伊を奇知りる手順	を防止する 運転手順書		I.			う選木タンク 可製型人型送水ボンブ車 ◆3 ディーゼル発電機製料の製料機 ★4	. 11					
魚 五	全交换動力電源等	23		r.	可能式代替 仮正注水ボンブを用いた 代替炉も注水により	炉心の著しい機像 及び格納容器破損	2 2	6 F +	全交流動力電器 # 1		ディーゼル及電路飲料油町油槽 * 4 可需型タンタローリー * 4 ディーゼル資電機助料油輸送ポンプ + 4 + 8	# a	全交流動力電原音矢時; 25ける対応手順	- 0			
発生して		領路	短記文式水槽 I	4	原子炉を治費ける手順	を防止する 運転手順書	2	# 1 F			可要型大型店水ボンブ室 化装約水ビット	*		が心わ著しい損傷及び 納容器破損を防止する			
5		1 2	A A A A A A A A A A A A A A A A A A A	a	可搬式代替 低圧性水ポンプによる 炉心性水の手機	SA所達 <sup>83</sup>	が 展			可勝型大型送水ボンブ車 取水槽 キリ 2 女長稀水ケンク キ 2 ろ退水ケンク キ 2	推		新中央書 和中共書				
母		-	まタング <sup>10</sup> ガ	E .	如心性水の平臓		1	サルを			ムー東圧在入ポンプ (商水治却) + 5 ムー特所学習再復業サンプ						
			ッタローリー <sup>®</sup> * Bドラム血 <sup>®®</sup>				# fr	*		作者	人 - 格納電影高温療サンプスクリーン 化物本実現高電車 + 1	意大					
			WE性入ポンプ (商木冷却)		B高圧性入ポンプ (海水溶却) を得いた代	切心の著しい機体 及び格納容別転換				推建	可養型大型送水ボンブ車 *5	82 4, b					
		15	は最ポンプ <sup>内</sup> 的容素再標素サンプ	E C	(海水治域) を用いた代 替再希摩運転により 原子炉を飛却する手順	使再指標連転により   を防止する				(e)	ディーピル交電機能料泊計油槽 +4+7 可需等タンクローター *4*7	飲飲					
		-041	の原本高級サンプスケリーン 計 会式非常用及電装値 <sup>®</sup> 2 オ	a,b	大容量ポンプこよる				22		ディーゼル発電機能料油砂造ポンプ + 4 + 7 + 日	4	3				
			H自貯蔵タング <sup>Mart</sup>	2	原子が補機所は水系通木の手順					代春年	(a) 全交換動力電振英気時の対応手段のうち円 用いる静健を回降	70 C	原子炉 補機術 政議能 廃棄				
		重用	数タンク <sup>(6)(6</sup> 7 (クママーリー <sup>(1)(6)</sup> 7	8	空冷式作常用発電装置 無料補給の手順	SA所達門			原子が被拠治却小月	位 *	産動機動物は火ボンフ	*	時の対応手額				
※1:「大青 ※2:手順	2発電所 重大事故等発生 は「114 電源の確保に関	時における原 する手順等」(	十分性深の水からための信頼に関する所 に、整備する。 、 中間する114 種類の種類に関する手 ら場合は体水をは水する。 ・ 手間と 12.6 原子の縁和器が かある。手間と 12.6 原子の縁和器が のように、の子の縁和器がのため ののかり のかり のかり のかり のかり のかり のかり のかり のかり のか	(達)		-				連載さ		<b>黎万省推進松</b>	1次冷却村後失事素別が 時における再復傳運転的 に原子伊護業科対機数の	t c			
係4:可能 係5:電源	以が布用完理を重り取付 式化替便正注水ボンブに。 単(可要式代替便圧注水 東の修料練会に使用する。	B解に使用する とり拒む注水す ドンプ用)の標 開開のもので	)。 平明は「1.14 魔族の健康に関する子 「る場合は海水を往水する。 「野神緒に使用する。手順は「1.6 原子会 「ちょう、手順は「1.6 原子会	中国を 戸格納容器内 内容を関係のと	配削する。 の治知等のための手順等」 よの手順等。にて整備と人	にて整備する。	*	1; 48	N1 「1.14 電振の権法	の 機 機 に関する	福 に用いる設備と口様 連 のぞ順等」にて整備する。		毎失した場合の対応す! 等	9			
※7 : 大容 ※8 : 手順 ※9 : 重大	量ポンプの燃料機能に使り は「15 最終とートシンク 事故等対策において用い	付る。手順は へ勘を輸送す 数値の分類	116 原子炉格前容器内の冷划等のため るための子順等」にて整備する。	6の手腕等]	にて整備する。		*	2:原オ 2:用業 4:用業 日:確か	(権一の無助は、2次) (型大型 差ポポンプ車) (収入服 差太ポンプ車) (による代替補機所却)	が現水戸 ことが毎 の燃料機 の手種社	■ 「本」は、「一般でする。 マリカーは、「一般でする。 マリカーは、「一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、	* 1770。 ※数単の収率に 5手服等」4にで	C必要となる水の供給す 物質する。	期等」にて整備する。			
a:	当該条文に適合する重大を	F故等对処設備	1 6:87条に適合する重大事故等対域書	Q備 c:Ĥ:	的対策として整備する血ス	大事故等对処設備	*	5:C. 7:RW 8:74	D - 株納学等等質機・ (本室用発整機の資料) - セル発電機燃料用(	e ボット 構造に使 検送ボン	・で格納容易治却を行う。手順は「1.1 第子炉 E吊する。依料解始の手順は「1.14 電面の構作 シブは、可撤功タンタローリーによるディーゼ	8前8部の通用) に関する手頭等 U発電機即料(日)	敬養を防止するための。 動したて整備する。 御田棚からの燃料扱み)	F順等」にて整備する。 にけができない場合に			
							*	0:27	19 0。 (事故対策において用) 当該東京に適合する業	・ る 設備: 大事 改革	アプロ、可機能がシテローリーによのディーセ 側の分類 等対処投傷 b:37等に適合する直大等投等を	SERVE C:D	まの対象として整備す	心重大事故等対処数値			
	2	1.4.2表 6	総能喪失を想定する設計基準事故を	が処数備と	変備する手順												
分類	(選転中の1 機能療法を想定する 設計基準事故対処齢備		た事象が発生している場合における 対応設備	サポート3 穀傷 分類で	(機能喪失時) 12/2) 整備する手順書	手幅の分類											
27.00	設計基準事故対処設備	1	Andexise 全交技能力電源喪失時の対応手段のうち。		Seekan Seekans	7794											
1. 新期 サ	1																
村喪失		ů –			炉を冷却する手順 消火ボンプを用いた	炉心の著しい機構 及び格納容器改換 を防止する 運転手順書											設備の相違 (差異理由®)
秦 · 林 · 健	原子炉補機。希知水系	· Et	動剤火ポンプ		代替炉心注がにより 原子炉を冷却でる手順	AMEN'TYRE		-	<del>人</del> 衛豆 S	2	/ 4 号炉との	) Hri	龄分身	15/21			(左共庄田(0))
要失時		w15	全交債能力能加強失時の対応手段のうち 分割除去ポンプ (空間用者木) *2 tt	代替四級集員	MAC用いる歌像と同様 A 会教的キャンプ	tercionate i susuale		-	/\D)X	, /	4 7 M C V	/ <b>/</b> LL!	+人/] 多	(A)			
香		湯格	対容器再循環サンプ 対容器再循環サンプ	業	(空観用冷水)を用いた 代替再級環連部により 原子炉を冷却でる手順	を防止する											
⊕1 : A、 ⊕2 : 手順 会2 : 手順	D格納容器再帰環ユニッ 日本「15 景終セートシン・ 事材等分類にされて用い	トで格納容器が	的容を持續サンプスクリーン ************************************	型の適正統分	を防止するための手模等」	こて整備する。											
A:	当政条文に連合する重大	<b>本</b> 故等對均較值	情 16:27 条に適合する重大事故等対処	Billio e: A	的対象として整備する重	大事故等对约款借											

赤字:設備,運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	泊発電所 3 号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
第143章 機能資本を認する記計基準等は対応資子整要する手類 (開発プリルボトで登出作は対する場合) (開発プリルボトでは対す) (開発の対すりが成する場合) (開発の対すが、対応の対す (開発の対す (開発の	第 1. 4. 3 表 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(治験デブリが原子が容易内に残存する場合)  ②		

赤字:設備,運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
第144章 機能用外を配置する設計基準を対します。 (選出すり1次の経験を発表を設けるとしていない場合)(1/2)  (選出する7年間	第1.4.4表 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (選転中の1 次行却対喪失事象が発生していない場合) (1 / 2)		

1 <u>.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却</u> するため	の手順等	除了, 記載表先, 欧洲石が少日達 (天真t)な日達なじ/
大飯発電所3/4号炉	泊発電所 3 号炉	女川発電所2号炉 差異理由
第 1.4.5 妻 機能疾失を形定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (連転停止中のフロントライン系機能疾失等) (1.7.2)  ②類 (連転停止中のフロントライン系機能疾失等) (1.7.2)  ②類 (連転停止中のフロントライン系機能疾失等) (1.7.2)  ②数 (連転停止を放送機 子説 がた診臓 が	第 1. 4. 5 表 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (運転停止中のフロントライン系機能喪失時)(1 / 2)	
東京田大ポンツや 一般代質情報とシャト を対する。 一般では、アンター 一般では、アンター 一般である。 一般で		
関連ドラム他が 選回 編成 を	11. 「ディーサルを連携等に入れません。 12. 「「ディーサルを連携等に入れません。 13. 「「「「「「「「「「」」」」」」 13. 「「「「」」」」 14. 「「「「」」」 15. 「「「」」」 16. 「「「」」 16. 「「」」 16. 「「」」 16. 「「」」 16. 「「」」 16. 「「」」 16. 「「」」 16. 「「」」 16. 「「」」 16. 「「」」 16. 「「」」 16. 「「」」 16. 「「」 16. 「「」」 16. 「「」 16. 「「」」 16. 「「」」 16. 「「」 16. 「「」 16. 「「」」 16. 「「」 16. 「「」 16. 「「」」 16. 「「」 16.	

大名名電子3 / 4 547	1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するため	の手順等	(献子: 記載表現, 設備名称の相違(美質的な相違なし)
本語の表現では、10年の日本の主義を対していません。			女川発電所2号炉 差異理由
	第1.46 表 機能療失を想定する設計基準等級対比的強と整備する子類 (2.45)	第 1. 4. 6 表 機能 喪失を想定する設計 基準事故 対処設備 と整備する手順  (運転停止中のサポート 系機能 喪失時) (1 / 2)    25	
	大き量ポンプキ  所	を	

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
第1.45 要 機能療失を形定する設計薬事業放射処理機と影響する平線 (運転停止中のサポート系領理疾失時) (2/2)  (運転停止中のサポート系領理疾失時) (2/2)  (運転停止中のサポート系領理疾失時) (2/2)  (運転停止中のサポート系領理疾失時) (2/2)  (運転停止中のサポート系領理疾失時) (2/2)  (選集 かしての動物域水ボンブ 東		女川発電所 2 号炉	差異理由
A金製修去ポンプ	運作 (5) (5) (5) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (8) (7) (8) (8) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9		

赤字:設備,運用又は体制の相違(設計方針の相違)

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

			発電用原子炉を冷却するための	<b>少 手順等</b>	34	TV AND T		LILENGE COLLEGE	Ada III ann I
	大飯	発電所3/4号	<b></b>		泊	発電所3	<b>号</b> 炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
第 1.4.7 表 1.4 原子炉冷却材圧力バウン の手類等 監視計器一覧 (1/48)						リ低圧時に	対処に係る監視計器 発電用原子炉を冷却するための		
対応手段		重大事故等の 対応に必要となる 監視項目	監視計器	対応手段 1.4.2.1 1次治却材喪失事象が発生して	いる場合	重大事品 対応に必要 監視可	(となる 監視計器		
<ol> <li>1.4.2.1 1次冷却材喪失事象が3</li> <li>(1) フロントライン系機能度</li> </ol>	発生し失時の	ている場合 0手順等		<ul><li>(1) フロントライン系機能喪失時</li><li>a. 抑心性水</li></ul>	の手順を	46			
a. 炉心注水		0	<ul> <li>1次冷却材高温侧温度計(広域)</li> </ul>			原子炉压力	・ 1 次冷却材温度(広城一高温側)		
		原子炉圧力容器内	· 1次冷却材低温侧温度計(広域)			の温度	- 1次市却付值後(広城一版值間)		
		の温度	・ 炉心出口温度計			原子炉格組	· 炉心出口湿度		
		原子炉圧力容器内				の水位	- 研究会会の対象をランクが担(仏域)		
		の圧力	· 1 次帝却材圧力計		3	利 原子炉圧力 の水位	容器内 ■ 加圧器水位		
	det	原子炉圧力容器内 の水位	<ul><li>加圧器水位計</li></ul>			基 原子炉压力	容器內 - 高圧往入流量		
	判断	原子炉圧力容器內	・高圧注入流量計		-	への注水量			
	基準	への注水量	· 余熱除去流量計			水原の確保	・ 燃料収替用水ビット水位		
		原子炉格納容器内 の木位	<ul><li>格納容器再循環サンプ水位計(広域)</li></ul>				<ul><li>高圧注入ポンプ出口圧力</li></ul>		
		O/MIL	・燃料取替用水ピット水位計			植機監視機	The state of the s		
			・復水ビット水位計	(a) 充てんポンプによる炉心注水	-	-	・ 余熱除去ポンプ電流		
		水源の確保	<ul><li>ほう酸タンク木位計</li></ul>			原子炉圧力			
			・1 次系純木タンク水位計(CRT)			の温度	<ul> <li>「仮作却的福度(広東ー松海側)</li> <li>炉心出口温度</li> </ul>		
			· 1次冷却材高温侧温度計(広域)			原子炉压力	arter CSC vibra		
(a) A、B充てんポンプによる		原子炉圧力容器内	· 1 次冷却材低温侧温度計(広域)			の圧力	1 SC 11 APRIL DO CAMPA		
炉心注水		の温度	<ul><li>炉心出口温度計</li></ul>		8	操 原子炉圧力 の水位			
		原子炉圧力容器内	• 原子炉水位計		13	作原子炉圧力	<ul> <li>原子炉容器水位</li> </ul>		
		の水位	· 加圧器水位計			への注水量	・充てん流量		
		原子炉圧力容器內	・充てん水流量計			原子炉格組の木位	容器内 - 格納容器再循環サンプ水位 (広域)		
		への注水量	<ul> <li>出力領域中性子東計</li> </ul>			水源の確保	・ 燃料取替用水ビット水位		
	222		· 中間領域中性子東計		6	拍機監視機	龍 ・ 充でんライン圧力		
	操作	未臨界の維持又は	· 中性子源領域中性子東計	*		153			
	100	監視	· 中間領域起動率計						
			· 中性子源領域起動率計						
		原子炉格納容器內	・格納容器再循環サンプ水位計(広						
		の木位	域)						
			・燃料取替用水ビット水位計						
		水源の確保	・復木ピット水位計						
			・ほう酸タンク木位計						
	_		・1 次系純木タンク水位計(CRT)						
									1

	シンク 起圧 時に 光電 が ボール・マー かっこん い 飯 発電 所 3 / 4 号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉 差異理由
整視計器一覧(2/48)	重大事故等の	監視計器 一覧 (2 / 5 0)	
対応手段	対応に必要となる 監視項目	監視項目 1.4.2.1 1次治却材密矢事象が発生している場合 (1) フロントライン系機能衝失時の手順等	
(a) A格納容器スプレイポンプ (RHRS-CSS連絡ライーン使用) による代替如心往水	原子炉圧力容器内 の温度 (広域) ・1 次冷却材高温側温度計 (広域) ・炉心出口温度計 (広域) ・炉心出口温度計 ・1 次冷却材圧力計 の圧力 の水位 ・ 加圧器水位計 ・ 元てん水流量計 で・ 一 水水の産保 ・ 燃料取替用水ピット水位計 ・ 水源の産保 ・ ルス・ ル ・ ル ・ ル ・ ル ・ ル ・ ル ・ ル ・ ル ・ ル	原子が圧力容器内 - 1 次帝却材産度 (広域・新護機) - 2 次帝和利度 (広域・新護機) - 3 次帝和利度 (広域・新護機) - 3 次帝和利度 (広域・新護機) - 3 次帝和利度 (広域・新選権) - 3 次帝和利度 (広域・新選権) - 3 次帝和利度 (広域・公産な	

		反発電所3/4	発電 <i>用原子炉を伶封するため。</i> 号炉	D-T-NR-4	泊	発電所 3 号炉		女川発電所2号炉	差異理由
	/ \/	X)EHE// 0 / 1	· • //		IH.	)C1E// O 1/4		27/17G-E01 = 37/	ZL7K-ZF
				監視計器一覧 (3/50)					
監視計器一覧 (3/48)			75						
対応手段		重大事故等の 対応に必要となる	監視計器	対応手段		重大事故等の 対応に必要となる 監視項目	壁 視計器		
1.4.2.1 1次冷却材喪失事象が	発生1	監視項目 ている場合		1.4.2.1 1次冷却材度失事象が発生してい (1) フロントライン系機能喪失時の	いる場合	â ·			
<ul><li>(1) フロントライン系機能喪</li><li>b. 代替炉心注水</li></ul>	失時	の手順等		(1) プロントライン系機能疾失時の b. 代替炉心注水	ひ手順き	*			
O. PARA CILLA	Ī		· 1 次冷却材高温侧温度計 (広域)			原子炉圧力容器内 の温度	・ 1 次冷却材温度 (広城一高温側) ・ 1 次冷却材温度 (広城一低温側)		
		原子炉圧力容器内 の温度	· 1 次冷却材低温侧温度計 (広域)			原子炉圧力容量内	· 1次帝却村正力(広城)		
			・炉心出口温度計			の圧力 原子炉圧力容器内			
		原子炉圧力容器内の圧力	· 1 次冷却材圧力計		12	断の水位	<ul> <li>加圧器水位</li> <li>B - 格納容器スプレイ流量</li> </ul>		
	401				25	基 原子炉圧力容易内 への注水量	<ul> <li>B - 格納容器スプレイ冷却器出口積算</li> </ul>		
	判断基	の木位	<ul> <li>加圧器木位計</li> </ul>				流量(AM用)		
	基準	原子炉圧力容器内	• A余熱除去流量計			原子炉格納容暴内 の水位 水類の確保	・ 格納容器再循環サンプ水位 (広域)		
		への注水量	A CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR		-	4	<ul><li>・燃料取替用水ピット水位</li><li>・代替非常用発電機電圧、電力、周装数</li></ul>		
		原子炉格納容器内の水位	<ul> <li>格納容器再循環サンプ水位計(広域)</li> </ul>	(b) 代替格納容器スプレイポンプによる		電源	<ul> <li>6-A, B母樂電圧</li> </ul>		
			・燃料取替用水ビット水位計	代替炉心往水		原子炉圧力容暑内	1 次帝郑材准度(広城一高温側)     1 次帝郑材准度(広城一低温側)		
		水源の確保	・復水ピット水位計			の温度	・ が心田口温度 (広域ー版画画)		
		原子如圧力容器内	<ul> <li>1次冷却材高温侧温度計(広域)</li> </ul>			原子炉圧力容器内の圧力	· 1次冷却材圧力(広域)		
		の温度	・1 次沿却材低温側温度計(広域) ・炉心出口温度計		15	操 原子炉圧力容器内 の水位	· 加圧器水位		
(b) 恒設代替低圧注水ポンプに		原子炉圧力容器内			1	D 水位 原子炉圧力容量内	<ul><li>原子炉容器水位</li><li>代答格納容器スプレイポンプ出口積算</li></ul>		
よる代替炉心注水		の圧力	· 1次冷却材圧力計			への往水量	・代替格頼存款スプレイホンプ四日横貫 売量		
		原子炉圧力容器内	・加圧器水位計			原子炉格納容器内 の水位	<ul><li>格納容器再築機サンプ水位(広域)</li></ul>		
		の木位	•原子炉水位計			水源の確保	・ 既料取替用水ビット水位		
		原子炉圧力容器内への注水量	・ A 余熱除去流量計 ・恒設代替低圧注水積算流量計			補機監視機能	<ul><li>・ 補助給末ピット水位</li><li>・ 代替格納容器スプレイボンブ出口圧力</li></ul>		
	坝	- SEPTEMB	<ul> <li>出力領域中性子東計</li> </ul>			100000000000000000000000000000000000000	184 (184 184 184 184 184 184 184 184 184 184		
	操作	+ Kir III on 10 his sec.	<ul><li>中間領域中性子東計</li></ul>						
		未臨界の維持又は 監視	<ul> <li>中性子额領域中性子束計</li> </ul>						
			・中間領域起動率計 中間領域起動率計						
		原子炉格納容器内	<ul><li>・中性子源領域起動率計</li><li>・格納容器再循環サンプ水位計(広</li></ul>						
		の木位	域)						
		水源の確保	・燃料取替用水ピット水位計						
		N/CB/Co-NHICHS	・復水ピット水位計						
		電源	・空冷式非常用発電装置 電力計、周波数計						
		0	HEATTHIN PHILOSOPHI						
				1					

大飯発電所3/4	発電 <i>用原子炉を冷却するため</i> 。 号炉	-> 1 /W 4	泊発電所 3 号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
大飯発電所3/4  重大事故等のなな。 重大事故等のなな。 監視可力を監視の表面である。 原子が正力容器がの原子が正力容器がの原子が正力容器がの形がに入ります。 原子が正力容器がのが、原子が正力容器がのが、原子が正力容器がのが、原子が正力容器がのが、原子が正力容器がのが、原子が正力容器がの形が、原子が正力容器がの形が、原子が正力を器が、原子が正力を器が、原子が正力を器が、原子が正力を器が、原子が、原子が、原子が、原子が、原子が、原子が、原子が、原子が、原子が、原子	一日次冷却材高温側温度計(広域)	監視計器一覧 (4 / 5 0)    対応予段	重大事献等の 対応に必要となる 整視項目	女川発電所 2 号炉	差異理由
の水位	域) • No. 2淡水ケンク水位計 (CR				

		発電所3/4	発電 <i>用原十炉を行却するにめ</i> 0 号炉	7,00,0	泊発電所 3 号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
監視計器一覧 (5/48) 対応手段		重大事故等の 対応に必要となる	監督計器	監視計器一覧 (5 / 5 0) 対比手段 1,4.2.1 i を行材表大事をが発生してい	重大事故与の 対応に必要となる 監視所由		
1.4.2.1 1次冷却材喪失事象が (1) フロントライン系機能喪勢				1.4.2.1 1 水停却粉代大事孝が発生してい (1) プロントライン系機能喪失時の b. 代替炉心注水	申申報等 原子炉圧力容息内 ・ 1 次帝非材温度 (広城一高温報)		
b. 代替炉心住水  (a) 可搬式代替低圧注水ボンプ による代替炉心注水	判断基準	原子炉圧力容器内の程度 原子炉圧力容器内の圧力 原子炉圧力容器内の木位 原子炉圧力容器内 の大位 原子炉圧力容器内 の大位 原子炉圧力容器内 の木位 原子炉圧力容器内 の石型度 原子炉圧力容器内 の圧力 原子炉圧力容器内 の圧力	- 1次行却材低准则温度計(広境) - 炉心出口温度計  - 1次冷却材圧力計  - 加圧器水位計  - A余熟除去流量計  - 恒設代替低圧注水積算流量計  - 格納容器再循環サンプ水位計(広域)  - 1次冷却材低温侧温度計(広域)  - 1次冷却材低温侧温度計(広域)  - が心出口温度計  - 1次冷却材低温侧温度計(広域)  - が心出口温度計  - 加圧器水位計  - 原子炉水位計  - 加圧器水位計  - 加圧器水位計  - 加圧器水位計  - 加圧器水位計  - 中間銀域中性子束計  - 中間銀域型動半計  - 中性子溶鋼域起動率計	(4) 導水を用いた 可製型大型造水ボンブ車による 代替が心法水	の温度 原子が正力容易内 の大松 原子が正力容易内 の上の (広域・) ・ 1 次冷却料す温度 (広域・) ・ 1 次冷却料す温度 (広域・) ・ 1 次冷却料す温度 (広域・) ・ 2 次冷却料 温度 (広域・) ・ 2 次分 理 対 に 2 次 2 次 2 次 2 次 2 次 2 次 2 次 2 次 2 次 2		

4 原子が高端的圧力ハソンタリ版圧時に発電用原子がを高端するだ 大飯発電所3/4号炉		泊発電所3	<del>-</del>	女川発電所 2 号炉	差異理由
	監視計器一覧 (6/50)				
	対応手段	重大事故等 対応に必要と 監視項目	の なる 監視計器		
	1.4.2.1 1次冷却材喪失事象が発生して (1) フロントライン系機能喪失時	ハる場合			
	b. 代替炉心注水	原子护圧力容	器内 · 1次治却材温度(広域-高温側)		
		の程度 原子炉圧力容	<ul> <li>1次冷却材温度(広域一框架側)</li> <li>1次冷却材圧力(広域)</li> </ul>		
		利 の圧力	T Art it which har Shi I war day		
		型 の水位 原子炉圧力容 への注水量	0.0000000000000000000000000000000000000		
		原子炉格納容 の木位			設備の相違
泊3号炉との比較対象なし		順子原圧力容	1 次治却材温度 (広城一高星側)     1 次治却材温度 (広城一低星側)		(差異理由③)
	(e) 代替給水ビットを木振とした 可能用大用学木ポンプ市による	の温度	- か心出口祖度		
	可能型大型送水ポンプ率による 代替炉心注水	原子炉圧力容の圧力	- 10(1) -0-31 (m/3) (m/30)		
		原子炉圧力容 の木位	<ul> <li>原子炉容器水位</li> </ul>		
		操 原子炉圧力容 作 への注水量 原子炉格納容			
		の水位	参門 - 格納容響再循環サンプ水位 (広城) - 出力領域中性子東		
		未臨界の維持 監視	<ul> <li>中間領域中性子束</li> </ul>		
		監視	<ul> <li>中間領域起動率</li> </ul>		
			<ul> <li>中性子際領域起動率</li> </ul>		
	監視計器一覧(7/50)				
	対応手段	重大事故: 対応に必要 監視項	すの たる 監視計器		
	1.4.2.1 1次冷却材喪失事象が発生して( (1) フロントライン系機能喪失時(	いる場合			
	b. 代替炉心注水	原子好压力多	器内 · 1次冷却材温度 (広城一高温側)		
		の温度 原子炉圧力2	<ul> <li>1次冷却材温度(広城-低温側)</li> </ul>		
		利 の圧力	The second second second		
		第 の水位 原子炉圧力を	MILL OF PAIL		
		への注水量 原子炉格納3	流量		
20日に10日はおりまた1		の木位	<ul> <li>1次冷却材温度(広城一高温側)</li> </ul>		設備の相違
泊3号炉との比較対象なし		原子炉压力3 の温度	1 次帝却材温度(広城一低温側)     炉心出口温度		(差異理由③)
	(f) 算水槽を水源とした 可搬型大型送水ボンブ車による	原予炉圧力報 の圧力			
	代替知心注水	原子炉圧力を の木位	# 加圧器水位 - 原子炉容器水位		
		原子炉圧力を への注水量			
		操 作 原子炉格納3 の水位			
			- 出力領域中性子東		
		未臨界の維持 監視	* 中驻于保険帐中往于宋		
			- 中間組城起動率 - 中性子療領域起動率		
		水源の確保	・ 2 次系絶水タンク水位		
			<ul><li>ろ過水タンク水位</li></ul>		

赤字:設備,運用又は体制の相違(設計方針の相違)

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

		発電所3/4	<i>発電用原子炉を冷却するため。</i> 号炉		泊泵	色電所3号炉			女川発電所 2 号炉	差異理由
	人以	元电/月0/47	A W.		口力	148/月3 万炉			タ/リル电/ハムケが	左共任口
監視計器一覧(6/48)				監視計器一覧(8/50)						
対応手機		重大事故等の 対応に必要となる	監視計器	対応手段		重大事故等の 対応に必要となる 監視項目	監視計器			
1.4.2.1 1 次冷却材喪失事象が <b>努</b>	70 KL 1	監視項目		<ol> <li>1.4.2.1 1次冷却材度失事象が発生している</li> <li>(1) フロントライン系機能喪失時の引 c. 再循環運転</li> </ol>	る場合 手順等					
<ol> <li>1.4.2.1 1次冷却材表矢事家か多</li> <li>(1) フロントライン系機能喪失</li> </ol>				c. 再循環運転	T		· 1次治却材准度(広城-高温側)			
c. 再循環運転	*****	2000				原子炉圧力容器内 の温度	· 1次治却材温度(広城一低温側)			
was and the second			· 1 次冷却材高湿侧湿度計 (広域)		啊	原子炉圧力容長内 への注水量	<ul> <li>近圧注入資量</li> </ul>			
		原子炉圧力容器内	· 1 次冷却材低温侧温度計(広域)		基	への在水量 原子炉格納容器内 の水位	1/2			
		の温度	· 炉心出口温度計		準	の水位	<ul> <li>格納容器再前機サンプ水位(広域)</li> </ul>			
9,000		原子炉圧力容器内	<ul> <li>1次冷却材压力計</li> </ul>			補機監視機能	<ul><li>・余熱除去ポンプ出口圧力</li><li>・余熱除去ポンプ電流</li></ul>			
	del	の圧力	2010/01/2001 12/2001	(a) 高圧注入ボンプによる高圧再落環運転		1	<ul> <li>・ 1次冷却材温度(広域ー高温側)</li> </ul>			
	判断基	原子炉圧力容器内	· 加圧器水位計		原の	原子炉圧力容製内 の温度	· 1次冷却材程度(広城-低湿側)			
	基準	の水位	2011-14-18/27 VES-01			の温度	<ul> <li>炉心田口湿度</li> </ul>			
		原子炉圧力容器内	• 余熱除去流量計			原子炉圧力容暑内 の水位	· 加圧器水位			
		への注水量	Becommon accommon				- 原子师容器本位			
		原子炉格納容器内	Compared to the control of the contr			原子炉圧力容器内 への注水量	· 高圧往入流量			
(a) 高圧注入ポンプによる高圧		の木位	坡)			原子炉格納容器内 の水位	<ul> <li>格納容器再循環サンプ水位(広域)</li> </ul>			
再循環運転		補機監視機能	・余熱除去ポンプ吐出圧力計			行機監視機能	<ul><li>高圧性入ポンプ出口圧力</li></ul>			
		原子炉圧力容器内	· 1 次冷却材高温侧温度計(広域)		-					
		の温度	· 1 次冷却材低温侧温度計(広域)							
			<ul><li>炉心出口温度計</li></ul>							
	操	原子炉圧力容器内 の水位	・原子炉水位計							
	作	原子炉圧力容器内								
		への注水量	・高圧注入流量計							
		原子炉格納容器内	・格納容器再循環サンプ水位計(広							
		の水位	域)							
		補機監視機能	・高圧注入ポンプ吐出圧力計							
								1		1
								1		1
								1		
								1		1
								1		1

	<i>ンタリ四年時に発電用原子がを</i> 飯発電所3/4号炉	11247 21255 11649	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
監視計器一覧(7/48) 対応手段	重大事故等の 対応に必要となる 監視計場	監視計器一覧 (9 / 5 0) 対応手段	重大事故等の 対応に必要ととも 整視項目		
- C. F. C. T.	監視項目	1.4.2.1 1次冷却材喪失事象が発生してい (1) フロントライン系機能要失時(	いる場合		
1.4.2.1 1次冷却材喪失事象が発生 (1) フロントライン系機能喪失時		d. 代替再编撰運転	原子炉圧力容器内 ・ 1次治均材温度(広城一高温側) の温度 ・ 1次治均材温度(広城一高温側)		
(a) A格納容器スプレイポンプ (RHRS-CSS連絡ライン使用)による代替再循環運 転	「原子炉圧力容器内の温度     「原子炉圧力容器内の温度     「原子炉圧力容器内の圧力    「力・1 次冷却材低温側    「炉心出口温度計    「の圧力    「原子炉圧力容器内の水位    「原子炉圧力容器内の水位     「一の北小星    「原子炉格納容器内    「水冷却材底温側    「北冷却材底温側    「北冷却材底温側    「北冷却材底温側    「北冷却材底温側    「北冷却材底温側    「水心出口温度計    「原子炉圧力容器内の水位    「原子炉圧力容器内の水位    「原子炉圧力容器内の水位    」    「原子炉水位計    「原子炉水位計    「水位    」    「水位    」    「水位    」    「水位    」    」	(a) B - 格納容器スプレイポンプ (RHRS - CSS連絡ライン使用) による代替再循層準転  プ水位計 (広 出圧力計 温度計 (広域)	制 原子伊圧力等着内 ※ 高工作人司量 ・ 高圧作人司量 第子伊軽前等器内 の水位 維機整視機能 ・ 高圧作人ポンプ出ロ圧力		

	<i>/ダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するため。</i> 反発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉 差異理由
大郎 監視計器一覧 (8/48) 対応手段	重大事故等の 対応に必要となる 監視項目	監視計器一覧 (10/50)	安川発電所 2 号炉 差異理由
1.4.2.1 1次冷却材喪失事象が発生し (1) フロントライン系機能喪失時の d. 代替再循環運転	している場合	(1) フロントライン系機能要失時の手順等         d. 代替再返接運転           原子が圧力容器付の温度         ・ 1 次冷却材温度(広域・高温値)の温度           ・ 1 次冷却材温度(広域・高温値)         ・ 1 次冷却材温度(広域・英温値)	
(b) 格納容器再循環サンプスク 判断 基準 場合の手順	ボール ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	原子伊圧力等級性	

	· 発電所3/45	登電 <i>用原子炉を冷却するため。</i> 号炉		泊発電	前3号炉		女川発	電所2号炉	差異理由
監視計器一覧(9/48) 対応手段	重大事族等の対応に必要となる	監視計器	監視計器一覧(11/50) <sup>対応手段</sup>		重大事を 重応での 重応での 重応での 重応での である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	監視計器			Salar y Control
1.4.2.1 1次冷却材喪失事象が発生し (1) フロントライン系機能喪失時の	監視項目		1.4.2.1 1 衣冷却材喪失事象が発生している (1) フロントライン系機能喪失時の手) d. 代替再循環連転	場合順等	監視項目				
d. 代替再循環運転	原子炉圧力容器内	1 次冷却材高温侧温度計(広域)     1 次冷却材低温侧温度計(広域)		原の	子炉圧力容器內 退度	<ul> <li>1次治却材温度(広域-高温側)</li> <li>1次治却材温度(広域-低温側)</li> <li>炉心出口温度</li> </ul>			
	の温度 原子炉圧力容器内			原の	子炉圧力容器内 水位	・ 加圧器水位 ・ 原子炉容器水位 ・ 育圧往入流量			
	の水位 原子炉格納容器内 への注水量	・原子炉水位計 ・格納容器スプレイ流量計		^	子炉圧力容器内 の注水量	・充てん液量・充てん液量・低圧在入液量			
	原子炉圧力容器内への注水量	・ 高圧注入流量計 ・ 余熱除去流量計			子炉格納等器内 の注水量 子炉格納容器内 温度	<ul><li>・格納容器スプレイ流量</li><li>・格納容器内温度</li></ul>			
	原子炉格納容器内 の温度 原子炉格納容器内	・格納容器内温度計 ・格納容器圧力計(広域)		最の	終ヒートシンク 確保	<ul> <li>原子評補機治却ホサージタンク圧力 (AM用)</li> <li>C、D - 格納容器再循環ユニット補機 治却水流量</li> </ul>			
	の圧力 原子炉格納容器内	<ul><li>・AM用格納容器圧力計</li><li>・格納容器再循環サンプ水位計(広域)</li></ul>		0	子炉格納容器內 圧力 子炉格納容器內	・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力 (AM用) ・ 格納容器再循環サンプ水位 (広域)			
(b) 格納容器再循環サンプスク リーン閉塞の兆候が見られ 操作	の水位	・原子炉格納容器水位計 ・A、D格納容器再循環ユニット冷	(b) 格納容器再補優サンプスクリーン 開塞の複鉄が見られた場合の手順	操作	水位	・ 格納容器水位 ・ 燃料取替用水ゼット水位			
た場合の手順	最終ヒートシンク の確保	却本流量計 - AM用原子炉補機冷却木サージタンク圧力計 - 主蒸気圧力計 - 蒸気発生器水位計(狭域)		*	集の確保	<ul> <li>1次系純木タンタ水位</li> <li>2次系純木タンタ水位</li> <li>柴用高燃料ビント水位</li> <li>15分散タンク水位</li> <li>・体種制御タンク水位</li> <li>はり酸補給ライン流量</li> </ul>			
		<ul><li>素気発生器補助給水流量計</li><li>燃料取替用水ビット水位計</li><li>複水ビット水位計</li><li>ほう酸タンク水位計</li></ul>				ほう酸補給ライン流量横算制御     1 次系純水増給ライン流量     1 改系純水増給ライン流量     1 改系純水増給ライン流量積算制算     ら過水タンク水位			
	水源の確保	<ul> <li>1 次系純水タンク水位計(CRT)</li> <li>No. 3淡水タンク木位計(CRT)</li> <li>No. 2淡水タンタ木位計</li> </ul>		0	終ヒートシンク 確保 機監視機能				
	補機監視機能	(CRT) ・体積制御タンク水位計(CRT) ・余熱除去ポンプ吐出圧力計				・ 会熟除去ポンプ電波			

赤字:設備,運用又は体制の相違(設計方針の相違)

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

	大飯	発電所3/4号炉	<i>の手順等</i> 泊発電所 3 号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
			監視計器一覧(12/50)		
対応手段		重大事故等の 対応に必要となる 監視項目	- 重大事故等の 対応に必要となる 整視項目 1.4.2.1 1 次治均村喪失事象が発生している場合		
1.4.2.1 1次冷却材喪失事象が系 (2) サポート系機能喪失時の手		ている場合	(2) サポート系構能使失時の手順等 a. 代目が心住水  - 治幹辨1L, 2L電圧  - 洗お幹練1L, 2L電圧		
a. 代替炉心住水 a) 恒設代替低圧注水ボンブに		水源の確保         ・燃料取替用水ビット水位計 ・復水ビット水位計 ・4-3(4) A、B、C1、C2、 D1、D2号線電圧計 ・原子炉補機冷却水供給母管流量計	電報		
よる代替炉心注水		(CRT) ・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計(CRT)  1.4.2.1(1)b.(b)と同様。	カテが圧力容線内 の水位     カテが結約容線内 の水位     オ第の確保     ・ 婚科の費用水ビット水位     オ第の確保     ・ 婚科の費用水ビット水位		
(b) A余熱除去ポンプ (空調用 冷水) による代替炉心注水	判断基準	原子炉圧力容器内 の温度  ・1次冷却材高温側温度計(広域) ・1次冷却材低温側温度計(広域) ・炉心出口温度計  原子炉圧力容器内 の圧力  原子炉圧力容器内 の水位  原子炉圧力容器内 ・加圧器水位計  原子炉圧力容器内 ・加圧器水位計  原子炉圧力容器内 ・ A条熱除去流量計 ・ のき水量 ・ 格納容器再循環サンプ水位計(広域) ・ 燃料取替用水ビット水位計 ・原子炉補機冷却水供給母管流量計(CRT)  「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」のうち、1.5.2.1(5)b.「空潤用冷水ボンブによるA余熱除去ボンブ代替補機冷却」にて整備する。	大飯 3 / 4 号炉との比較対象なし		備の相違 差異理由®)

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉 差異理由
大飯 発電所 3 / 4 号炉   監視計器   重大事放等の   対応手段   対応毛必要となる   監視計器   監視計器	注入事務等の 対応主段     対応主段     対応に必要となる     重視消費      1.4.2.1 1 3 元 5 0 )	女川発電所 2 号炉 差異理由
選択   現大事故等の 対応に必要となる 監視項目   14.2.1 1次   1.4.2.1	(6) B - 光てんポンプ (自己冷却) による (代替が心性水 (自己冷却) による (代替が心性水 (自己冷却) による (代替が心性水 (自己冷却) による (代替が心性水 (自己冷却) による (原子が圧力容器内 (自己冷却)	

赤字:設備,運用又は体制の相違(設計方針の相違)

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

	<b>発電所3/4</b>	B電用原子炉を行為するため 号炉		泊発	色電所 3 号炉	1	1	r川発電所 2 号炉	差異理由
監視計器一覧(13/48)									
対応手段	重大事故等の 対応に必要となる 監視項目	整複形器							
1.4.2.1 1次冷却材喪失事象が発生し (2) サポート系機能喪失時の手順等 a. 代替炉心注水									
	原子炉圧力容器内 の湿度 原子炉圧力容器内 の圧力	1 次冷却材高温側温度計 (広城)     1 次冷却材低温侧温度計 (広域)     炉心出口温度計     1 次冷却材压力計	監視計器一覧(14/50)						
(d) A格納容器スプレイポンプ	原子炉圧力容器内 の水位 原子炉圧力容器内 への注水量	・加圧器木位計 ・充てん水流量計	対応手段	ス場合	重大事故等の 対応に必要となる 監視項目	整視計器			
(自己冷却) (RHRS-C SS連絡ライン使用) によ る代替炉心注水	原子炉格納容器内 の水位 水源の確保	<ul><li>・格納容器再循貫サンプ水位計(広域)</li><li>・燃料取替用水ビット水位計</li></ul>	(2) サポート系機能要失時の手順等 a. 代替却心は木		原子炉圧力容器内の温度	1 次冷均材福度 (広城一高温朝)     1 次冷均材福度 (広城一高温朝)			
	補機監視機能 電源	・充てん木圧力計  ・4-3(4)A、B、C1、C2、D1、D2母線電圧計		(表)	原子炉圧力容器内 の圧力 原子炉圧力容器内 の水位 原子炉圧力容器内 への注水量	<ul> <li>1 次冷却村圧力 (広城)</li> <li>加圧器水位</li> <li>光てん液量</li> </ul>			
	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計 (CRT) ・原子炉補機冷却水冷却器海水流量 計(CRT)			への任不量 原子炉格納容器内 の水位 補機監視機能 水原の強保	・ 希納容器再落廠サンプ水位 (広城)     ・ 充てんライン圧力     ・ 恋枠取替用ホビット水位			
監視計器一覧(14/48)			(c) B - 格納容器スプレイポンプ (自己冷却) (RHRS-CSS連絡		原子炉圧力容器内 の温度	<ul> <li>1次冷却村温度(広城-高温側)</li> <li>1次冷却村温度(広城-低温側)</li> </ul>			
対応手段	重大事故等の 対応に必要となる 監視項目	監視計器	ライン使用) による代替炉心注水		原子炉圧力容器内 の圧力 原子炉圧力容器内	<ul> <li>・ 炉心出口温度</li> <li>・ 1次治却材圧力(広域)</li> <li>・ 加圧器水位</li> </ul>			
1.4.2.1 1次冷却材喪失事象が発生し (2) サポート系機能喪失時の手順等 a. 代替炉心注水				操作	原子炉圧力容器内 への注水量	<ul> <li>原子炉容器水位</li> <li>B - 格納容器スプレイ流量</li> <li>B - 格納容器スプレイ冷却禁出口積算</li> </ul>			
	原子炉圧力容器内 の温度	1 次冷却材高温侧温度計 (広城)     1 次冷却材低温侧温度計 (広城)     炉心出口温度計			原子炉格納容器内 の水位 水源の確保	表量(AM用) ・ 格納容器再循環サンプ木位(広城) ・ 您科取替用水ビット木位			
	原子炉圧力容器内 の木位 原子炉圧力容器内	• 加圧器水位計			袖機冷却	B - 格納容器スプレイポンプ電動機補 機冷却水疣量     B - 格納容器スプレイポンプ補機冷却 水流量			
(d) A格納容器スプレイポンプ (自己冷却) (RHRS-C SS連終ライン使用) に上 作	の圧力	・1次冷却材圧力計 ・A余熱除去流量計							
SS連絡ライン使用)によ 作 る代替炉心注水	原子炉格納容器内 の水位	城)							
	木源の確保 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	<ul><li>・燃料取替用水ビット水位計</li><li>・A格納容器スプレイポンプ電動機 冷却水流量計</li></ul>							
	HILIDELD WIT	・A格舶容器スプレイポンプ冷却水 流量計							

4 原子炉冷却材圧力パワンタリ低圧時に発電用原子炉を冷却するため 大飯発電所3/4号炉			77 NR 4	泊発電所3号炉			女川発	電所2号炉	差異理由	
監視計器一覧(15/48)	重大	(事故等の		監視計器一覧 (15/50)	重大事故等の	472002				
対応手段 1.4.2.1 1次冷却材喪失事象が発	生している場	二必要となる 監視項目 計合	監視計器	対応手段 1.4.2.1 1次沿却村喪失事象が発生してい	対応に必要となる 監視項目	配視計器				
(2) サポート系機能喪失時の手 a. 代替炉心注水	順等			(2) サポート系機能表失時の手順等 a. 代替炉心注水		1次帝却村祖良(広城一高祖領)				
	原子炉の温度	F圧力容器内	1次冷却材高温侧温度計(広域) 1次冷却材低温侧温度計(広域) 炉心出口温度計		原子炉圧力容器内 の程度 原子炉圧力容器内 の圧力	1次治却材温度(広城一低温镇) 1次治却材温度(広城一低温镇) 1次治却材圧力(広城)				
	の圧力	7圧力容器内	1次冷却材压力計	(d) ディーゼル規動消火ポンプ又は	料 原子炉圧力容額内 の水位	加圧器水位 B - 格納容器メプレイ流量				
	の木位	2 11° +5 90's 840 +5	加圧器水位計	距離機駆動消火ポンプによる 代替加心性水	単 原子が比力容器内 への注水量	B - 松納容器スプレイ改量 B - 格納容器スプレイ冷却器出口積算 減量 (AM用)				
(e) ディーゼル消火ポンプ又は	判 への注	水量	A余熱除去流量計 格納容器再循環サンプ水位計(広		原子炉格納容器内 木位 木振の確保	格納容器再循環サンプ永位(広域)				
電動消火ポンプによる代替 炉心注水	本 の木位 水源の	t.	被) No. 2淡水ケンク水位計(CR		海 作 1.4.2.1(1) b, (c) fi					
	電源	· Alwin-	T) ・4-3 (4) A、B、C1、C2、 D1、D2母線電圧計		•					
	補機監	· 視機能	原子炉補機冷却水供給母管流量計 (CRT) 原子炉補機冷却水冷却器海水流量 計 (CRT)							
	<b>操</b> 1.4.2.1	1(1)b.(c)と同様。		監視計器一覧(16/50)						
	原子炉の温度	圧力容器内 .	1次冷却材高温侧温度計(広域) 1次冷却材低温侧温度計(広域)	対応手段 1.4.2.1 1次治却材喪失事象が発生してい	重大事扱等の 対応に必要となる 監視項目	監視計器				
	原子炉の圧力	5圧力容器内 .	炉心出口温度計 1次冷却材压力計	<ol> <li>1.4.2.1 1次行が有長大争求が充生している。</li> <li>(2) サポート系機能喪失時の手順等。</li> <li>a. 代替炉心注水</li> </ol>						
		5圧力容器内	加圧器水位計		原子炉圧力容器内 の温度	・ 1 次冷却材温度(広域-高温側) ・ 1 次冷却材温度(広域-低温側)				
<ul><li>① 可搬式代替低圧注水ポンプ</li></ul>	4.4	正力容器内	A余熱除去流量計		原子炉圧力容器内 の圧力 制 原子炉圧力容器内	・ 1 次希却材圧力 (広城)				
による代替炉心注水	halls.	·格納容器內 ·	格納容器再循環サンプ水位計(広 域)	(a) 海水を用いた 可搬型大型送水ポンブ車による (A 特に A A A A A	版 の水位 準 原子炉圧力容器内	<ul><li>加圧器水位</li><li>B - 格納容器スプレイ流量</li></ul>				
	電源		4-3 (4) A, B, C1, C2, D1, D2母線電圧計	代替炉心往木	への往水量 原子炉格納容器内	<ul> <li>B - 格納容器スプレイ冷却器出口積 流量 (AM用)</li> </ul>	第			
	補機監	祖機能	原子炉補機冷却水供給母管流量計 (CRT) 原子炉補機冷却水冷却器海水流量		の水位 操 作 1.4.2.1(1) b. (d) i	<ul><li>格納容器再着療サンプ水位(広城)</li><li>i. と同様。</li></ul>				
	442.		計(CRT)		100		<del>-</del>			
	操作 1.4.2.1	1(1)b.(d)と同様。								

1.4 原子均	冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却する。	ための手順等
---------	----------------------------	--------

大飯発電所3/4号炉	泊発電所 3 号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
泊3号炉との比較対象なし 泊3号炉との比較対象なし		模準模準	差異理由 設備の相違 (差異理由③) 設備の相違 (差異理由③)

原子炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉 差異理由
大阪発電所3/4号炉    本本の表別		女川発電所 2 号炉 差異理由

		<b>電所3/4</b>		泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
監視計器一覧 (17/48) 対応手段 1.4.2.1 1次冷却材実失事象が多 (2) サポート系機能喪失時の手 b. 代替再循環連転:	大の大きないできます。大きないでは、大きないでは、大きないできます。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	重太事数等のの対応に必要項の対応に必要項目 いる場合 いる場合 いる場合 いる場合 いる場合 原子が圧力容器内の原子が圧力容器内の水子が圧力容器内の水子が低端機能と は機能を関係のようによい。	監視計器		女川発電所2号炉	差異理由 設備の相違 (差異理由®)

大	飯発電所3/4号炉	泊発電所 3 号炉	女川発電所2号炉 差異理師
監視計器一覧(18/48) 対応手段	重大事故等の 対応に必要となる 監視項目	監視計器一覧 (18/50)    対応手段	
1.4.2.1 1次冷却材度失事象が発生		(2) サポート系機能喪失時の手順等 b.代替再貨商運転 (b) 1次件事件完美時における再階限運転時に原子促補機治与機能が喪失した場合	
<ul><li>(2) サポート系機能喪失時の手順</li><li>b. 代替再循環運転</li></ul>	<b>加</b> 券	- 原子炉補機冷却水供給母餐池量	
	る再循環運転時に原子炉補機冷却機能が喪失した場合	植機監視機密 - 原子如補機治超末治超路補機治超後水 消量	
	原子炉圧力容器内 の温度 ・1次冷却材低温側温度計(広域) ・が心出口温度計 原子炉圧力容器内 ・1次冷却材圧力計	取子が圧力容器内 ・ 1 次帝却杆温度 (広城 - 高温側) の温度 ・ 1 次帝却杆温度 (広城 - 高温側) ・ 1 次帝却杆温度 (広城 - 松温側)	
	の圧力 原子炉圧力容器内 の水位 ・加圧器水位計	による真圧代替再発尿運転   植機監視機器   石垣水利監   - A - 高圧注入がンプ電影機箱機糸均水   元量   - A - 高圧注入がンプ電影機箱機糸均水   元監   - A - 高圧注入が上プ電影機箱機糸均水	
ii. B高圧注入ポンプ (海水冷 却) による高圧代替再循環運	藤子野格納容器内 ・格納容器再頒貨サンプ水位計(広	1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1	
転	・原子炉補機冷却水供給母管流量 計 (CRT) ・原子炉補機冷却水冷却器海水流量 計 (CRT)		
-	* B 高圧注入ポンプ電動機冷却水流 量計 * B 高圧注入ポンプ冷却水流量計 援 作 1.4.2.1(2)b.(a)).と同様。		
T	TE		
泊3号炉	戸との比較対象なし	監視計器一覧 (19/50)  東大事故等の 対応手段 東京事故等の 対応に必要となる 整視計器  1.4.2.1 1次冷却付美失事象が発生している場合 (2) サポート系機能養失時の予順等  (2) サポート系機能養大時の予順等  (3) 東京 大事故等の 整視項目  (4) ・ 治幹祭11, 21電圧  (5) ・ 後志幹祭11, 21電圧  (4) ・ 中母線電圧、乙母線電圧  (5) ・ 日本の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の	記載方針の相 ・治3号炉に 順着手の半 準の監視 記載方針の相
		6	整理してい

4 原子炉高料材圧力パワンタリ低圧時に発電用原子炉を高料するため 大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉 差異理由
監視計器一覧 (19/48)	監視計器一覧 (20 / 50) 対応半級	女川完电灯 2 万 P
14.2.1 1 次	日本が担当の音が	

赤字:設備,運用又は体制の相違(設計方針の相違)

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
監視計器一覧 (20/48)			
重大事故等の	監視計器一覧 (21/50)		
対応手段 対応に必要となる 監視計器 監視計器 監視項目 1.4.2.2 1 次冷却材喪失事象が発生していない場合	重大事故等の		
(1) フロントライン系機能喪失時の手順等 a. 蒸気発生器 2 次側による炉心冷煮 (注水)	対処手段 対応に必要となる 監視計器 監視項目		
・1次冷却材高温侧温度計(広域)	<ol> <li>1.4.2.2 3次市却打完失事参与発生していない場合</li> <li>(1) フロントライン系機能喪失等の干損等</li> <li>a. 高東央生器2次側により却込売却(往木)</li> </ol>		
原子炉圧力容器内 の温度  - 1次冷却材低温侧温度計(広域)	原子炉圧力容器内 • 1次冷却村温度(広城一高温側)		
(a) 電動補助給水ポンプ又はタ ービン動補助給水ポンプに 電 原子炉圧力容器内 の圧力 アンサービン動補助給水ポンプに 電 原子炉圧力容器内	の復産 - 1 次冷却対復度 (広域ー仮復倒) ( 原子学圧力容易内 - 仮圧注人定量		
<ul><li>・ 決熱係去流重計</li></ul>	(a) 電動補助的水ポンプ又は ターピン動制物的ネポンプによる		
よる蒸気発生器への注水 への注水量 への注水量 本源の確保 ・ 復水ビット水位計	東気発生器への注水     ・ 余熟除去ポンプ出口圧力     ・ ・		
補機監視機能 ・余熱除去ポンプ吐出圧力計	- 余煎除去ポンプ電流 摘		
操作 — —	f#		
原子炉圧力容器内 原子炉圧力容器内	原子伊圧力容器内 の温度  - 1 次冷却材温度 (広域一高温側)  - 1 次冷却材温度 (広域一低温側)		
の温度 - 1 次冷却材低温側温度計 (広城) - 炉心出口温度計	- 無気産生器水位 (広域) - 無気産生器水位 (広域) - 無気産生器水位 (広域)		
原子炉圧力容器內 • 1 次冷却材圧力計	判 (素体と マンシック ) - 高気発生器木位 (姿域) 所		
<ul><li>- 蒸気発生器水位計(広域)</li></ul>	(b) 電動主船水ポンプによる 英ス発生器への注水 ・ 決占幹第11、21電圧		
(b) 電動主給水ポンプによる蒸 薬 気発生器への注水 ・蒸気発生器水位計(狭域) ・蒸気発生器補助給水流量計	煮気発生券への往本   ・ 後占幹線1 L 、 2 L 電圧   ・ 単分線電圧 、 工母線電圧   工母線配圧   工母線配圧   工母線電圧   工		
• 4-3 (4) C1 C2 D1	- 6 - C 1 , C 2 , D 母務電圧 水振の確保 - 脱気器タンク水位		
電源 D 2 母線電圧計	接		
水源の確保	作 原子卯正カ容器内 ・ 1 次冷却村温度(広域 - 英単側)		
操作 — —	原子卯圧力容器內  1 次布却材温度 (広城一萬進側)  2 1 次布却材温度 (広城一低進側)		
	斯 基 本 最終に一トシンタ - 振気発生器水位 (沈城) - 振気発生器水位 (沈城)		
	(c) SG直線絵木用高圧ポンプによる の確保 ・ 主給水ライン流量		Secretary street
泊3号炉との比較対象なし	- 無気発生器への注水 - 無気発生器水張り流量 - 水板の確保 - 補助給水ビット水位		設備の相違
11 1 2 77 2 1 2 12 13 13 13 13 13	(1.2 原子炉治却材圧カバウンダリ高圧時に発電用原子炉を 焼却するための手順等)のうち、1.2.2.1(2)も、「5.0 直接 作 治水病風圧ボランドよる原及単生形のの往水」にて整備す		(差異理由④)
	作 粉水用高圧ポンプによる蒸気発生器への往水」にて整備する。		

1. 4	原子炉冷却材圧力バウ	ンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等
------	------------	--------------------------

4 原子炉売却材圧ガハワンタリ低圧時に発電用原子炉を停却するだめ。 大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉 差異理由
(a) 蒸気発生器維給用仮設中圧 ボンブ (電動) による蒸気発 (正成) - 1 次冷却材低温側温度計 (正成) - 1 次冷却材低温側温度計 (正成) - 4 かい出口度計 の正力 - 5 次発生器水化計 (珍娥)	登視計器一覧 (22/50)  対応に変更なる 数値項目  1.1.2.2.1 次の発酵機乗事を水型を上ていない場合 (3) フロントライン構築機乗減から中間等 (4) 原大伊圧力容等内 - 1 液角部料理度 (25% 角膜側) (5) 原大伊圧力容等内 - 1 液角部料理度 (25% 角膜側) (6) 係水を用いた 可能力大変による 高気発生器への応水 - 1 次の高離料理度 (25% 角膜側) (6) 作数を水ボッンで来による 高気発生器への応水 - 1 次の高離料理度 (25% 角膜側) (6) 作数を水ビットを水線とした 可能力大変を水がフロによる 高気発生器への活水 - 1 次の高齢料理度 (25% 角膜側) (7) 原水機を水ビットを水線とした 可能力大変を水が上でよる 高気発生器への活水 - 1 次の高齢料理度 (25% 角膜側) (8) を対して、1 次の高齢料理度 (25% 角膜側) (9) を対して、1 次の高齢料理度 (25% 角膜側) (1) 原水機を水ビットを水線とした 可能力力を向 (1 次の動料理度 (25% 角膜側) (25% 角膜の大変を発音がな (25%) (37 原水機を水温とした 可能力を分類とした可能を対して、1 次の始料理度 (25% 角膜側) (47 原水機を水温とした 可能力を対して、1 次の始料理度 (25% 角膜的) (57 原水機を水温とした 可能力が多く変更した、1 次の始料理度 (25% 角膜的) (58 高気発生を対して、1 次の始射性 (25% 角膜) (58 高気発生を対して、1 次の始射性 (25% 角膜) (58 高気発生を対して、1 次の始射性 (25% 角膜) (58 高気発生を対して、1 次の発射を対して、1 次の発射を対して、1 次の発射を対して、1 次の動料を使り、1 次の発射を対して、1 次の数別を使り、1 次	設備の相違 (差異理由③) 設備の相違 (差異理由④)

	大飯発電所3/	* <i>に発電用原子炉を伶封するため。</i> ^ 4 号炉		泊発電所3号炉		女川発電所 2 号	· · ·	差異理由
			監視計器一覧(23/50)					
監視計器一覧(21/48)	重大事故等	מ		重大事故等の				
対応手段	対応に必要と監視項目	なる 監視計器	対机手段 1.4.2.2 1次冷却材疾失事象が発生してい	対応に必要となる 監視項目 ない場合	監視計器			
1.4.2.2 1次冷却材喪失事象が3 (1) フロントライン系機能喪災 b. 蒸気発生器 2次側による	発生していない場合 時の手順等 炉心冷却(蒸気放出)	1 汝珍却计放对相限 牵叫 (万吨)	<ul><li>(1) プロントライン系機器乗失時の</li><li>b. 蒸気発生器2次制による如心</li></ul>	予順等 冷却 (蒸気放出) 原子炉圧力容器内 の温度 原子炉圧力容器内 への注水量	<ul> <li>1 次冷却材温度(広城一低温側)</li> </ul>			
	原子炉圧力名 の温度 原子炉圧力名 の圧力	・1次冷却材低温側温度計(広域) ・炉心出口温度計	(a) 主意気逃ぶし弁による蒸気放出	判断 基 量終ヒートシンク 空 の確保	<ul> <li>- 蒸気発生器水位(広城)</li> <li>- 蒸気発生器水位(袋城)</li> <li>- 主給水ライン消量</li> <li>- 蒸気発生器水張り流量</li> </ul>			
(a) 主蒸気速がし弁による蒸気 放出	判 原子炉圧力名 への注水量	<ul> <li>参熟除去流量計</li> <li>- 奈熟除去流量計</li> <li>- 蒸気発生器水化計(広域)</li> <li>- 蒸気発生器水化計(狭域)</li> </ul>		補機監視機能 操 作	<ul> <li>網助給水流量</li> <li>余熱除去ポンプ出口圧力</li> <li>余熱除去ポンプ電流</li> </ul>			
	最終セートシ の確保 補機監視機能	ンク - 蒸気発生器補助給水流量計 - 蒸気発生器主給水流量計(CRT) - 蒸気発生器主給水流量計(CRT) - 奈製除去ポンプ吐出圧力計		原子炉圧力容器内の温度	1 次冷却財福度(広城一高温側)     1 次冷却財福度(広城一低温側)     主蒸気ライン圧力     素気を生器水位(広城)			
	操作	・派光師を25ペンプを出出た方面		報 最終ヒートシンク の確保	<ul><li> 蒸気発生器水位 (狭城)</li><li> 主給ホライン流量</li></ul>			
	原子炉圧力名 の温度 原子炉圧力名 の圧力	<ul><li>・ 1次/行却付款温侧温度計(広域)</li><li>・ 炉心出口温度計</li></ul>	(b) ターピンパイパス弁による農気放出	電源 電源	- 無気発生事水張り泄量 - 補助給水瓜量 - 復水器真空 (広城) - 治幹線 1 L, 2 L 電圧 - 夜本幹線 1 L, 2 L 電圧 - 甲母除電圧、こ母終電圧 - 6 - C 1, C 2, D 母線電圧			
(b) タービンバイバス弁による 薬気放出	判断基準 最終ヒートシ の確保	- 蒸気発生器水位計 (広坡) - 蒸気発生器水位計 (狭城) - 蒸気発生器水位計 (狭城) - 蒸気発生器補助給水流量計 - 蒸気発生器主給水液量計(CRT) - 蒸気発生器水張り液量計(CRT) - 復水器真空度計(広城)		操作	~			
一:通常の運転操作により対応す	電源 操作 - の手順については、	· 4-3 (4) C1, C2, D1, D2母線電圧計						

大飯発電所 3 / 4 号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
監視計器一覧 (2 2 / 4 8)			
重大事故等の 対応に必要となる 監視計器	監視計器一覧 (24/50)		
1.4.2.2 1次冷却材喪失事象が発生していない場合	重大事故等の 対応に必要となる 整視項目		
(1) フロントライン系機能喪失時の手順等	整視項目 1.4.2.2 1 改治郷村鉄矢事象が発生していない場合 (1) プロントライン活動塗銭矢枠の予照等		
原子炉圧力容器内 の温度	(1) フロントライン系観影喪失吟の干部等		

赤字:設備,運用又は体制の相違(設計方針の相違)

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違)

泊発電所 3 号炉 技術的能力 比較表 r. 4.0 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし) 1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等 大飯発電所3/4号炉 泊発電所3号炉 女川発電所 2 号炉 差異理由 · 1次冷却材高温侧温度計(広域) 原子炉圧力容器内 · 1次冷却材低温侧温度計(広域) の湿度 · 炉心出口温度計 原子炉圧力容器内 · 1 次冷却材圧刀計 監視計器一覧(26/50) • 蒸気発生器水位計 (広城) 重大事故等の 最終ヒートシンク 監視計器 対応に必要となる 監視項目 · 蒸気発生器水位計 (狭城) 对志手段 の確保 · 蒸気発生器補助給水流量計 1.4.2.2 1 次冷却材喪失事象が発生していない場合 (b) 蒸気発生器補給用仮設中圧 水源の確保 (2) サポート系機能喪失時の手順等 復木ピット水位計 a. 蒸気発生器 2 次側による炉心冷却 (注水) ポンプ (電動) による蒸気 · 4-3 (4) A, B, C1, C2. · 1次冷却材温度(広域-高温側) 電源 原子炉圧力容器内 発生器への注水 D1、D2母線電圧計 の温度 1次冷却材温度(広城一低温侧) 原子炉補機冷却水供給母管流量 蒸気発生器水位 (広域) 最終ヒートシンク # (CRT) ・) 海水を用いた 可搬型大型送水ボンブ車による · 蒸気発生器水位 (狭城) 補機監視機能 の確保 原子炉補機冷却水冷却器海水流量 • 補助給水流量 蒸気発生器への注水 計(CRT) 「1.2 原子炉冷却材圧カバウンダリ高圧時に発電用原子炉を 冷却するための手順等」のうち、1.2.2,1(2) c. 「海水を用 いた可搬型大型送水ポンプ車による蒸気発生器への往水」に 操作 1.2 原子炉冷却材圧カバウンダリ高圧時に発電用原子 炉を冷却するための手順等」のうち、1.2.2.1(2)b. 「蒸気 発生器補給用仮設中圧ポンプ(電動)による蒸気発生器へ 原子炉圧力容器內 • 1 次冷却材温度 (広城-高温側) の注水」にて整備する。 の温度 1 次冷却材温度(広域-低温侧) - 蒸気発生器水位(広域) 最終ヒートシンク 設備の相違 (d) 代替給水ビットを水源とした · 蒸気発生器水位(狹城) の確保 泊3号炉との比較対象なし 可搬型大型送水ボンブ車による 蒸気発生器への注水 補助給水流量 (差異理由④) 「1.2 原子炉冷却材圧力パウンダリ高圧時に発電用原子炉を 冷却するための手順等」のうち、1.2.2.1(2) d. 「代替給木 ビットを水源とした可樂型大型送水ポンプ車による蒸気発生 脚への往水」にて整備する。 · 1次冷却材温度(広城-高温侧) 原子炉圧力容署內 の温度 1次冷却材温度(広域-低温侧) 蒸気発生器水位 (広城) 最終ヒートシンク (c) 原水槽を水原とした 可搬型大型送水ポンプ車による 蒸気発生器への往水 準 蒸気発生器水位(装域) 泊3号炉との比較対象なし の確保 設備の相違 補助給水流量 (差異理由④) 1.2 原子炉冷却材圧力パウンダリ高圧時に発電用原子炉を 「L2 原丁戸市場所にガハソンタシ向に呼に近極用原下から 売却するための手順等」のうち。1,2,2,1(2) c. 「原木槽を 水源とした可襲型大型送水ボンブ車による蒸気発生器への注 水」にて整備する。

. 4	原子炉冷却材圧力	バウンダリ	<b> 低圧時に発電用原子</b>	~炉を冷却する.	ための手順等
-----	----------	-------	-------------------	----------	--------

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉 差異理由
監視計器一覧 (2 4 / 4 8) 重大事故等の	監視計器一覧 (27/50)	
対応手段 対応に必要となる 監視計器 監視項目	監視項目 1.4.2.2 1 次冷却材審失事象が発生していない場合	
1.4.2.2 1次冷却材喪失事象が発生していない場合	(2) サポート系統密表末時の手順等 b. 恋気処生器2次側による好心治却(節気放出)	
(2) サポート系機能喪失時の手順等 b. 蒸気発生器 2 次側による炉心冷却(蒸気放出)	原子炉圧力容晶内 の温度 - 1 次冷却材温度 (広域一高温側) - 1 次冷却材温度 (広域一低温側)	
1 次	# (広域)    (広域)   (広域)   (広域)   (広域)   (広域)   (本) (東京を連手を開催性)   (本) (東京を連び) (東京を連	

販発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
重大事故等の 対応に必要となる 監視項目 していない場合  「原子が圧力容器内の温度」 「京子が圧力容器内の圧力 ・1次冷却材低温側温度計(広域)・1次冷却材低温側温度計(広域)・炉心出口温度計 ・1次冷却材圧力計 ・1次冷却材圧力計 ・2素気発生器水位計(広域)・ ・		女川発電所 2 号炉	差異理由

原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に 大飯発電所3/4		->	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
監視計器一覧(2 6 / 4 8)		監視計器一覧(29/50)		S/1/3016/1/2 17 #	Z.WZ.H
重大事故等の 対応に必要とな: 監視項目		対応手段 1.4.2.3 運転伸止中の場合	銀大事故等の 対応に必要となる 整視項目		
1.4.2.3 運転停止中の場合 (1) フロントライン系機能・喪失時の手順等 a. 炉心注水  原子炉圧力容器 の温度 原子炉圧力容器 の形位 原子炉圧力容器 への注水量  木瀬の確保  補機監視機能 原子炉圧力容器 の温度 原子炉圧力容器 への注水量  原子炉圧力容器 の温度 原子炉圧力容器 を設定 原子炉圧力容器 の温度 原子炉圧力容器 の変度 原子炉圧力容器 の変度 原子炉圧力容器 の変度 原子炉圧力容器 の変度 原子炉圧力容器 の変形	- 1次冷却材低度側温度計 (広城) - 炉心出口温度計  - 1次冷却材圧力計  - 1次冷却材圧力計  - 1次冷却系統木位計 (CRT)  - 金熱除去流量計  - 燃料取替用水ビット水位計  - (建水ビット水位計  - 1支系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(a) 党でんポンプによる歩心性水	### ### ### ### ### #################		

	大飯発電所3/4号炉	<i>○手順等</i> 泊発電所 3 号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
		監視計器一覧 (30/50)		
監視計器一覧 (27/48) 対応手段	重大事教等の 対応に必要となる 監視項目 監視項目	煮大事故等の 対応不殺 対応に必要となる 監視計器 撤犯項目		
<ol> <li>1.42.3 運転停止中の場合</li> <li>(1) フロントライン系機能喪失</li> <li>額、炉心注水</li> </ol>		1: 4.2.3 運転停止中の場合 (1) フロントライン系機能喪失時の千順等 a. 炉心往水		
<ul><li>(b) 高圧注入ポンプによる炉心 注水</li></ul>	本部の確保 ・燃料取替用水ビット水位計 原子切圧力容器内 の温度 ・ 1 次冷却材高温側温度計 (広域) ・ 1 次冷却材低温側温度計 (広域) ・ 1 次冷却材低温側温度計 (広域) ・ 炉心出口温度計 原子切圧力容器内 ・ 加圧器木位計 原子切圧力容器内 ・ 高圧狂入流量計	### ### ### ### #### ################		
(e) 着圧タンクによる炉心注水	本版の確保 ・燃料取替用水ビット水位計     「原子炉圧力容器内 の温度    「原子炉圧力容器内 の温度    「原子炉圧力容器内 の圧力 原子炉圧力容器内 の水位    「原子炉圧力容器内 の水位    「原子炉圧力容器内 の水位    「京子炉圧力容器内 の心注水量    「京子炉圧力容器内 の心注水量    「京子炉圧力容器内 の直速    「京子炉圧力容器内 のでは水量    「京子炉圧力容器内 のでは水量    「京子炉圧力容器内 のでは水量    「京子炉圧力容器内 のでは水量    「京子炉圧力容器内 のでは    「京子炉圧力容器内 のでは    「京子炉圧力容器内 のでは    「京子炉圧力容器内 のでは    「京子炉圧力容器内 のでは    「京子炉圧力容器内 のでは    「京子炉圧力容器内 のがで    「京子が圧力容器内 の水位    「京子が正対して、下) 本部の確保	大飯3/4号炉との比較対象なし		設備の相違 (差異理由®)

原子が帝郊村庄ガハリンタリ版庄時に発電用原子がを帝郊りるだめい 大飯発電所3/4号炉				泊多	発電所3号炉		女川発電所2号炉	差異理由	
監視計器 - 覧 (28/48)				監視計器一覧(31/50)					
対応手段		重大事故等の 対応に必要となる	監視計器	対応手段		重大事故等の 対応に必要となる 監視項目	監視計器		
U / 200 00000000000000000000000000000000		監視項目		<ol> <li>4.2.3 運転停止中の場合</li> <li>プロントライン系機能喪失時の</li> </ol>	工匠社				
4.2.3 運転停止中の場合 (1) フロントライン系機能喪失時の手順等		b. 代替炉心注水	平原专	1					
b. 代替炉心注水	時の手順等					原子炉圧力容器内	· 1次冷却材温度(広城一高温频)		
D. TATEN APELAN		· 1 次冷却材高温侧温度計 (広域)				の復度	・ 1 次冷却材温度(広城-低温側) ・ 炉心出口温度		
		原子炉圧力容器內 . 1 左冷却材低温侧温度叶 (広域)	· 1 次冷却材低温侧温度計 (広城)		基	原子炉圧力容等内 の水位	K		
		の温度	· 炉心出口温度計				・ 1 次冷却系統ループ木位		
		原子炉圧力容器内			4	原子炉圧力容器内 への注水量	· 喜圧往入統量		
	判断	の圧力	· 1 次冷却材圧力計	(a) 燃料取替用水ビットからの		水源の確保	・ 燃料取替用水ビット水位		
	斯基準	原子炉圧力容器内	・加圧器水位計	重力往水による代替炉心往水		補機監視機能	<ul><li>  真圧往入ボンプ出口圧力</li></ul>		
	準	の木位	· 1 次冷却系統水位計 (CRT)			原子炉圧力容器內	· 1 次冷却材温度 (広域一高温側)		
		原子炉圧力容器内	宏架内		操作	の温度	· 1 次治却材温度(広城一低温侧)		
a) 燃料取替用水ピットからの		への注水量	· 高圧注入流量計			原子炉圧力容器内 の水位	· 加圧器木位		
重力注水による代替炉心注		水源の確保	・燃料取替用水ビット水位計			原子炉圧力容器内	<ul><li>1次冷却系統ループ水位</li></ul>		
水	操作	arsani, yanan	· 1 次冷却材高温側温度計 (広域)			への往水量	· 低圧注入減量		
		原子炉圧力容器内	京子炉圧力容器内 ・1 次冷却材低温侧温度計 (広域)	,	4	水類の確保	・ 燃料取替用水ビット水位		
		の温度	· 炉心出口温度計			原子炉圧力容器內	· 1 次治却村温度(広城-高温側)		
		原子炉圧力容器内	TOTAL STOCKED CO. STOCKED		村政法律	の温度	・ 1 次冷却材温度 (広城一低温側)		
		の木位	· 1 次冷却系統水位計 (CRT)	1		原子炉圧力容器内	・ 炉心出口温度 ・ 加圧器水位		
		原子炉圧力容器内		(b) B - 株舗安果マブレスポンプ		原子が圧力容を行	<ul> <li>1 次冷却系統ループ木位</li> </ul>		
		への注水量	· 余熱除去流量計	(b) B - 格納容器スプレイポンプ (RHRS-CSS連絡ライン使用) による代替炉心往水		原子炉圧力容等内 への注水量	· 募圧住入流量		
		水源の確保	・燃料取替用水ビット水位計	による代誉炉心住水			N. Paking and Sandar		
			· 1 次冷却材高温侧温度計 (広域)			水源の確保	・燃料取替用水ビット水位		
		原子炉圧力容器内	・1 次冷却材低温侧温度計(広城) ・炉心出口温度計			補機監視機能 操 作 1.4,2.1(1) b. (a	<ul><li> 育圧性入ポンプ出口圧力</li></ul>		
							1.と同様。		
		原子炉圧力容器内					3.		
(b) A格納容器スプレイボンブ		の圧力	· 1 次冷却材圧力計						
(RHRS-CSS連絡ラ		原子炉圧力容器内	・加圧器水位計						
イン使用)による代替炉心注	de	の水位	・1 次冷却系統水位計 (CRT)						
水		原子炉圧力容器内	・蓄圧タンク水位計(CRT)						
**		への注水量	・  善圧タンク圧力計 (CRT)						
		水源の確保	・燃料取替用水ビット水位計						
		11.000.00							
	操作	1.4.2.1(1)b.(a)と同様	R <sub>a</sub>						
				1					
				1					
				1					
				1					
									I
									<b>I</b>

赤字:設備,運用又は体制の相違(設計方針の相違)

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

泊発電所 3 号炉 技術的能力 比較表 r. 4.0 1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等

大飯発電所3/4号炉				泊	発電所3号炉		女川発電所 2 号炉			
<b>監視計器一覧</b> (29/48)				監視計器一覧(32/50)						
対応手段		重大事故等の 対応に必要となる 監視項目	監視計器	対応手段 1.4.2.3 運転停止中の場合	2020	重大事故等の 対応に必要となる 監視項目	<b>密视計器</b>			
<ul><li>1.4.2.3 運転停止中の場合</li><li>(1) フロントライン系機能喪失時の手順等</li></ul>			(L) フロントライン系機能喪失時の b. 代替炉心往水	7年順等	原子炉圧力容器内	1 次冷却討福度 (広城一高温側)     1 次冷却討福度 (広城一高温側)				
b. 代替炉心注水  つ 恒設代替低圧注水ポンプに よる代替炉心注水	判断基準	原子が圧力容器内 の温度 原子が圧力容器内 の圧力 原子が圧力容器内 の水位	1 次冷却材低值侧温度計(広域)     炉心出口温度計      1 次冷却材圧力計	(c) 代登格納容器スプレイポンプによる 代替却心住木	# 1	の温度 原子炉圧力容器内 の木化 原子炉圧力容器内 のでは、 原子炉圧力容器内 への注入量 水態の破解 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。 また。	<ul> <li>炉心出口塩度</li> <li>加圧器水位</li> <li>1 水冷却系統ルーブ水位</li> <li>B - 梅納客器メブレイ流量</li> <li>B - 梅納客器メブレイ流量</li> <li>液量 (AM用)</li> <li>・ 参料歌辞用水ビット水位</li> </ul>			
	操作	原子炉圧力容器内 への注水量 水源の確保 1.4.2.1(1)b.(b)と同様		(d) 電動機能動消火ポンプ又は ディーゼル駆動消火ポンプによる 代替炉心住水	+		1 次帝知时福夏(広城一高旗側)     1 次帝知时福夏(広城一低集側)     砂心由口重度     加圧器水位     1 次帝却系化ルプ水位     代務衛者器スプレイボンブ出口積算 流量     元     元     日本の一般を表現している。     日本の本のではなりではなりではなりではなりではなりではなりではなりではなりではなりではなり			
(d) 電動消火ポンプ又はディー ゼル消火ポンプによる代替 炉心注水		原子炉圧力容器内 の湿度 原子炉圧力容器内 の圧力 原子炉圧力容器内 の水位 原子炉圧力容器内 への注水量 水原の確保 1.4.2.1(1)b.(e)と同様	- 1 次冷型材圧力計 - 加圧器水位計 - 1 次冷却系統木位計 (CRT) - A余熱除去流量計 - 恒設代替低圧注水積算池量計 - No. 2 淡水タンク水位計 (CRT)		H	水原の破存 要 } L. 4. 2. 1(1) b. (c) ii	<ul> <li>る適水タンク水位</li> <li>1. と同様。</li> </ul>			
		1								

1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するため			秋十: 記載衣兒, 似哺石杯の恒達(5	
大飯発電所 3 / 4 号炉	泊発電所3	号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
監視計器一覧 (3 0 / 4 8)   重大事故等の 対応に必要となる 監視項目   1.4.2.3 運転停止中の場合 (1) フロントライン系機能喪失時の手順等   b. 代替炉心注水   原子炉圧力容器内 の温度   原子炉圧力容器内 の温度   原子炉圧力容器内 の圧力   原子炉圧力容器内 の圧力   原子炉圧力容器内 の圧力   原子炉圧力容器内 の圧力   小が冷却材低温側温度計 (広域)   ・ 1 次冷却材低温側温度計 (広域)   ・ 1 次冷却材低温側温度計 (広域)   ・ 1 次冷却材低温側温度計 (広域)   ・ 1 次冷却材低温侧温度計 ( 広域)   ・ 1 次冷却材低温侧温度計   ・ 1 次冷却标准文量   ・ 1 次冷却标准文量   ・ 1 次冷却系統木位計 ( CRT )   ・ 入余額除去流衰計   ・ 1 次冷却系統木位計 ( CRT )   ・ 入余額除去流衰計   ・ 1 後代替低圧注水積算流量計   ・ 1 4.2.1(1)b.(d)と同様。	原子萨任为	要となる 整視計器 原頂目 - 1次命却材温度(広城一高温側) - 1次命却材温度(広城一高温側) - 近心出口温度 - 加上器水位 - 1次命却系統ループ水位 - 代替務納容器スプレイポンプ出口標準 通量 - 1、1次命知系統 - 1、1次命知系統 - 1、1次命和系統 - 1、1次命和系統 - 1、1次命和系統 - 1、1次命和系统 - 1、1次命和末級 - 1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、		設備の相違
泊3号炉との比較対象なし	(f) 代替給水ビットを水源とした 可搬型大型送水ボンブ車による 代替炉心注水 原子炉圧力 への注入 接 (f) (f) (f) (f) (f) (f) (f) (f) (f) (f)	<ul> <li>1 次冷却系統ループ水位</li> <li>5 存発内</li> <li>6 代替格納容器スプレイポンプ出口種算</li> </ul>		(差異理由③)
泊3号炉との比較対象なし	(g) 原水槽を水設とした 可郷型大型芝木ポンプ率による 代替即心往水 (責) 原子伊圧 (成) 原子伊圧 (成) 原子伊圧 (水) 原子伊圧 (水) 原子伊圧 (水) (水) (水) (水) (水) (水) (水) (水) (水) (水)	- 1 次付取材権及(仏象一版追順) - 炉心出口匯度 - 加圧器水位 - 1 次冷却系統ループ水位 - 代数格納密器スプレイボンブ出口積算		設備の相違 (差異理由③)

飯発電所3/4号炉	泊発電所 3 号炉	女川発電所 2 号炉 差異理由
	監視計器一覧 (34/50)	
重大事故等の 対応に必要となる 監視項目	強大事故等の   次売に必要となる   監視計算   1.4.2.3 運転停止中の場合   (1) プロントライン系機能疾失時の手順等	
等の手順等	c. 丙能療運転  - 1 次治却材進度 (広城一高温側)  原子炉圧力容易内	
原子炉圧力容器内の温度	### (a) 萬圧注入ポンプによる萬圧再類需運転	
対応に必要となる 監視計器 監視項目	1.4.2.3 運転停止中の場合 (1) フロントライン系機能喪失時の手順等	
等の手順等	<ul> <li>・ 1 次冷却材温度 (広城一高温側)</li> <li>の温度</li> <li>・ 1 次冷却材温度 (広城一低温側)</li> <li>・ 1 次冷却材温度 (広城一低温側)</li> </ul>	
原子炉圧力容器内 の選度 原子炉圧力容器内 の圧力 の圧力 の圧力 の水位 原子炉圧力容器内 の水位 原子炉圧力容器内 の水位 原子炉圧力容器内 の水位 原子炉圧力容器内 の心性水量 原子が低額容器内 の水位 域 が終ま流量計 を執続を取り の水位 域 が を対して (C R T) ・ 余熱除去流量計 ・ 余熱除去流量計 ・ なが終これでは は は は は は は は は は は は は は は は は は は	(a) B - 幹納客器スプレイボンプ (RHRS-CSS運転ライン使用) による代替再循環運転 (RTRS = CSS運転ライン使用) による代替再循環運転 (RTRS = CSS運転ライン使用) (RTRS = CSS =	
特 特別基準 操作 すり 特別基準	重大事故等の 対応に必要となる 監視項目  の温度  ・1次冷却材高温側温度計(広域) ・炉心出口温度計  原子炉圧力容器内 ので上力。のでは水量 ・1次冷却材低温側温度計(広域) ・炉心出口温度計  ・1次冷却材低温制温度計(広域) ・が心出口温度計  ・2条除去流量計 ・3条除去流量計 ・3条除去流量計 ・3条除去流量計 ・5条除去流量計 ・5を対する温度調査度計(広域)・5を対す低温側温度計(広域)・5を対す低温側温度計(広域)・5を対す低温側温度計(広域)・5を対す低温側温度計(広域)・5を対する計(広域)・5を対するによる要となるを関係を関係を関係能 ・高圧注入ポンプ吐出圧力計  重大事故等の対応に必要となるを関係を関係を を関係を関係を を関係を関係を ・1次冷却材低温側温度計(広域)・6を対するとは ・高圧注入ポンプ吐出圧力計  重大事故等の対応に必要となるを 監視項目  D手順等  ・1次冷却材低温側温度計(広域)・方の出口温度計 ・3年対する温度計 ・3年対する温度は対する温度は対して、域域)・方の出口温度計 ・1次冷却材低温側温度計(広域)・方の出口温度計 ・1次冷却材低温側温度計(広域)・方の出口温度計 ・1次冷却材低温側温度計(広域)・方の出口温度計 ・1次冷却材低温側温度計(広域)・方の出口温度計 ・1次冷却材低温側温度計(広域)・方の出口温度計 ・1次冷却材低温側温度計(広域)・方の出口温度計 ・1次冷却材低温側温度計(広域)・方の出口温度計 ・1次冷却材に対する温度計 ・1次冷却材に対する温度計 ・1次冷却材に対する温度計 ・1次冷却材に対する温度計 ・1次冷却材に対する温度計 ・1次冷却が高温側温度計(広域)・方の出口温度計 ・1次冷却が高温側温度計(広域)・が応期は変計 ・2条に対する温度計 ・1次冷却が高温側温度計(広域)・が応期は変計 ・2条に対する温度計 ・1次冷却が高温側温度計(広域)・方の出口温度計 ・1次冷却が高温側温度計(広域)・方の出口温度計 ・1次冷却が高温度計 ・1次冷却は高温度計 ・1次冷却が高温度計 ・1次冷却が高温度対 ・1次冷却が高温度対 ・1次冷却が高温度対 ・1次冷却が高温度対 ・1次冷却が高温度対 ・1次冷却が高温度対 ・1次冷却が高温度が高温度対 ・1次冷却が高温度対 ・1次冷却が高温度が高温度が高温度が高温度が高温度が高温度が高温度が高温度が高温度が高温度	

		発電所3/4	発竜 <i>用原十炉を荷刈するにめ</i> 。 号炉	7 /02 47	泊発電所 3 号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
監視計器一覧(33/48) 対応手段		重大事故等の 対応に必要となる	監視計器				
1.4.2.3 運転停止中の場合		監視項目					
(1) フロントライン系機能喪勢	た時の	手順等					
e. 蒸気発生器 2 次側による	炉心岩	合却 (注水)		監視計器一覧(35/50)			
		原子炉圧力容器内	· 1 次冷却材高温侧温度計(広域) · 1 次冷却材低温侧温度計(広域)	無機能够 見(33/30)			
		の温度	· 炉心出口温度計	対応手段	重大事故等の 対応に必要となる 監視項目		
	判断	原子炉圧力容器内		1.4.2.3 運転停止中の場合			
(a) 電動補助給水ポンプ又はタ	dis	の圧力		<ul><li>(t) フロントライン系機能喪失時の</li><li>e、蒸気発生器2次側による炉る</li></ul>	の手順等 心冷却 (注水)		
ービン動補助給水ポンプに	淮	原子炉圧力容器内 への注水量	· 余熱除去流量計		原子炉圧力容器內 • 1 次冷却材温度 (広域一套温側)		
よる蒸気発生器への注水		水源の確保	・復水ピット水位計		III and the second street Made		
		補機監視機能	・余禁除去ポンプ吐出圧力計	(a) 電動補助給水ボンブ又注	の注水量		
	操作			タービン動補助給水ボンプによる 蒸気発生器への注水	準 水脈の確保 ・ 補助給水ビット水位 ・ 余熟除去ポンプ出口圧力		
	11=				補機股視機能 ・ 余禁除去ポンプ電流		
		原子炉圧力容器内	· 1 次冷却材高温侧温度計 (広域) · 1 次冷却材低温侧温度計 (広域)		操作 — —		
		の温度	· 炉心出口温度計		原子炉圧力容器内 - 1次冷却材温度(広域-高温側)		
		原子炉圧力容器内	· 1 次冷却材圧力計		の程度 ・ 1 次冷却材温度 (広城ー低温側)		
	判断	の圧力	I STATE OF THE STA				
(b) 電動主給水ポンプによる蒸	基準	最終ヒートシンク	・蒸気発生器水位計(広域) ・蒸気発生器水位計(狭域)		(A)		
気発生器への注水		の確保	·蒸気発生器補助給水流量計	(b) 電動主給水ポンプによる 変気発生器への注水			
		電源	· 4-3 (4) C1, C2, D1,	<b>美元王王等一</b> 77年五	電源 - 能志幹線11,21電圧 - 甲班線電圧,乙母線電圧		
			D 2 母線電圧計		<ul> <li>6-C1, C2, D母務電圧</li> </ul>		
	172.1	水源の確保	・脱気器タンク水位計(CRT)		水源の確保 ・ 脱気器タンク水位		
	操作	-	-		作作		
一:通常の運転操作により対応す	る手順	L 順については、監視計	器を記載しない。		原子如压力容器内 の進度 - 1 次冷却材温度 (広城一楽漫園) - 1 次冷却材温度 (広城一祭漫園)		
					11		
W 0 H		) - II +I	1.1.4.2.3	(c) S G直接給水用高圧ポンプによる			Terror to Company
旧3号	KP (	との比較	対象なし	英気発生器への注水	- 蒸気発生器水張り液量		設備の相違
					水原の確保         ・ 補助給水ビット水位           「1.2 原子炉角却材圧力パウングリ高圧時に発電用原子炉を		(差異理由④)
					「1.2 原子が冷却材圧カバウングリ高圧時に発電用原子炉を 港却するための手順等」のうち、1.2.2.1(2) b、「5.0 直接 作 絵水用高圧ポンプによる源気発生器への社会」にて整備す		
					ō.		
							_1

4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するため		所工,此典数元,以而石中"石口是(朱黄中方·石口是·3-6)
大飯発電所3/4号炉	泊発電所 3 号炉	女川発電所 2 号炉 差異理由
大飯発電所3/4号炉 大飯発電所3/4号炉 大飯発電所3/4号炉    大飯発電所3/4号炉   大飯発電所3/4号炉   大飯発生器   大字放等の 対応に必要となる 監視計器 医視項目   1.4.2.3 運転停止中の場合 (1) フロントライン系機能喪失時の手順等 (正本)	(4) 代表的 (3 6 / 5 0 )  対応中段     対応中段     対応中段     対応中段     対応中段     対応中段     対応中段     対応・段     (1) フェント・イン系権監察大きの予開等     の、	次川発電所 2 号炉 差異理由  設備の相違 (差異理由④)  設備の相違 (差異理由④)

	<i>リ低圧時に発電用原子炉を冷却するための</i> 電所3/4号炉		発電所3号炉		女	川発電所2号炉	差異理由
		監視計器一覧(37/50)					
1.4.2.3 運転停止中の場合 (1) フロントライン系機能喪失時の手順等 f. 蒸気発生器 2次側による炉心冷却(	A Discourance of the Control of the	対応手段  1.4.2.3 運転停止中の場合 (1) フロントライン系機能喪失時の手順等	重大事故等の 対応に必要となる 整視項目	監視計器			
原子の書 原子の書 原子の書 原子の日 原子の日 原子の日 原子の日 原子の日 原子の日 原子の日 原子の日	子炉圧力容器内 温度 ・1次治却材低温側温度計(広域) ・炉心出口温度計 ・炉心出口温度計 ・力が圧力容器内 ・1次治却材圧力計 ・介熱除去流量計 ・流気発生器水位計(広域) ・蒸気発生器水位計(後域) ・蒸気発生器水位計(後域) ・蒸気発生器水位計(後域)	1. 要気光生器2次側による如心治却	(養気放出) 原子炉圧力容器内 の個度 原子炉圧力容器内 への往水量 判				
	<ul><li>・蒸気発生器主給木流量計(CRT)</li><li>・蒸気発生器木枝り流量計(CRT)</li><li>・余熱除去ポンプ吐出圧力計</li><li>ー</li></ul>	31	操作 原子炉圧力容着内 の値度				
	重大事故等の 応に必要となる 監視項目		料 類 数終セートシンク の確保 基準	- 泰気発生器水位(快城) - 主給水ライン質量 - 浦鳴船水泥墨			
(1) フロントライン系機能喪失時の手順等 f. 蒸気発生器 2 次側による炉心冷却() 原子	(蒸気放出) - インス (本質 (本質 )		電原	<ul> <li>後志幹報1L,2L電圧</li> <li>甲母線電圧,乙母線電圧</li> <li>6-C1,C2,D母線電圧</li> </ul>			
原子	- 1 次冷却材低値側温度計 (広城) - 炉心出口温度計 - 7 炉圧力容器内 圧力 - 1 次冷却材圧刀計 - 主蒸気圧力計	i i	操	-			
200-30, 178 (11)	・ 蒸気系生器水佐計 (広城) ・ 蒸気系生器水佐計 (淡域) ・ 蒸気発生器水佐計 (淡域) ・ 蒸気発生器制的給水流量計 ・ 蒸気発生器計 (CRT) ・ 蒸気発生器水砂 流量計 (CRT) ・ 複水器真空疾計(広城)						
機作	<ul><li>・4-3 (4) C1、C2、D1、 D2母線電圧計</li></ul>						
- : 通常の運転操作により対応する手順につ	ついては、監視計器を記載しない。						

	飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
g. 蒸気発生器 2 次側のフィー ドアンドブリード	原子炉圧力容器内 の温度			

大		電所3/4	号炉	)V) T'NG T	泊発電所 3 号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
<b>佐祝計器─覧</b> (36/48)		重大事故等の		監視計器一覧 (40/50)			
対応手段	-	対応に必要となる 監視項目	監視計器	対応手段	重大事故等の 対応に必要となる 監視項目		
<ol> <li>1.4.2.3 運転停止中の場合</li> <li>(2) サポート系機能喪失時の手</li> </ol>	HEIT ANY			1.4.2.3 運転停止中の場合			
a. 代替炉心巨水	神代寸			(2) サポート系機能喪失時の手順等 a. 代替炉心往水			
(a) 燃料取替用水ビットからの 重力注水による代替炉心注 水	判断基準	原子が圧力容器内 の湿度 原子が圧力容器内 の圧力 原子が圧力容器内 のに力 原子が圧力容器内 の水位 原子が圧力容器内 の水位 原子が圧力容器内 への注か 電保 電源 機能 電源 機能 を 電源 を 電源 を は の に る の は る の は る の は る の は る の は る の は る は る	- 1 次帝却系統本位計 (CRT) - 余勲絵去流量計 - 維料取等用本ビット水位計 - 4-3 (4) A, 3, Cl, C2, D1, D2母薬車圧計 - 原子伊維機冷却水供給投管産業計 (CRT) - 原子伊維機冷却水中却器海水液量 計 (CRT)	(b) 燃料取締用水ビットからの 重力性水による代籍が心性水	原子が圧力容器内 の復度 - 1 次冷却材温度 (広端一張風物) - 1 次冷却材温度 (広端一張風物) - 2 次冷却が高度 (広端一張風物) - 2 次冷却系統ループ水位 原子が圧力容器内 - 1 次冷却系統ループ水位 原子が圧力容器内 - 7 次移動容器スプレイボンプ出口積算への作本量 水原の確保 - 燃料取器用水ビット水位 操作 1、4、2、3(1)b、(a) ii、と同様。		
<b>佐供計器─覧</b> (3 7 ∕ 4 8)	操作	原子が圧力容器内 の湿度 原子が圧力容器内 の水位 原子が圧力容器内 ので注水量 未限の確保 重大事数等の	- 余勲論去ポンプ出圧力計 - 1 次冷却材高温保護度新(広域) - 1 次冷却材高温保護度新(広域) - 炉心出口温度計 - 加圧器水位計 - 1 次冷却系統水位計(CRT) - 余頼綜去流量計 - 統料瞭等用水ビット水位計				
対応手段		対応に必要となる	監視計器				
1.4.2.3 運転停止中の場合		監視項目					
<ol> <li>(2) サポート系機能喪失時の手。</li> </ol>	順等						
a. 代替炉心注水	-accord						
(b) 蓄圧タンクによる代替炉心 注水	判断基準	原子炉圧力容器内 の温度 原子炉圧力容器内 の圧力 原子炉圧力容器内 の水位 水瓶の確保 原子炉圧力容器内 への注水量 電源 維機監視機能 1.4.2.3(1)a.(e)と同能	・1次冷却材高温模型使計(広域) ・1次冷却材低温模型使計(広域) ・炉心出口恒度計 ・1次冷却材圧力計 ・1次冷却系統水倍計(CRT) ・ 善圧タンク水位計(CRT) ・ 余熱除去流量計 ・ 4 - 3 (4) A、3、C1、C2、D1、D 2 母線御圧計 ・原子が植機冷却水原給程管減量計(CRT) ・原子が植機冷却水原給程管減量計(CRT)	大飯 3 / 4	号炉との比較対象なし		設備の相違 (差異理由③

泊発電所 3 号炉 技術的能力 比較表 r. 4.0

赤字: 設備, 運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字: 記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字: 記載表現, 設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
大飯 発電所 3 / 4 号炉	大飯 3 / 4 号炉との比較対象なし	女川発電所2号炉	差異理由   養異理由   (差異理由   (多異理由   (多異理由   (多異理由   (多異理由   (多異理由   (多異理由   (多異理由

対応主発表となる   数担手器   対応主必要となる   数担外器   対応主必要となる   数担外器   対応主要となる   数担外器   対応主必要となる   数担外器   対応主心を大   原子が圧力容器内 への注水量   小庭外除土水を計   小庭外除土水を計   小庭外除土水を計   小庭外がは、一般の確保   小皮がおりの温度   小皮がおりの正力   小皮がおりをは、皮が皮が上上 と の   小皮がおりの   小皮が   小皮が
1.4.2.3 運転停止中の場合 (2) サポート素機能疾失時の子順等
(a) 作物が心性水  - (b) 但酸代替版圧性水ボンブによる代替が心性水  - (c) 但酸代替版圧性水ボンブによる代替が心性水  - (c) 但酸代替版圧性水ボンブによる代替が心性水  - (c) 自動代替販産・ 加圧器水位計の水位  - (c) 自動化・ 1 まで作りな場所の (c) 大きを対し、 1 までがした。 1 までがした。 1 までがした。 2 までは、 2 本質に 2
金・
・ (金) 性 (金) (本) (金) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本
本語の確保
(c) 恒設代替低圧注水ボンブによる代替炉心注水
(e) 恒設代替低圧注水ボンブによる代替炉心注水
(c) 恒設代替低圧注水ボンブに よる代替炉心注水   1 次冷却材圧力計
(c) 恒設代替低圧注水ポンプによる よる代替炉心注水     ・加圧器水位計 の水位     ・加圧器水位計 ・1次冷却系統水位計(CRT)     ・1次冷却系統水位計 ・1次合列。(CRT)     ・1次治期系統水位計 ・1、次合列。(CRT)     ・1次治期系統水位計 ・1、次合列。(CRT)     ・2を砂線1L、2L電圧 ・現子切補機冷却水供給母管流量計 (CRT)     ・用子切補機冷却水供給母管流量計 ・原子切補機冷却水供給母管流量計 (CRT)     ・原子切補機冷却水供給母管流量 ・原子切補機冷却水供給母管流量 ・原子切補機冷却水性治母管流量 ・原子切補機冷却水性治母管流量 ・原子切補機冷却水性治母を流量 ・原子切補機冷却水性治母を流量 ・原子切補機冷却水性治母を流量 ・原子切補機冷却水性治母を流量 ・原子切補機冷却水性治母を流量 ・原子切補機冷却水性治母を流量 ・原子切補機冷却水性治母を流量 ・原子切補機冷却水性治母を流量 ・原子切補機冷却水性治母を流量 ・原子切補機冷却水性治母を流量 ・原子切補機冷却水性治母を流量
第
の水位     ・1次冷却系統水位計(CRT)       電源     ・4-3(4)A、B、C1、C2、D1、D2 母線電圧計       ・原子炉補機冷却水供給母管流量計(CRT)     ・原子炉補機冷却水供給母管流量計(CRT)    - 機子炉補機冷却水砂却整箱機冷却冷水洗砂管流量  - 原子炉補機冷却水砂却整箱機冷却冷水溶量  - 原子炉補機冷却水砂却整箱機冷却冷水溶量  - 原子炉補機冷却水砂却整箱機冷却冷水溶量  - 原子炉補機冷却水砂却整箱機冷却冷水溶量  - 原子炉補機冷却水砂却整箱機冷却冷水溶量  - 原子炉補機冷却水砂却整箱機冷却冷水溶量  - 原子炉補機冷却水砂却整着機冷却冷水溶量  - 原子炉補機冷却水砂却
電源
・原子炉補機冷却水供給母管流量計 (CRT) 新練彫料輸施 (CRT)
加速原力性能性
・原子炉補機や剤水冷却器海水流量 水陽の確保 ・ 燃料取替用ホビット水位
計 (CRT)
操 作 1.4.2.1(1)も.(b)と同様。

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
監視計器一覧 (39/48)			
重大事故等の 対応手段 対応に必要となる 監視計器 監視項目			
1.4.2.3 運転停止中の場合 (2) サポート系機能療失時の手順等 a. 代替如心往水			
原子炉圧力容器内 の温度  原子炉圧力容器内 の温度  原子炉圧力容器内 の圧力  原子炉圧力容器内 の圧力  原子炉圧力容器内 の圧力  原子炉圧力容器内 の下力  原子炉圧力容器内 の木位 ・ 1次冷却材圧力計  原子炉圧力容器内 の木位 ・ 1次冷却材圧力計  原子炉圧力容器内 の木位 ・ 1次冷却系統水位計 ・ 1次冷却が終われた。・ 2を対しませる。・ 2を対しませる。 2	監視計器一覧 (4 1 / 5 0 ) <u>電大事故等の</u> 対応手段 対応に必要となる 監視計器 監視計器		
#機能型機能 (CRT)  ・	1.4.2.3 運転停止中の場合 (2) サポート海線型疾失吟の手順等 a. 代音炉心注水  - 1 次冷却村楽度 (広城一高温側) - 1 次冷却村楽度 (広城一高温側) - 1 次治却村楽度 (広城一低温側) - が心出り温度 - 加圧高水位  東子が圧力容易内 - 加圧高水位		
操作 1.4.2.1(2)a,(e)と同様。 監視計器一覧 (40/48)	(c) B - 光てんポンプ (自己冷却) による で か木佐 ・ 1 放布却半級ループ木佐 か ・ 1 放布却半級ループ木佐 原子伊正力容易内 ・ 代替格特容器 スプレイポンプ出口積算 ・ 水原の破保 ・ 然料取締用ポピット木佐 様 1、4.2.1(2) a、(b) i、と同様。		
対応手段 対応に必要となる 監視項目 1.4.2.3 運転停止中の場合 (2) サポート系機能喪失時の手順等	原子が圧力容器内 の温度 刊 原子が圧力容器内 ・ 加工器本位		
a. 代替が心注水  - 1 次冷却材高温側温度計 (広域) - 1 次冷却材高温側温度計 (広域) - 1 次冷却材低温側温度計 (広域) - 1 次冷却材圧力計 (広域) - 1 次冷却材圧力計 (原子炉圧力容器内の圧力 (原子炉圧力容器内の下力 (自己冷却) (RHRS-C S 逐路ライン使用) による代替炉心注水  - 1 次帝却不能水位計 (CRT) (原子炉圧力容器内の水位 (CRT) (京子炉圧力容器内の水位 (CRT) (京子が未産計 (CRT) (京子が上力容器内の水位 (CRT) (京子が上力容器内の水位 (CRT) (京子が上力容器内の水位 (CRT) (京子が上力容器内の水位 (CRT) (京子が上土) (京子が上土) (京子が高機冷却水供給母管流量計 (原子が高機冷却水供給母管流量計 (原子が高機冷却水供給母管流量計 (広域) (広域) (広域) (広域) (広域) (広域) (広域) (広域)	(d) B - 格納容報スプレイボンブ (自己帝和) (R HR S - C S S 連絡 ライン美用) による代替か心性水     ・ 1 次高雄系統ルーブ本位 原の出力部内 ・ 光てん流量 - 地域取製機能 ・ 光でんプイン圧力 ・ 素質の遺伝 ・ 地質型用水ビット水位       域     ・ 地質型は用水ビット水位 様       (本) 1.4.2.1(2) a. (c) ii. と回標。		
・			

		ドウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための 大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉 差異理由
対応である   株式   株式   株式   株式   株式   株式   株式   株			監視計器一覧 (42/50)	
# 13 から神が成体側が近くに対し	1.4.2.3 運転停止中の場合	対応に必要となる 監視項目 監視 監視 報報	対応半段 対応に必要となる 監視計器  1.4.2.3 運転停止中の子順等 (2) サポート系機能表大時の子順等	
### 1-3 (4) A, B, C1, C2, D1, D2時級担対	(g) ディーゼル消火ポンプ又は 電動消火ポンプによる代替	「原子炉圧力容器内 の温度     「原子炉圧力容器内 の圧力     「原子炉圧力容器内 の圧力     「原子炉圧力容器内 の圧力     「原子炉圧力容器内 の圧力     「原子炉圧力容器内 の圧力     「原子炉圧力容器内 の水位     「大冷が減れ位計     「原子炉圧力容器内 の水位     「大冷が減れ位計     「原子炉圧力容器内     「のされ最     「本週の確保     「No. 2淡水タンク水位計(CR)     「下が成れる。     「下のこれを     「下のこれを     「下のではれる。     「下のこれを     「下のではれる。     「下のこれを     「下のではれる。     「下のではれる。		
原子炉圧力容器内の温度	炉心往水	### (CRT)  **1 (4 ) A、B、C1、C2、D1、D2 母線定圧計 ・原子が補機合即水供給程管流量計 (CRT) ・原子切補機合卵水冷却器湧水液量計(CRT)		
	THE CASE OF THE PROPERTY OF TH	原子が圧力容器内 の温度  原子が圧力容器内 の圧力 原子が圧力容器内 の下力 原子が圧力容器内 の水位 原子が圧力容器内 の水位 ・1次冷却材圧力計 ・加圧器水位計 ・1次冷却系統水位計(CRT) 原子が圧力容器内 ・2次治却系統水位計(CRT) 原子が圧力容器内 ・4ー3(4)A、B、C1、C2、 D1、D2号容電圧計 ・原子が補機冷却水供給母管流量計 (CRT) ・原子が補機冷却水体均器海水流量 計(CRT)	対応手段 対応に必要となる 医視計器 (1.4.2.3 連転停止中の場合 (2) サポート系機能喪失時の手順等 a. 代替炉心注水	

泊発電所 3 号炉 技術的能力 比較表 r. 4.0

赤字: 設備, 運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字: 記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字: 記載表現, 設備名称の相違(実質的な相違なし)

1.4 原子が行為材圧ガバリンタリ版圧時に発電用原子がを行為するための 大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
泊3号炉との比較対象なし 泊3号炉との比較対象なし	第子が圧力容勢内 1次命和材温度(広葉一高編製) 1次命和材温度(広葉一高編製) 1次の和材温度(広葉一高編製) 2次の工作は度度 (京芸一名編製) 2次の工作に対象 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		設備の相違 (差異理由③) 設備の相違 (差異理由③)

泊発電所 3 号炉 技術的能力 比較表 r. 4.0

赤字: 設備, 運用又は体制の相違(設計方針の相違) 青字: 記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字: 記載表現, 設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉 泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
表記計器一覧 (43/48)	意义偏见	#の相違 を異理由®)

大	、飯発電所3/4	号炉	泊	発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
監視計器一覧 (44/48) 対応手段  1.4.2.8 運転停止中の場合 (2) サポート系機能喪失時の手順 b. 代替再循環運転 (b) 運転停止中において原う  i. B高圧注入ポンプ (海水冷 却) による高圧代替再循環運転	重大事故等の 対応に必要となる 監視項目	監視計器  発生した場合 ・1 次冷却材高温側温度計 (広域) ・1 次冷却材低温側温度計 (広域) ・炉心出口温度計 ・1 次冷却材圧力計 ・加圧器太位計 ・1 次冷却材圧力計 ・格納容器再循環サンプ水位計 (広域) ・A 余熱除去液量計 ・原子炉箱機冷却水供給母管流量計 (CRT) ・原子炉箱機冷却水冷却器海水液量計 (CRT) ・原子炉箱機冷却水冷却器海水流量計 (CRT) ・原子炉箱機冷却水冷却器海水流量計 (BRT) ・A 余熱除去ポンプ吐出圧力計 ・B 高圧注入ポンプ電動機冷却水流量計 ・B 高圧注入ポンプ冷却水流量計	監視計器一覧 (45/50)  対比手段  1.4.2.3 運転停止中の場合 (2) サポート系機能疾失時の手順等 b. 代評可健康基础 (b) 運転停止中に対いて原子が嫌機  「、A一高圧住人ポンプ (商水冷却) による高圧代勢両循環運転	重大事故等の 対応に必要となる を役項目	女川発電所 2 号炉	差異理由

		発電所3/4	岩原 オティング かんかん かんかん おおかん というしょ かんしょう しゅうしゅう しゅう		泊発	電所3号	i	女川発電所 2 号炉	差異理由
監視計器一覧(45/48)									
対応手段		重大事故等の 対応に必要となる	監視計器	監視計器一覧(46/50)					
1.4.2.3 運転停止中の場合 (2) サポート系機能喪失時の手	順等	監視項目				重大事故等の	5 聖視計器		
c. 蒸気発生器 2 次側による炉	心冷:	却 (注水) 原子炉圧力容器内 の温度	・1次冷却材高温側温度計(広域) ・1次冷却材低温側温度計(広域) ・炉心出口温度計	対応手段 1.4.2.3 運転停止中の場合 (2) サポート系機能喪失時の手順等 c. 蒸気発生器 2 次側による炉心箱	(計)	対応に必要とな 整復項目 主木) 原子炉圧力容器F			
		原子炉圧力容器内 の圧力	・1次冷却材圧力計			原子が圧力容易で の選度 原子が圧力容易で への往水量	<ul> <li>1次冷却材温度(広葉-低温側)</li> </ul>		
	判断基準	原子炉圧力容器内 への注水量	• 余熟除去流量計		<b>41</b>	水源の確保 補機監視機能	<ul><li>・ 補助給水ビット水位</li><li>・ 余熱除去ポンプ出口圧力</li></ul>		
又は電動補助給水ポンプに		水源の確保電源	<ul> <li>復水ピット水位計</li> <li>4-3(4)A,B,C1,C2、</li> </ul>	(a) タービン動権助給水ポンプ又は 電動補助給水ポンプによる 蒸気発生器への注水	斯基準		<ul> <li>・ 余熱除去ボンブ電流</li> <li>・ 泊幹線 1 L、 2 L電圧</li> <li>・ 後志幹線 1 L、 2 L電圧</li> </ul>		
よる蒸気発生器への注水		補機監視機能	D1、D2母絲電圧計  ・原子炉補機冷却水供給母管流量計	無処理主義へのは水		電源	<ul> <li>甲母線電圧, 乙母線電圧</li> <li>6-A, B, C1, C2, D件線電圧</li> </ul>		
			(CRT) ・原子炉補機冷却水冷却器海水流量 計(CRT)			帕接監视機能	<ul> <li>原子炉箱機冷却水供給母管流量</li> <li>原子炉箱機冷却水冷却器箱機冷却海水流量</li> </ul>		
			・余熱除去ポンプ吐出圧力計		操作	1, 4, 2, 2(1) a , (	a) ii. と同様。		
	操作	1.4.2.2(1)a.(a)と同様	Ř.		19]	原子炉圧力容器 の湿度	9 · 1次冷却材温度(広城一高温側) • 1次冷却材温度(広城一低温側)		
D					斯基準	最終セートシン: の確保	- 蒸気発生器水位(狭城) - 蒸気発生器水位(広城)		設備の相違 (差異理由④)
泊3号灯	戸。	との比較	対象なし	(b) SG直接給水用高圧ポンプによる 蒸気発生器への注水		水類の確保	<ul><li>・ 適助給水流量</li><li>・ 補助給水ビット水位</li></ul>		(EACH)
					操作	「1.2 原子炉油 冷却するための 給水用高圧ポンフ	a材圧カバウンダリ森圧時に発電用原子炉を F順等」のうち、1.2.2.1(2) b. 「SG直接 パによる蒸気発生器への注水」にて整備す		
				,					

1.4	原子炉冷却材压力	バウンダリ低	E時に発電用原一	子炉を冷却する	ための手順等
-----	----------	--------	----------	---------	--------

原子炉	泊発電所 3 号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
原子炉圧力容器內 1次冷却材高温侧温度計(広域) 1次冷却材低温侧温度計(広域)	(2) 海太平田の連合 (2) サポート (3) 大学 (3) 大学 (4 7 / 5 0 )		差異理由 設備の相違 (差異理由④) 設備の相違 (差異理由④)

赤字:設備,運用又は体制の相違(設計方針の相違)

青字:記載箇所又は記載内容の相違(記載方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違(実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所 2 号炉	差異理由
大飯発電所3/4号炉  監複計器一覧(46/48)  重大事故等の 対応手段 対応必要となる 監視項目  1.4.2.3 運転停止中の場合 (2) サポート系機能喪失時の手順等	治発電所 3 号炉 監視計器 一覧 (48/50) 対応平義 対応に必要となる 監視計器 は、42.3 運転停止中の場合 (2) サポート系機能喪失時の手順等 は、第気売生得2次側による切ら治域(製気放出) (2) サポート系機能喪失時の手順等 は、第気売生得2次側による切ら治域(製気放出)	女川発電所 2 号炉	差異理由
d. 蒸気発生器 2 次側による炉心冷却 (蒸気放出)	の温度 1次の対対温度 (広城・松温側)		, I
(a) 主蒸気速がし奔(現場手動操作) による蒸気放出 (1.3 原子が圧力容器内の混度 (2.3 高気を生みない) (2.4 高度) (3.4 高度) (3.4 高度) (3.4 高度) (4.5	原子が圧力等等内への作生業  最終レートシンク の確保・トシンク の確保・トシンク の確保・トシンク の確保・トシンク ・ 権勢和水流量  ・ 衛展出ポンプ担ロ圧力 ・ 余無由ポンプ電度 ・ 印学報刊 L、21電圧 ・ 現本幹録1 L、21電圧 ・ 日本幹程 L、21電圧 ・ 中年課電圧、工作業電圧 ・ 原子が補機冷却水池均野改量 ・ 原子が補機冷却水池均野改量 ・ 原子が補機冷却水池均野改量 ・ 原子が補機冷却水池均野流量 ・ 原子が補機冷却水池均野流量 ・ 原子が補機冷却水池均野流過冷が流 ・ 原子が補機冷却水池均野流過冷が洗 ・ 原子が補機冷却水池均野流過冷が洗 ・ 原子が補機冷却水池均野流過冷が洗 ・ 原子が補機冷却水池対野補洗冷却流水 ・ 原子が補機冷却水池対野補洗冷却流水 ・ 原子が補機冷却水池が開発が出からかの手順 ・ 原子が補機冷却水池対野であります。  ・ 原子が補機冷却水池が開発が出まれる対路・ 原理・ 原理・ 原理・ 原理・ 原理・ 原理・ 原理・ 原理・ 原理・ 原理		